SONY

マルチチャンネルAVレシーバー　STR-DN1060

各部名称

本体

リモコン

準備する

1. スピーカーを設置する

2. スピーカーを接続する

3. テレビを接続する

4. AV機器／アンテナを接続する

5. ネットワークに接続する

6. 電源を入れる／リモコンを準備する

7. かんたん設定を使って初期設定を行う

自動音場補正について

映像や音源を楽しむ

AV機器を再生する

iPhone/iPad/iPodのコンテンツを再生する

USB機器のコンテンツを再生する

ラジオを聞く

音響効果を楽しむ

モバイル機器の画面をテレビに映す（スクリーンミラーリング）

ネットワーク機能を使う

ネットワーク機能について

有線LAN接続の設定をする（有線LANに接続する場合のみ）

無線LAN接続の設定をする（無線LANに接続する場合のみ）

ホームネットワークのサーバー内にあるコンテンツを楽しむ

BLUETOOTH機能を使う

BLUETOOTH機能について

BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

BLUETOOTHヘッドホンなどに送信して音声を聞く

スマートフォンやタブレットなどでAVレシーバーを操作する（SongPal）

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能について

他の部屋（ゾーン2、ゾーン3）に設置したスピーカーからの音源を楽しむ

他の部屋（ゾーン2）に設置したもう1台のアンプにつないで楽しむ

もう1台のテレビやレシーバーを使って他の部屋で映像や音楽を楽しむ

その他の機能を使う

ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”機能）

映像や音声の設定をする

さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

スリープタイマーを使う

情報を確認する

設定を調節する

かんたん設定

スピーカー設定

音声設定

映像設定

HDMI設定

入力設定

ネットワーク設定

BLUETOOTH設定

ゾーン設定

システム設定

表示窓のメニューを使う

お買い上げ時の設定に戻す

困ったときは

エラーメッセージ

全体

映像

音声

チューナー

iPhone/iPad/iPod

USB機器

ネットワーク接続

ホームネットワーク

AirPlay

BLUETOOTH機器

“ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

リモコン

解決しないときは

その他

商標について

---

[1] 各部名称 ｜ 本体

本体前面（上部）

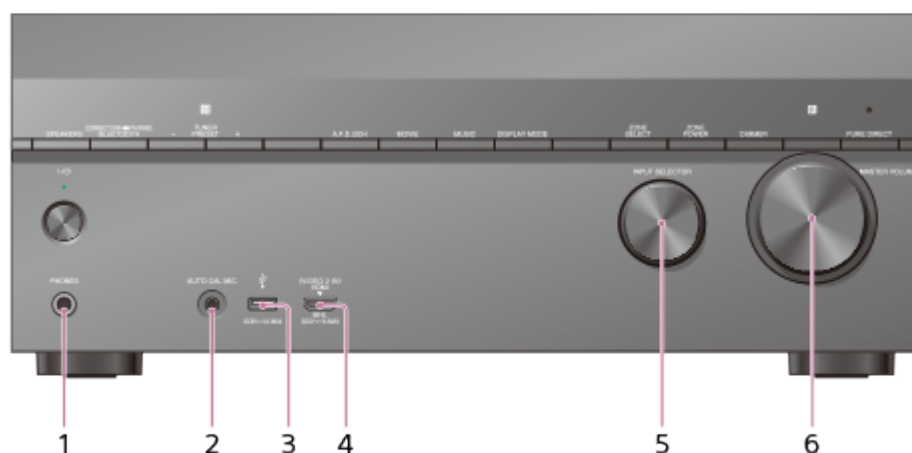
---

1. I/⏻（電源オン／スタンバイ）
2. **電源ランプ**
3. **SPEAKERS**
   使用したいフロントスピーカーシステムを選びます。
4. **CONNECTION PAIRING BLUETOOTH**
   BLUETOOTH機能を操作します。
5. **TUNER PRESET +/–**
   プリセットしたFMチューナーの放送局を選びます。
6. **NFCセンサー**
7. **A.F.D./2CH、MOVIE、MUSIC**
   お好みのサウンドフィールドを選びます。
8. **表示窓**
9. **DISPLAY MODE**
   表示窓に情報を表示します。
10. **ZONE SELECT、ZONE POWER**
    ゾーン機能を楽しむときに使います。
11. **DIMMER**
    表示窓の明るさを3段階で調整します。
12. **リモコン受光部**
    リモコンからの信号を受信します。
13. **PURE DIRECT**
    ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。

---

[2] 各部名称 ｜ 本体

本体前面（下部）

---

1. **PHONES端子**
   ヘッドホンをつなぎます。
2. **AUTO CAL MIC端子**
3. **ψ（USB）ポート**
4. **HDMI/MHL（VIDEO 2 IN）端子**
   VIDEO 2 IN端子はMHL 2に対応しています。
5. **INPUT SELECTOR**
   入力を切り替えます。
6. **MASTER VOLUME**
   音量を調節します。

---

[3] 各部名称 ｜ 本体

電源オン／スタンバイボタン上のランプ

- 緑色：電源が入っている状態
- オレンジ色：スタンバイ状態で
  - ［HDMI機器制御］、［リモート起動］、［Bluetoothスタンバイ］（＊）および［高速起動/ネットワークスタンバイ］が［入］に設定されている場合
  - ［スタンバイスルー］が［入］または［自動］に設定されている場合
  - ゾーン2、ゾーン3またはHDMIゾーンのアンプの電源が入っている場合

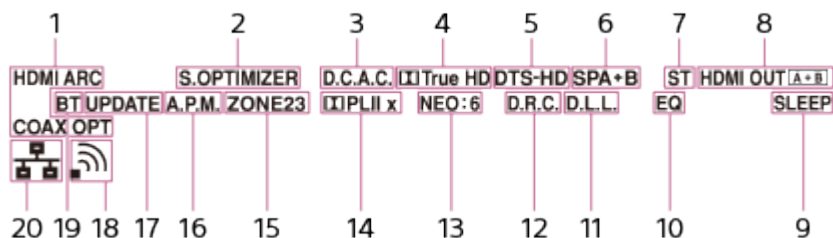
スタンバイ状態で、［HDMI機器制御］、［スタンバイスルー］、［リモート起動］、［Bluetoothスタンバイ］（＊）および［高速起動/ネットワークスタンバイ］が［切］に設定され、すべてのゾーンのアンプの電源が［切］に設定された場合、ランプは消灯します。

＊ ［Bluetoothスタンバイ］が有効に設定されている場合、すでにペアリング済みの機器が接続された場合のみ、オレンジ色に点灯します。ペアリングされた機器がない場合は、スタンバイ状態のときランプは消灯します。

---

[4] 各部名称 ｜ 本体

表示窓上のインジケーター

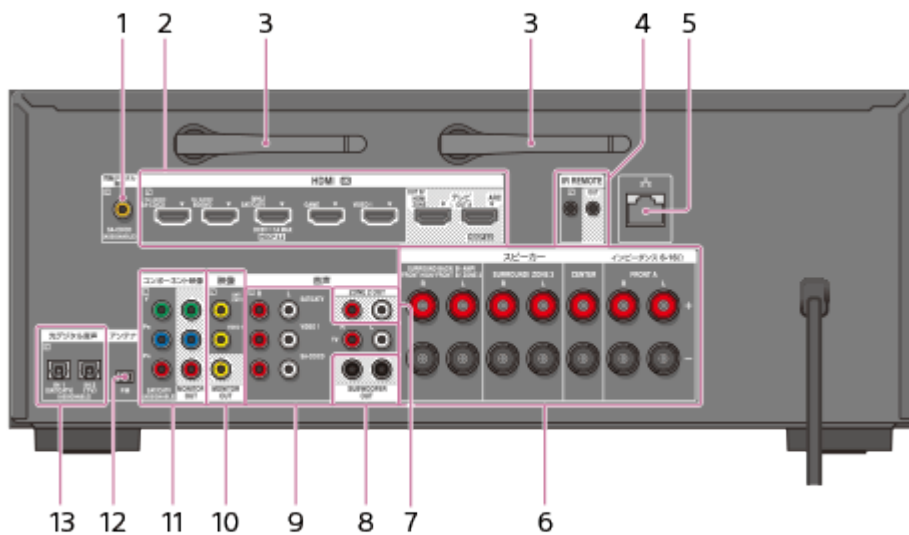
---

1. **入力表示**
   現在AVレシーバーに入力されている信号を点灯表示します。
   HDMI
   HDMI IN端子につないだ機器をAVレシーバーが認識しています。
   ARC
   テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が検出されています。
   COAX
   デジタル信号が同軸デジタル音声端子から入力されています。
   OPT
   デジタル信号が光デジタル音声端子から入力されています。
2. **S.OPTIMIZER**
   サウンド・オプティマイザーが働いているときに点灯します。
3. **D.C.A.C.**
   自動音場補正機能の測定結果が適用されているときに点灯します。
4. **ドルビーデジタルサラウンド表示**
   対応するドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。
   DD： Dolby Digital（ドルビーデジタル）
   DDTrueHD： Dolby TrueHD
5. **DTS（-HD）表示**
   対応するDTSフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。
   DTS： DTS
   DTS-HD： DTS-HD
6. **スピーカーシステム表示**
   使用しているフロントスピーカーシステムが表示されます。
7. **チューニング表示**
   ST
   ステレオ放送局を受信すると点灯します。
8. **HDMI OUT A + B**
   2台のモニターをつないでいるとき、リモコンのHDMI OUTPUTボタンで選んだ出力が点灯します。
9. **SLEEP**
   スリープタイマーが働いているときに点灯します。
10. **EQ**
    イコライザーが働いているときに点灯します。

11. **D.L.L.**
デジタル・レガート・リニアが働いているときに点灯します。
12. **D.R.C.**
ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。
13. **NEO:6**
DTS Neo:6 Cinema/Musicデコーダーが働いているときに点灯します。
14. **ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジック処理をしているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張できます。
PL： Dolby Pro Logic
PLII： Dolby Pro Logic II
PLIIx： Dolby Pro Logic IIx
15. **ZONE、ZONE2、ZONE3**
ゾーン2、ゾーン3のいずれか、または両方の電源が入っているときに該当するゾーンが点灯します。 HDMIゾーンの電源が入っているときに、ZONEとHDMI OUTが点灯します。
16. **A.P.M.**
自動位相マッチング（A.P.M.）機能が働いているときに点灯します。
D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能では、自動位相マッチング機能のみを設定できます。
17. **UPDATE**
新しいソフトウェアをダウンロード可能なときに点灯します。
18. **無線LAN 信号強度表示**
無線LAN信号の強度を示します。
：信号がありません。
：弱い信号強度です。
：適度な信号強度です。
：強い信号強度です。
19. **BT**
BLUETOOTH機器との接続が完了すると点灯します。接続操作中は点滅します。
20. **有線LAN 表示**
LANケーブルが接続されているときに点灯します。

---

[5] 各部名称 ｜ 本体

本体後面

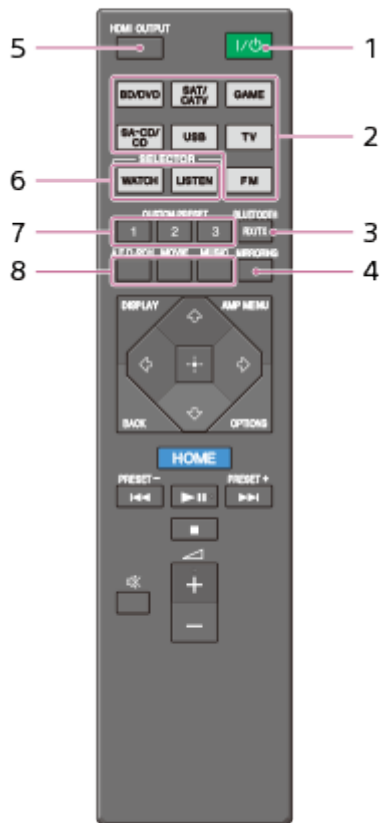
---

1. **同軸デジタル音声端子**
2. **HDMI IN/OUT（＊）端子**
   SAT/CATV端子はMHL 3に対応しています。
3. **無線LANアンテナ**
4. **IR REMOTE IN/OUT端子**
   - IRリピーター（別売）をIR REMOTE IN端子につなぐと、離れた場所からAVレシーバーを操作できます。
   - AVマウス（別売）をIR REMOTE OUT端子につなぐと、AVレシーバーに接続したCDプレーヤーなどの機器を再生または停止できます。
5. **LANポート**
6. **スピーカー端子**
7. **ZONE 2 OUT端子**
8. **SUBWOOFER OUT端子**
9. **音声 IN端子**
10. **映像 IN/MONITOR OUT（＊）端子**
11. **コンポーネント映像 IN/MONITOR OUT（＊）端子**
12. **FM アンテナ端子**
13. **光デジタル音声 IN端子**

＊ これらの入力端子から入力した映像を見るには、それぞれの入力に応じた出力端子にテレビをつないでください。

- **HDMI IN端子から入力した映像の場合：**
  HDMI OUT A（テレビ）またはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子
- **映像 IN端子から入力した映像の場合：**
  映像 MONITOR OUT端子
- **コンポーネント映像 IN端子から入力した映像の場合：**
  コンポーネント映像 MONITOR OUT端子

本機とテレビの接続について詳しくは「テレビを接続する」をご覧ください。

リモコン（上部）

付属のリモコンを使ってAVレシーバーを操作してください。

1. I/⏻（電源オン／スタンバイ）
   本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

   ## スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

   以下のとおり設定すると、電力消費を抑えられます。
   - ［HDMI機器制御］、［リモート起動］、［Bluetoothスタンバイ］および［高速起動/ネットワークスタンバイ］を［切］にする。
   - ゾーン2、ゾーン3あるいはHDMIゾーンの電源を切る。
2. **入力切り替え用ボタン**
   使用する機器を選びます。
   入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。
3. **BLUETOOTH RX/TX**
   AVレシーバーのBLUETOOTHモードを切り替えます。（BLUETOOTH機能またはスクリーンミラーリング機能を使っている間は、操作は無効になります。）
   BLUETOOTH RX（受信）モードを選んだときは、AVレシーバーでリモート機器からの音声を受信し、出力することができます。
   BLUETOOTH TX（送信）モードを選んだときは、AVレシーバーからリモート機器へ

音声を送信することができます。

4. **MIRRORING**
   スクリーンミラーリングを開始します。
5. **HDMI OUTPUT**
   HDMI OUT A（テレビ）およびHDMI OUT B/HDMI ZONEにつないだ2台のモニターを切り替えられます。ボタンを押すたびに、［HDMI A］、［HDMI B］、［HDMI A+B］そして［HDMI OFF］（出力しない）の順で出力が切り替わります。HDMI OUT A（テレビ）またはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子からの出力を切るには［HDMI OFF］（出力しない）を選びます。
6. **WATCH、LISTEN**
   ホームメニューから直接［Watch］または［Listen］を選びます。
   WatchまたはListen画面でこれらのボタンを押すと、フォーカスを動かしてお好みの入力を選べます。
7. **CUSTOM PRESET（1、2、3）**
   AVレシーバーの各種設定を保存、呼び出します。ボタンを短く押して、プリセット登録したカスタム設定を呼び出します。長押しすると現在の設定をプリセット登録します。
8. **A.F.D./2CH、MOVIE、MUSIC**
   音場（サウンドフィールド）を選びます。

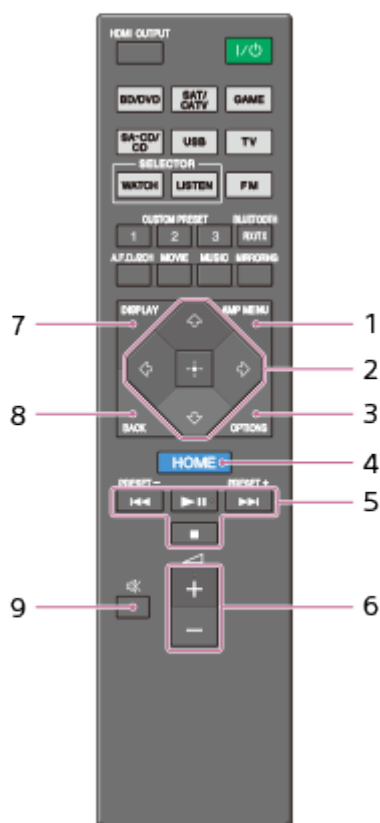
ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

---

[7] 各部名称 ｜ リモコン

リモコン（下部）

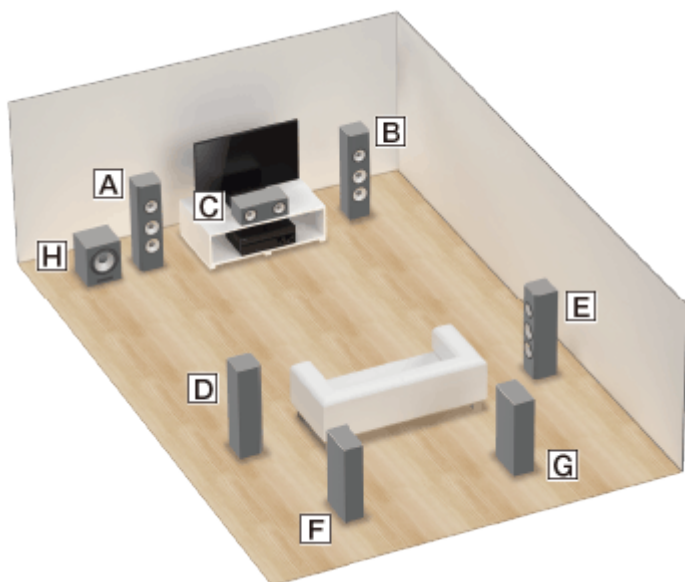
付属のリモコンを使ってAVレシーバーを操作してください。

1. **AMP MENU**
   AVレシーバーを操作するためのメニューを表示します。
2. ⊕、⇧/⇩/ ⇦/⇨
   ⇧/⇩/ ⇦/⇨を押してメニュー項目を選び、⊕を押して決定します。
3. **OPTIONS**
   オプションメニューを表示させて、項目を選びます。
4. **HOME**
   テレビ画面にホームメニューを表示させます。
5. ⏮/⏭、►II （*）、■
   スキップ、再生、一時停止、停止の操作をします。
   PRESET＋/–
   プリセットした放送局やチャンネルを選びます。長押しすると、自動的に放送局をスキャンします。
6. ⊿ ＋ （*）/–
   音量を調節します。
7. **DISPLAY**
   テレビ画面に情報を表示します。
8. **BACK**
   メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。
9. 🔇
   一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

* ►IIおよび⊿＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。 操作するときの目印としてお使いください。

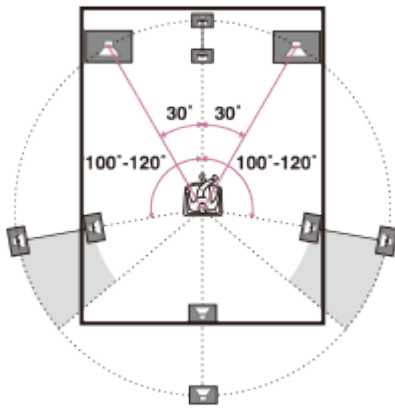
ご注意

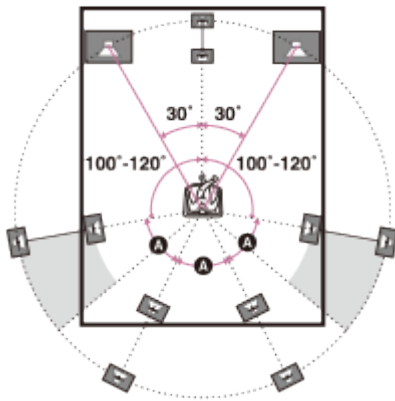
- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

DVDやブルーレイソフトに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。

A **フロントスピーカー（左）**
B **フロントスピーカー（右）**
C **センタースピーカー**
D **サラウンドスピーカー（左）**
E **サラウンドスピーカー（右）**
F **サラウンドバックスピーカー（左）**
G **サラウンドバックスピーカー（右）**
H **アクティブサブウーファー**

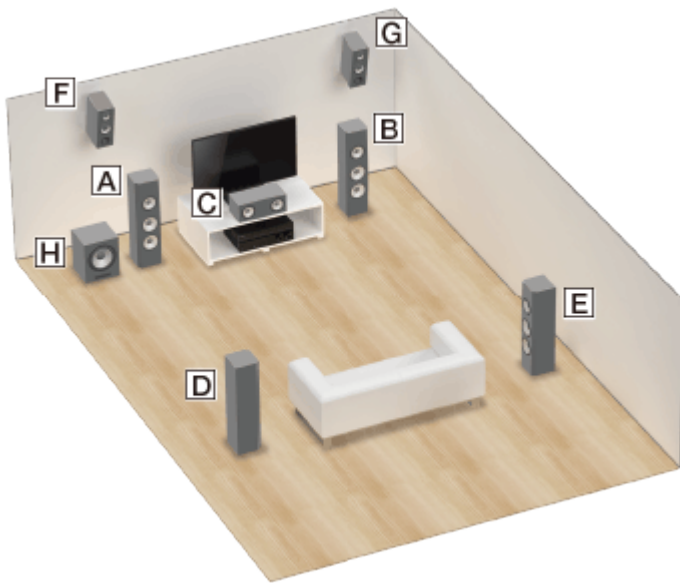
6.1チャンネルの配置を使うときは

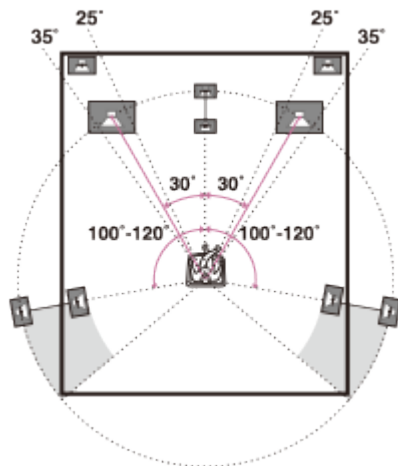
以下の図は、サラウンドバックスピーカーが1本のみの配置例です。サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに配置します。

7.1チャンネルの配置を使うときは

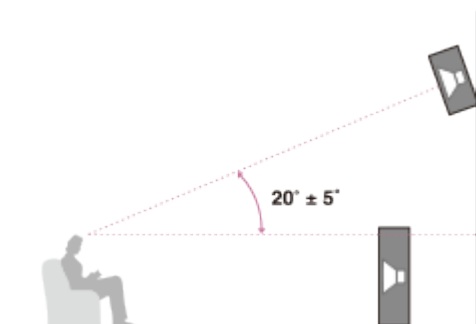
以下の図のように、サラウンドバックスピーカーを配置します。Ⓐの角度が等しくなるように配置します。

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

7.1チャンネルスピーカーシステムを設置する（フロントハイスピーカーをつなぐ場合）

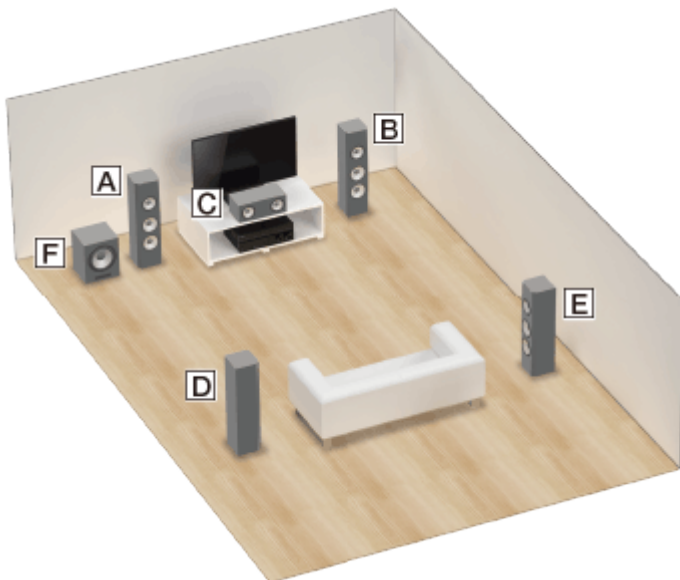
2本のフロントハイスピーカーを接続し、垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F フロントハイスピーカー（左）
G フロントハイスピーカー（右）
H アクティブサブウーファー

1. フロントハイスピーカーを25°から35°の角度に配置します。

2. フロントハイスピーカーを20° ± 5°の高さに配置します。

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[10] 準備する ｜ 1. スピーカーを設置する

5.1チャンネルスピーカーシステムを設置する

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。

A **フロントスピーカー（左）**
B **フロントスピーカー（右）**
C **センタースピーカー**
D **サラウンドスピーカー（左）**
E **サラウンドスピーカー（右）**
F **アクティブサブウーファー**

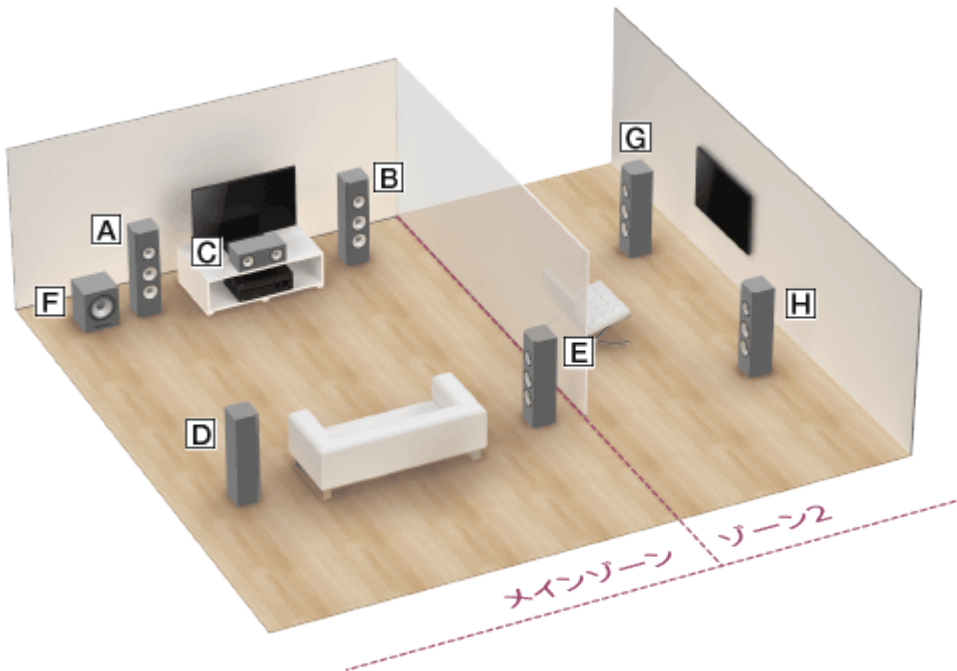
ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

[11] 準備する ｜ 1. スピーカーを設置する

別の部屋（ゾーン2、ゾーン3）にスピーカーを設置する

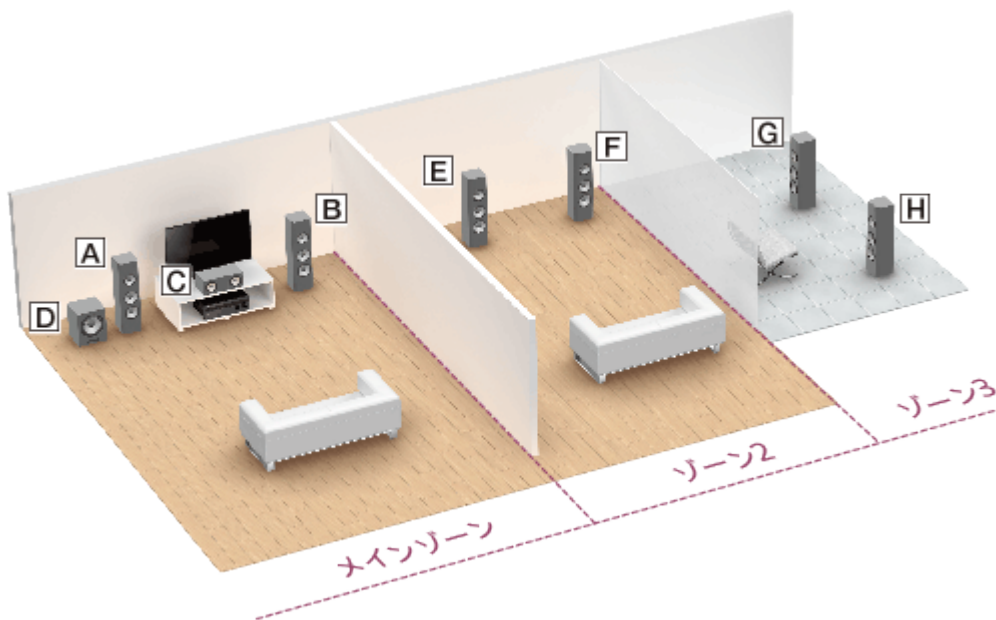
メインゾーンとゾーン2で音声を聞くときは

メインゾーンのスピーカーを5.1チャンネルの配置で接続しているときは、ゾーン2スピーカーを追加することにより、音声を別の部屋（「ゾーン2」）で聞くことができます。

A **フロントスピーカー（左）**
B **フロントスピーカー（右）**
C **センタースピーカー**
D **サラウンドスピーカー（左）**
E **サラウンドスピーカー（右）**
F **アクティブサブウーファー**
G **ゾーン2のスピーカー（左）**
H **ゾーン2のスピーカー（右）**

ヒント

- アクティブサブウーファーから出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

メインゾーンとゾーン2、ゾーン3で音声を聞くときは

メインゾーンのスピーカーを3.1チャンネルの配置で接続しているときは、ゾーン2およびゾーン3スピーカーを追加することにより、音声を別の部屋（「ゾーン2」と「ゾーン3」）で聞くことができます。

A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D アクティブサブウーファー
E ゾーン2のスピーカー（左）
F ゾーン2のスピーカー（右）
G ゾーン3のスピーカー（左）
H ゾーン3のスピーカー（右）

---

[12] 準備する ｜ 2. スピーカーを接続する

スピーカーを接続する

各スピーカーを下図のようにつないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「スピーカーケーブルのつなぎかた」をご覧ください。

Ⓐ モノラル音声ケーブル（別売）
Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

＊ オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

＊＊ スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子接続についてご注意

- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用するときは、この端子のL（+/-）側につないでください。
- フロントスピーカーシステムを追加するときは、これらの端子につないでください。この場合は、以下の操作を行ってください。
  1. スピーカー設定メニューから［スピーカーパターン］を選び、テレビ画面に表示される以下のいずれかのスピーカーパターンを選び、［保存］を選びます。
     3/2.1、 3/2、2/2.1、2/2、3/0.1、3/0、2/0.1または 2/0
  2. スピーカー設定メニューの［サラウンドバックスピーカー割り当て］を［フロントB］に設定します。
     本体のSPEAKERSボタンでお好みのフロントスピーカーシステムを選べます。
- バイアンプ接続でこの端子にフロントスピーカーをつなぐことができます。この場合は、スピーカー設定メニューの［サラウンドバックスピーカー割り当て］を［バイアンプ］に設定してください。

ご注意

- スピーカーの設置および接続後は、必ずスピーカー設定メニューの［スピーカーパター

ン］を使ってお好みのスピーカーパターンを選んでください。

別の部屋（ゾーン2、ゾーン3）のスピーカーを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、AVレシーバーにつないだ機器の音源を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2ではCDを聞くことができます。

ゾーン2にスピーカを設置し、各スピーカーを下図のようにスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「スピーカーケーブルのつなぎかた」をご覧ください。

ゾーン2のスピーカーを接続する

A スピーカー
B スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- このゾーン2接続を使うときは、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の設定を行う必要があります。
- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

ゾーン3のスピーカーを接続する

A スピーカー
B スピーカーケーブル（別売）

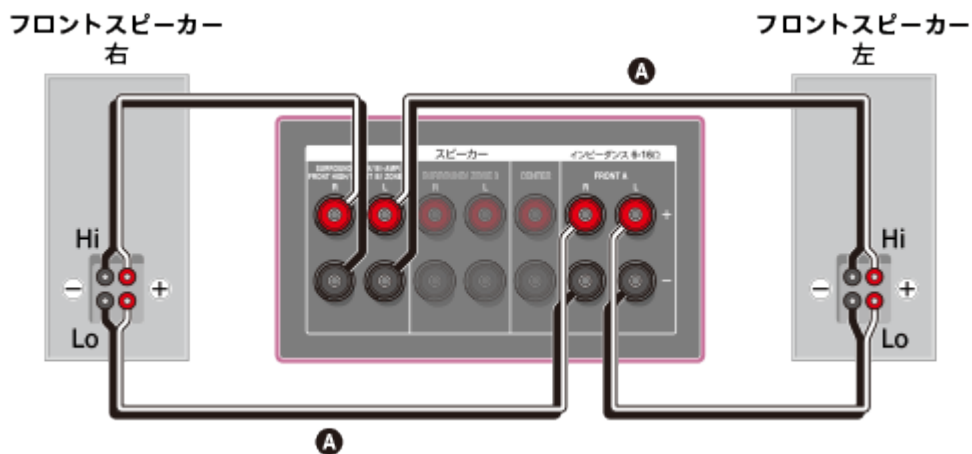
ご注意

- このゾーン3接続を使うときは、スピーカー SURROUND/ZONE 3端子の設定を行う必要があります。
- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン3のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン3のスピーカーから出力できません。

---

[14] 準備する ｜ 2. スピーカーを接続する

バイアンプ接続を使う

バイアンプ接続を利用して、複数のアンプをツイーターとウーファーの両方に接続することで、より高音質の再生を楽しむことができます。
サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを使用していない場合は、バイアンプ接続でフロントスピーカーをスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につなぐことができます。

Ⓐ スピーカーケーブル（別売）

フロントスピーカーのLo（またはHi）側の端子をスピーカー FRONT A端子につなぎ、フロントスピーカーのHi（またはLo）側の端子をスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につなぎます。故障を防ぐため、それぞれのスピーカーに付いているHi/Loのショート金具を必ず外してください。

バイアンプ接続が完了したら、スピーカー設定メニューの［サラウンドバックスピーカー割り当て］を［バイアンプ］に設定してください。

ご注意

- サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンに設定されている場合のみ、［サラウンドバックスピーカー割り当て］を設定できます。

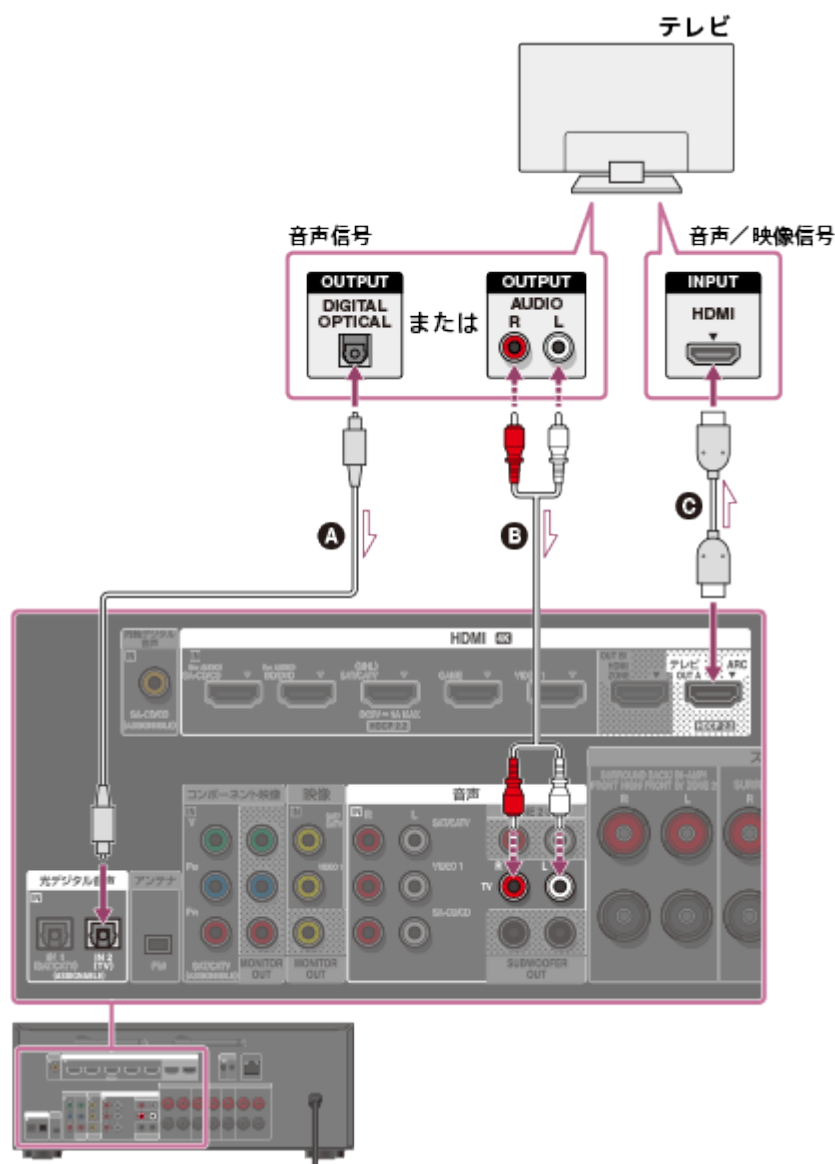
---

[15] 準備する ｜ 3. テレビを接続する

テレビを接続する

HDMI OUTまたはMONITOR OUT端子にテレビをつなぎます。テレビ画面に表示されるメニューを使って操作できます。メニューはHDMI OUT A（テレビ）端子につないでいる場合のみ使えます。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能非対応のテレビにつなぐ

実線は音声信号の推奨接続、破線は音声信号の代替接続を示しています。すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。音声／映像信号について、HDMI接続が必要です。

A 光デジタルケーブル（別売）

B 音声ケーブル（別売）

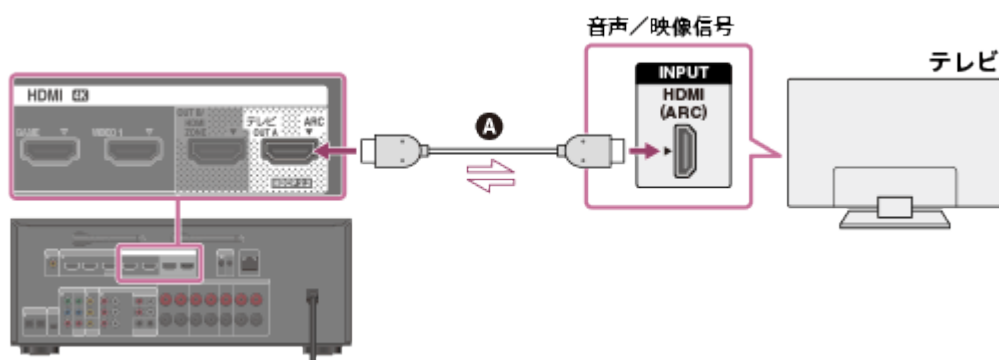
C HDMIケーブル（別売）

HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをお使いください。

HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビにつなぐ

一本のHDMIケーブルをつなぐだけで、AVレシーバーに接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。AVレシーバーからは音声／映像信号が同時に送れます。

Ⓐ HDMIケーブル（別売）
HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをお使いください。

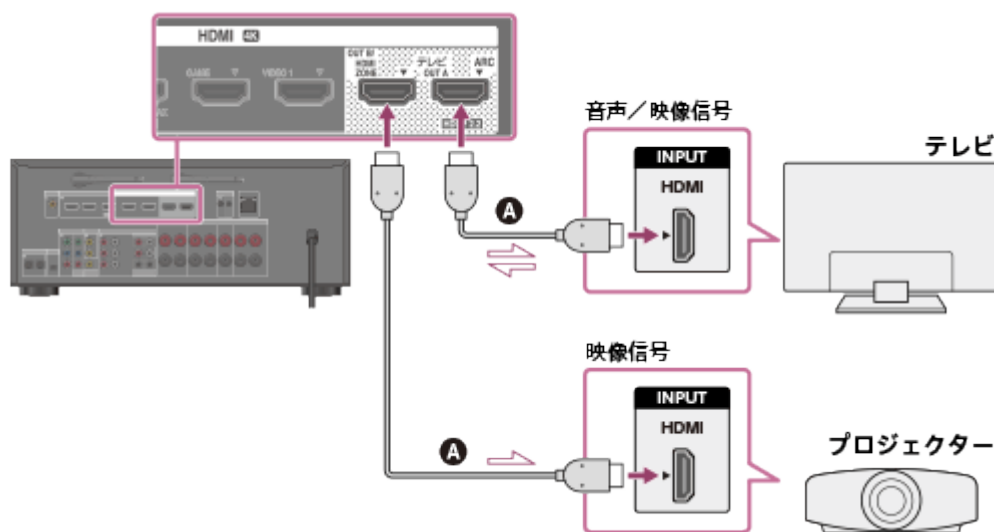
ご注意

- この接続でお使いになるには、HDMI機器制御機能を有効に設定する必要があります。HOMEを押して、ホームメニューを表示し、［Setup］-［HDMI設定］を選び、［HDMI機器制御］を［入］に設定してください。

ヒント

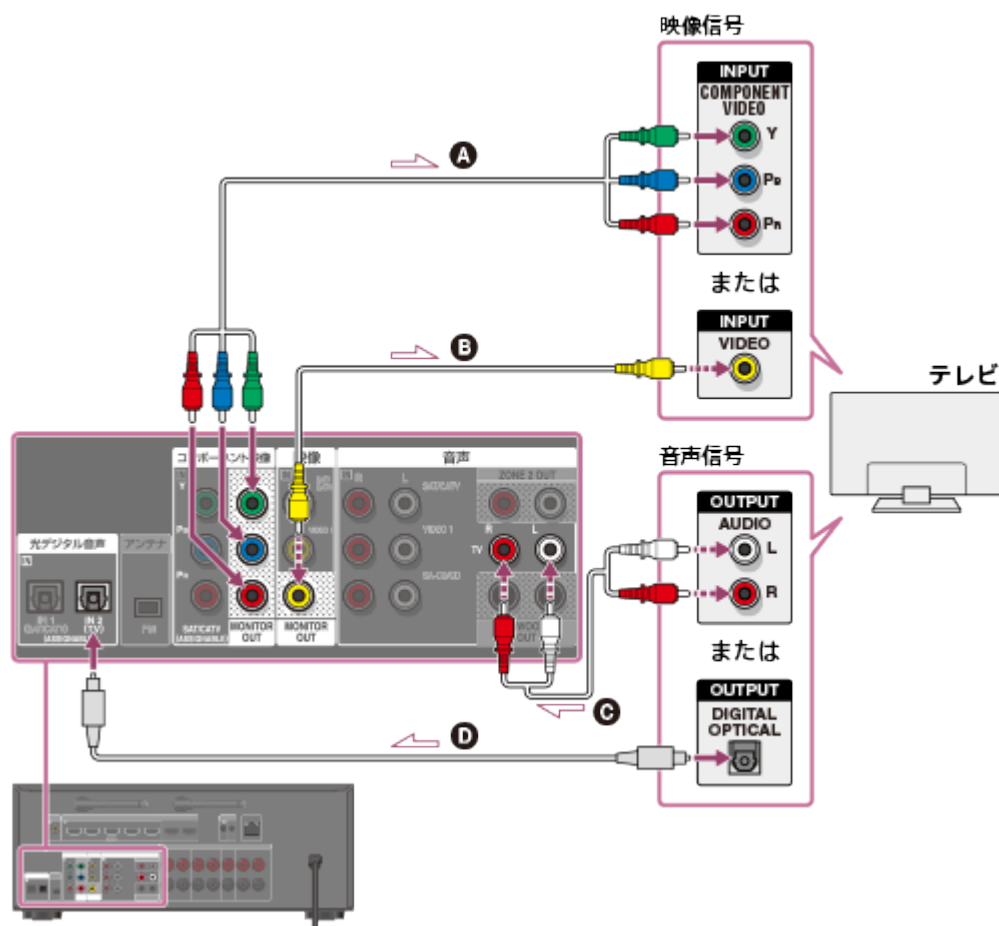
- テレビのHDMI端子（「ARC」表示のある端子）がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、AVレシーバーに接続しなおしてください。

テレビとプロジェクターを接続する

Ⓐ HDMIケーブル（別売）
HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをお使いください。

ご注意

- この接続でお使いになるには、HDMI設定メニューの［HDMI出力Bモード］を［メイン］に設定してください。

HDMI端子がないテレビにつなぐ

音声／映像信号の接続について、実線は推奨接続、破線は代替接続を示しています。すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。

Ⓐ **コンポーネント映像ケーブル（別売）**
Ⓑ **映像ケーブル（別売）**
Ⓒ **音声ケーブル（別売）**
Ⓓ **光デジタルケーブル（別売）**

ご注意

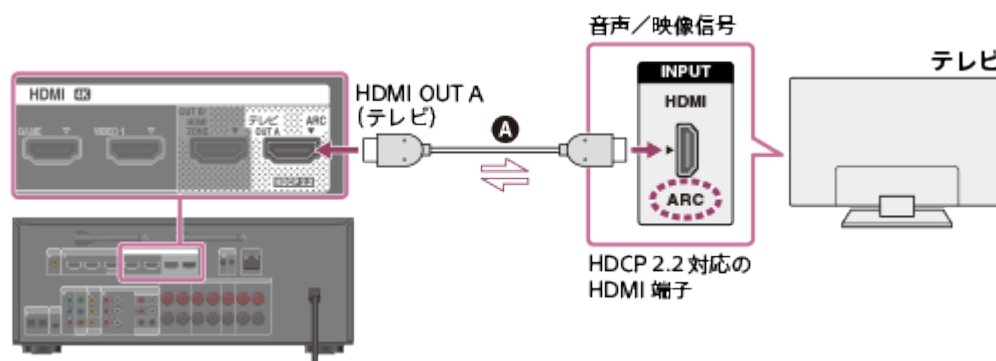
- テレビモニターまたはプロジェクターをAVレシーバーのHDMI OUT A（テレビ）、HDMI OUT B/HDMI ZONEまたはMONITOR OUT端子につないでください。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナをAVレシーバーからさらに離れたところに設置してください。
- 光デジタルケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- テレビをTV IN端子につなぐときは、テレビの音声出力端子が［固定］または［可変］で切り替え可能な場合、［固定］に設定してください。

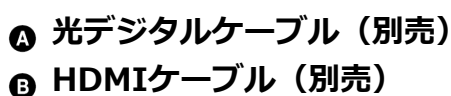
4Kテレビを接続する

AVレシーバー後面のすべてのHDMI端子は4Kの解像度に対応しています。HDMI IN SAT/CATV (MHL)、HDMI OUT A（テレビ）のHDMI端子はHDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に対応しています。
4KコンテンツなどのHDCP 2.2対応の著作権保護されたコンテンツを見る場合は、これらの端子を、テレビのHDCP 2.2 対応のHDMI端子につなぎます。お使いのテレビのどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビのARC表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応している場合（*）

Ⓐ **HDMIケーブル（別売）**

* ARC（オーディオリターンチャンネル）機能はHDMIケーブルを使って、デジタル音声をテレビからAVレシーバーに送信します。

HDCP 2.2対応の著作権保護されたコンテンツをARC表示があるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していないテレビで見たい場合

テレビのARC表示のあるHDMI端子がHDCP 2.2に対応していない場合、HDMIケーブルを使って、AVレシーバーをテレビのHDCP 2.2対応HDMI入力端子につないでください。この場合、デジタル音声を聞くためにテレビの光デジタル音声出力端子に光デジタル音声ケーブルをつないでください。

A 光デジタルケーブル（別売）
B HDMIケーブル（別売）

---

[17] 準備する ｜ 3. テレビを接続する

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。スタンダードHDMIケーブルの場合、1080p、Deep Color、4Kまたは3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D

機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタルケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

入力の再割り当てを行ってください。

---

[18] 準備する ｜ 3. テレビを接続する

HDMI接続について

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”対応機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

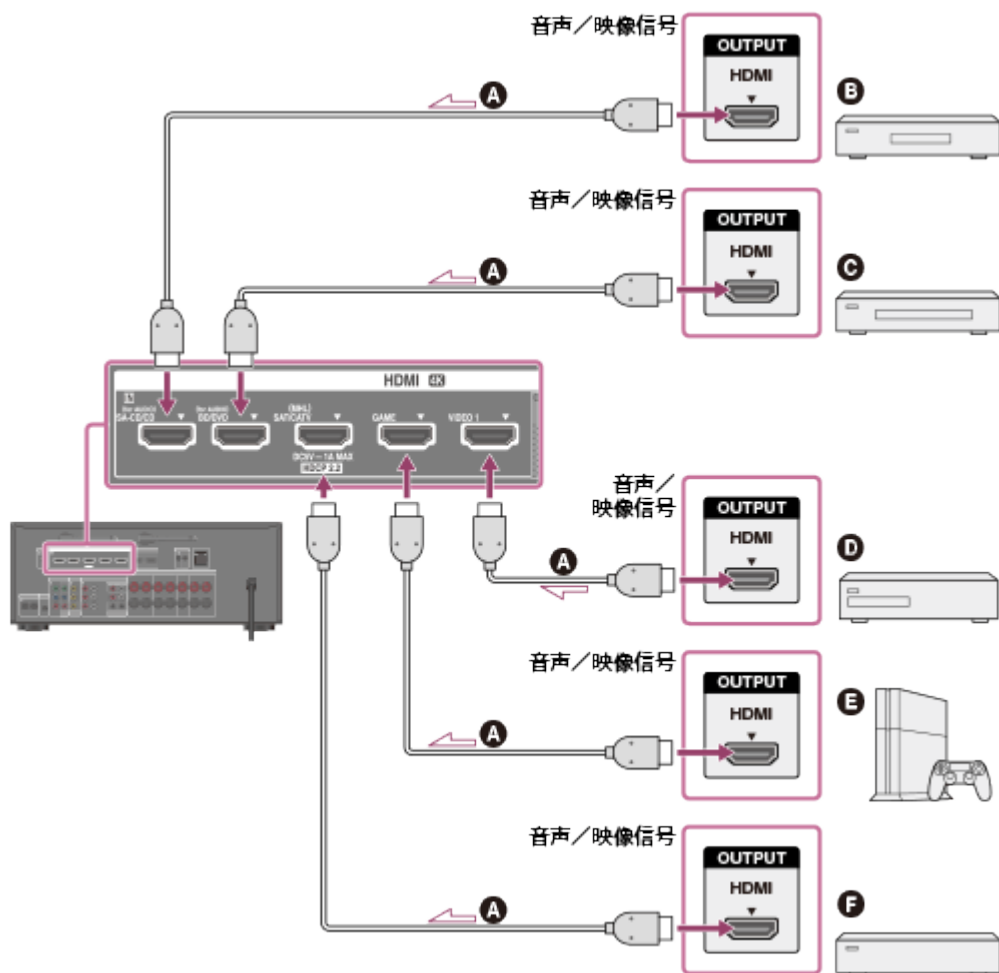
- HDMIで転送されたデジタル音声信号をAVレシーバーにつないだスピーカーから出力できます。この信号はドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMに対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、“x.v.Color”、および4Kまたは3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、PlayStation®4など）とAVレシーバーをハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4K映像を楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーなど）とAVレシーバーのHDMI入力端子（SA-CD/CD、BD/DVD、SAT/CATV (MHL)、GAMEまたはVIDEO 1）をハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- AVレシーバー後面の「HDCP 2.2」用となっているHDMI端子は、HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に対応しています。これらのHDCP 2.2対応のHDMI端子をテレビや機器のHDCP 2.2対応端子につないでくだ

さい。詳しくは、お使いのテレビまたは機器取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビまたは映像機器によっては、4Kまたは3Dの映像が表示されないことがあります。AVレシーバーが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMI端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
後面のHDMI IN SAT/CATV (MHL)、HDMI OUT A（テレビ）のHDMI端子はHDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に対応しています。
4KコンテンツなどのHDCP 2.2対応の著作権保護されたコンテンツを見る場合は、これらの端子を、チューナーやテレビのHDCP 2.2 対応のHDMI端子につなぎます。お使いの機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

Ⓐ **HDMIケーブル（別売）**

HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをお使いください。

Ⓑ **スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤー**

Ⓒ **ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー**

Ⓓ **DVDレコーダー／プレーヤー**

Ⓔ **PlayStation4などのゲーム機**

Ⓕ **BSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー、ケーブルテレビチューナー**

ヒント

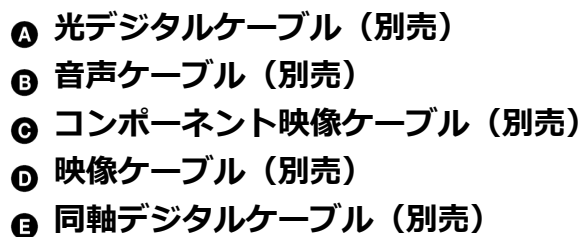
- このHDMI接続は一例です。各HDMI機器を前面のHDMI端子を含むいずれかのHDMI入力つないでください。
- BD/DVDおよびSA-CD/CD入力では、より良い音質が得られます。より高品質な音声を楽しむには、お使いの機器をこれらのHDMI端子につなぎ、BD/DVDまたはSA-CD/CDを入力に選んでください。
- 画質は接続する端子に左右されます。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

[20] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

機器を下図のようにつないでください。
実線は推奨接続、破線は代替接続を示しています。すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

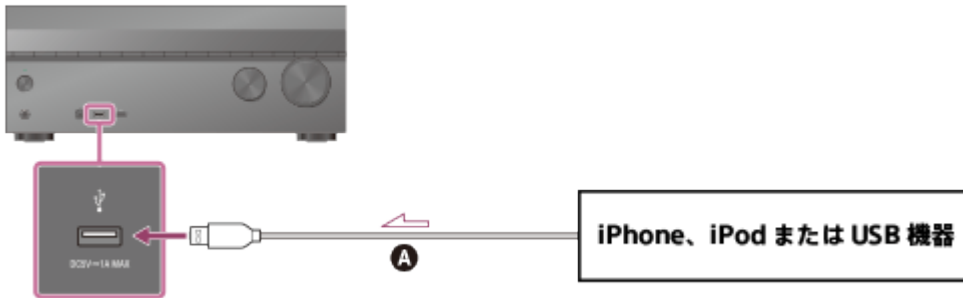
- A 光デジタルケーブル（別売）
- B 音声ケーブル（別売）
- C コンポーネント映像ケーブル（別売）
- D 映像ケーブル（別売）
- E 同軸デジタルケーブル（別売）

ヒント

- AVレシーバーの表示窓に表示できるように、各入力名を変更できます。詳しくは、「各入力の名前を変更する（名前）」をご覧ください。
- 画質は接続する端子に左右されます。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接

続することをおすすめします。

[21] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

iPhone、iPodまたはUSB機器を接続する

iPhone、iPodまたはUSB機器を下図のようにつないでください。

A USBケーブル（別売）

ご注意

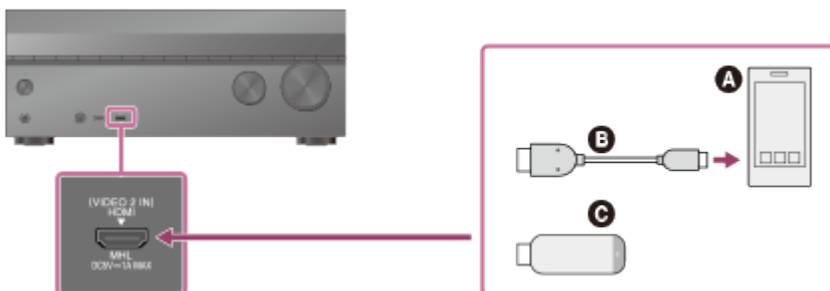
- iPadのUSB接続はサポートしていません。

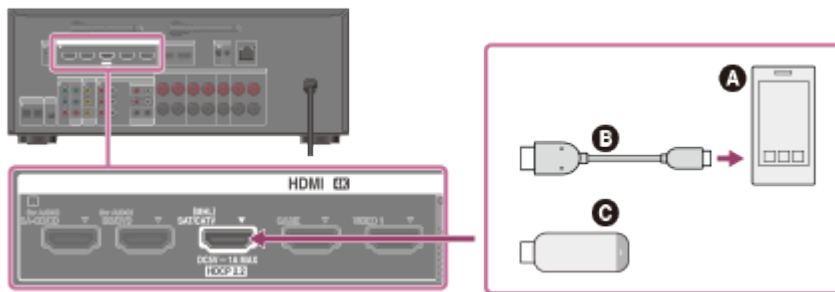
[22] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

MHL対応機器を接続する

MHL対応機器を下図のようにつないでください。

前面

HDMI/MHL（VIDEO 2 IN）端子は、MHL 2テクノロジーに対応しています。

後面

HDMI IN SAT/CATV（MHL）端子は、MHL 3テクノロジーに対応しています。

Ⓐ MHL対応機器

Ⓑ MHLケーブル（別売）

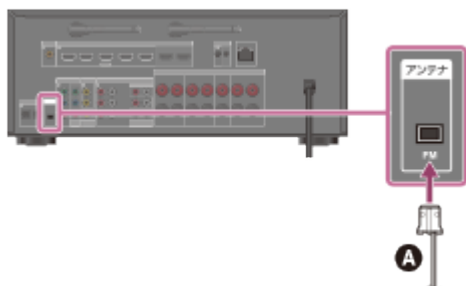
4K出力に対応したMHL対応機器を接続するには、MHL 3対応ケーブルの使用をおすすめします。

Ⓒ スティック型MHL対応端末

---

[23] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

アンテナを接続する

付属のアンテナを下図のようにつないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。

Ⓐ FMアンテナ線（付属）

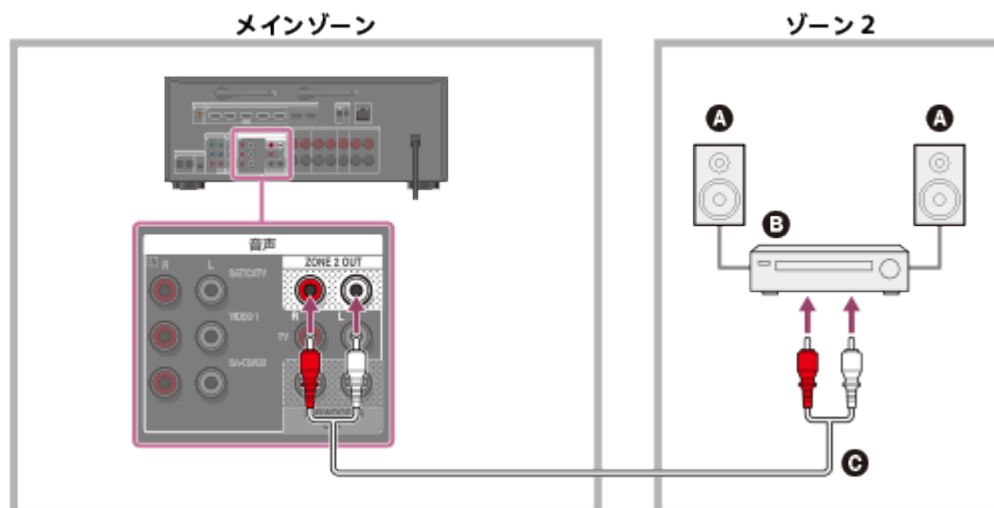
ご注意

- FMアンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

---

[24] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、AVレシーバーにつないだ機器の映像と音源を楽しめます。
例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2ではCDを聞くことができます。

- A スピーカー
- B アンプ／レシーバー
- C 音声ケーブル（別売）

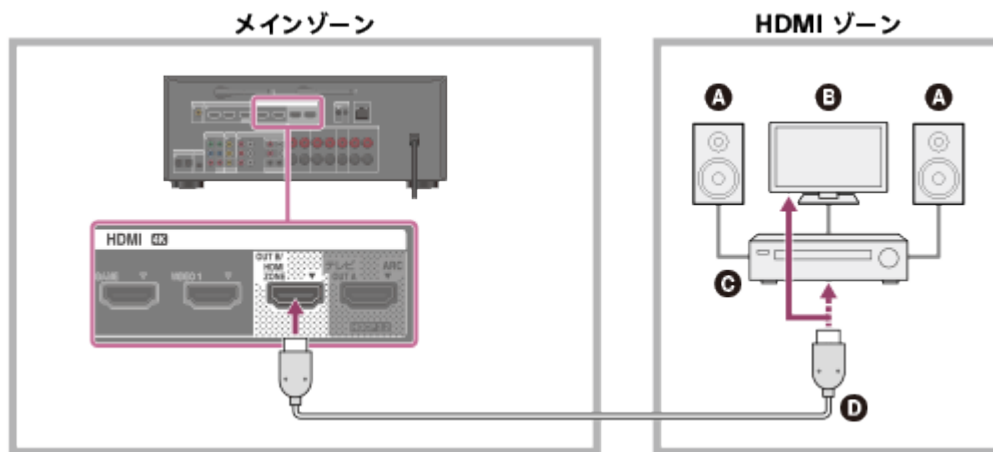
ご注意

- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

---

[25] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

HDMIゾーンに設置したもう1台のアンプやテレビを接続する

HDMI入力の映像／音声信号はHDMI OUT B/HDMI ZONE端子を使ってHDMIゾーンに出力されます。

A スピーカー
B テレビ
C アンプ／レシーバー
D HDMIケーブル（別売）

ご注意

- この接続を使うには、HDMI設定メニューの［HDMI出力Bモード］を［ゾーン］に設定してください。
- HDMIゾーンの入力選択については「4. 別の部屋のレシーバーやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）」を参照してください。

---

[26] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。［ ］内は表示窓に表示される文言を示しています。

Dolby Digital［DOLBY D］

最大チャンネル数： 5.1

AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

Dolby Digital EX［DOLBY D EX］

最大チャンネル数： 6.1

AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

Dolby Digital Plus［DOLBY D +］（＊1）

最大チャンネル数： 7.1

AVレシーバーと再生機との接続： HDMI（＊2）

Dolby TrueHD［DOLBY HD］（＊1）

最大チャンネル数： 7.1
AVレシーバーと再生機との接続： HDMI（＊4）

DTS［DTS］
最大チャンネル数： 5.1
AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

DTS-ES Discrete［DTS-ES Dsc］
最大チャンネル数： 6.1
AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

DTS-ES Matrix［DTS-ES Mtx］
最大チャンネル数： 6.1
AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

DTS 96/24［DTS 96/24］
最大チャンネル数： 5.1
AVレシーバーと再生機との接続： 同軸デジタル音声/光デジタル音声、HDMI（＊2）

DTS-HD High Resolution Audio［DTS-HD HR］（＊1）
最大チャンネル数： 7.1
AVレシーバーと再生機との接続： HDMI（＊2）

DTS-HD Master Audio［DTS-HD MA］（＊1）
最大チャンネル数： 7.1
AVレシーバーと再生機との接続： HDMI（＊4）

DSD［DSD］（＊1）（＊3）
最大チャンネル数： 5.1
AVレシーバーと再生機との接続： HDMI

マルチチャンネルリニアPCM（＊1）［PCM］
最大チャンネル数： 7.1
AVレシーバーと再生機との接続： HDMI（＊2）

＊[1] 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

＊[2] MHL対応機器をHDMI/MHL（VIDEO 2 IN）、HDMI IN SAT/CATV（MHL）端子に接続しているときにも対応しているフォーマットです。

＊[3] ワイヤレスヘッドホンには出力できません。

＊[4] MHL対応機器をHDMI IN SAT/CATV（MHL）端子に接続しているときにも対応しているフォーマットです。

---

[27] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

ケーブル類を接続するときのご注意

- 必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。
- すべてのケーブルをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。スタンダードHDMIケーブルの場合、1080p、Deep Color、4Kまたは3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につなぐと、音声や映像が失われることがあります。音声が正しく出力されない場合は、セパレート音声ケーブルやデジタル接続ケーブルをつなぎ、入力端子の割り当てを再設定してください。
- 光デジタルケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ヒント

- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

入力の再割り当てを行ってください。

[28] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

HDMI接続について

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。ソニーの“ブラビアリンク”対応機器をHDMIケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。

HDMIの特長

- HDMIで転送されたデジタル音声信号をAVレシーバーにつないだスピーカーから出力できます。この信号はドルビーデジタル、DTS、DSDおよびリニアPCMに対応しています。
- HDMI接続により、マルチチャンネルリニアPCM（最大8チャンネル）を192 kHz以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、“x.v.Color”、および4Kまたは3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3Dに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコー

ダー／プレーヤー、PlayStation®4など）とAVレシーバーをハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のコンテンツを再生してください。
- 4K映像を楽しむには、4Kに対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーなど）とAVレシーバーのHDMI入力端子（SA-CD/CD、BD/DVD、SAT/CATV (MHL)、GAMEまたはVIDEO 1）をハイスピードHDMIケーブルでつなぎ、4K対応のコンテンツを再生してください。
- AVレシーバー後面の「HDCP 2.2」用となっているHDMI端子は、HDCP 2.2（High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2）に対応しています。これらのHDCP 2.2対応のHDMI端子をテレビや機器のHDCP 2.2対応端子につないでください。詳しくは、お使いのテレビまたは機器取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビまたは映像機器によっては、4Kまたは3Dの映像が表示されないことがあります。AVレシーバーが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

[29] 準備する ｜ 4. AV機器／アンテナを接続する

MHL接続について

MHL（Mobile High-Definition Link）とは、スマートフォンなどのポータブル機器をハイビジョンテレビやAVアンプなどのホームエンターテインメント製品につなぐために開発されたHD映像およびデジタル音声のインターフェース規格です。AVレシーバーのMHL入力は最大4K（4096 x 2160）までの解像度の映像とデジタル音声に対応し、信号の伝送と同時に接続機器に電源を供給することができます。また、テレビやAVアンプなど他機器のリモコンで接続機器を操作したり、そのコンテンツにアクセスすることもできます。

ヒント

- MHL対応機器は、AVレシーバーの電源が入っているとき、以下の端子につなぐと充電されます。
  HDMI/MHL（VIDEO 2 IN）およびHDMI IN SAT/CATV（MHL）

[30] 準備する ｜ 5. ネットワークに接続する

LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）

下図はAVレシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。

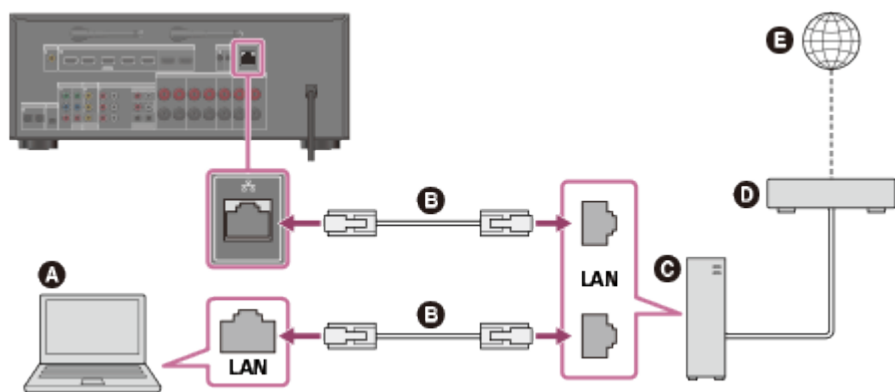
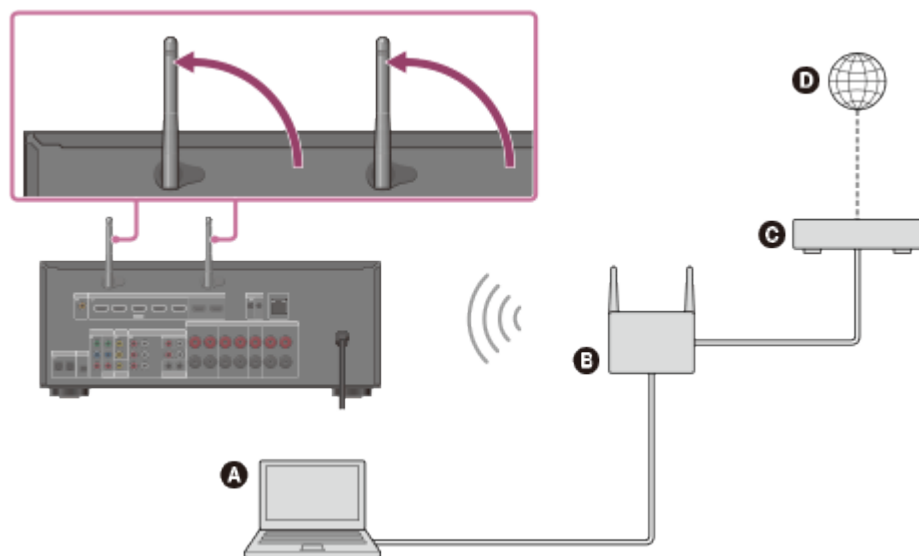
- Ⓐ **サーバー**
- Ⓑ **LANケーブル（別売）**
- Ⓒ **ルーター**
- Ⓓ **モデム**
- Ⓔ **インターネット**

無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）

下図はAVレシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。

- Ⓐ **サーバー**
- Ⓑ **ルーター**

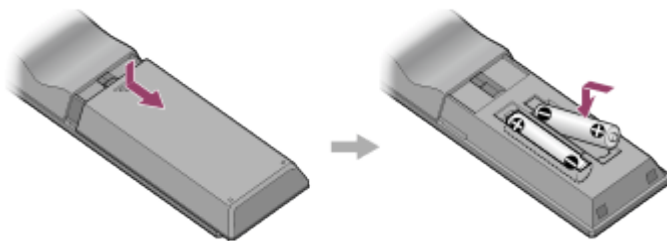
Ⓒ **モデム**
Ⓓ **インターネット**

ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生がときどき途切れることがあります。
- スクリーンミラーリング、BLUETOOTH RX（受信）モードまたはBLUETOOTH TX（送信）モード使用時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。

---

[32] 準備する ｜ 6. 電源を入れる／リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）2本を入れます。乾電池を入れるときは＋と－が正しい向きか確認してください。

ご注意

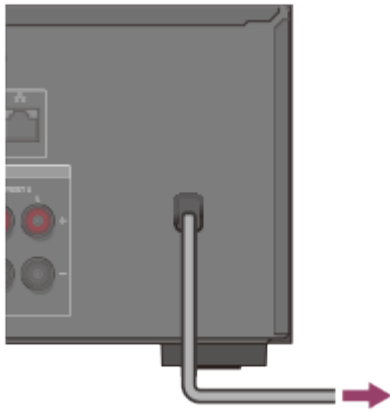
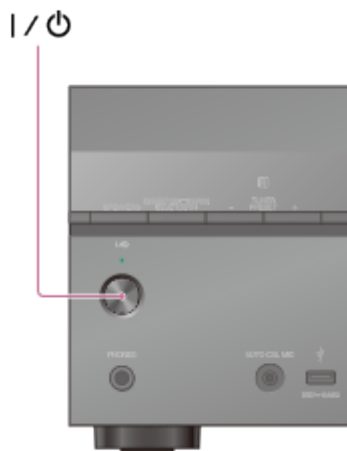
- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因になります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- リモコンが認識されなくなったら、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。

---

[33] 準備する ｜ 6. 電源を入れる／リモコンを準備する

電源を入れる

他機器とのすべての接続を行ったら、電源コードをつなぎ、AVレシーバーの電源を入れてください。

1. 電源コードを壁のコンセントにつなぐ。

2. I/⏻（電源オン／スタンバイ）を押して、電源を入れる。

リモコンの I/⏻（電源オン／スタンバイ）でも電源を入れることができます。電源を切るときには、もう一度 I/⏻（電源オン／スタンバイ）を押します。

ご注意

- 電源を切ったあと、表示窓に［STANDBY］が点滅します。［STANDBY］が点滅中は電源コードを抜かないでください。故障の原因になります。

[34] 準備する ｜ 7. かんたん設定を使って初期設定を行う

かんたん設定を使って初期設定を行う

AVレシーバーを初期化したあとに初めて電源を入れると、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。かんたん設定画面の指示にしたがって、以下の機能を設定できます。

- **スピーカー設定**
  お使いのスピーカー構成、配置に応じて自動音場補正を行うことができます。
- **ネットワーク設定**
  ネットワークに接続するための設定を行うことができます。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、AVレシーバーをつないでいる入力に切り替えてください。
- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。

かんたん設定画面が表示されない、または手動でかんたん設定画面を表示させたい場合は、ホームメニューの［Setup］-［かんたん設定］から表示できます。

---

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下のような自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとAVレシーバーの接続の確認
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定（＊）
- スピーカーサイズの測定（＊）
- 周波数特性の測定（EQ）（＊）
- 周波数特性の測定（位相）（＊）（＊＊）

＊ ［アナログダイレクト］が選ばれているときは、測定結果は使用できません。

＊＊ 音声フォーマットによっては、測定結果が使用できないことがあります。

ご注意

- D.C.A.C.（デジタルシネマ自動音場補正）は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、［テストトーン］を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

---

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。

- スピーカーを配置して接続する。
- AUTO CAL MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。

バイアンプ接続またはスピーカーフロントB接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の割り当てを正しく設定してください。

- スピーカー出力が［SPK OFF］以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

3. 測定用マイクをつなぐ

A 測定用マイク（付属）

1. AUTO CAL MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。
2. 測定用マイクを配置する。
   視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 本体のSPEAKERSボタンをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

どちらの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SP A：**
  スピーカー FRONT A端子につないだスピーカー
- **SP B（＊）：**
  スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につないだスピーカー
- **SP A+B（＊）：**
  スピーカー FRONT A端子およびスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の両方につないだスピーカー（パラレル接続）
- **（表示なし）：**
  ［SPK OFF］が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

＊ ［SP B］または［SP A+B］を選ぶには、スピーカー設定メニューの［サラウンドバックスピーカー割り当て］を使ってスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の割り当てを［フロントB］に設定してください。

ご注意

- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この設定はできません。
- 本体のSPEAKERSボタンを押すと、［Bluetoothモード］が自動的に［受信］に変更されます。

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［自動音場補正］を選ぶ。
3. テレビ画面の指示にしたがって操作し、⊕を押して、［測定開始］を選ぶ。
   5秒後に測定が始まります。
   測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。
   測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。
4. お好みの項目を選ぶ。
   - **保存：** 測定結果を保存し、設定を終了します。
   - **リトライ：** 自動音場補正を再度実行します。
   - **キャンセル：** 測定結果を保存せずに設定を終了します。

   測定結果について詳しくは、「6. 自動音場補正の結果を確認する」をご覧ください。
5. 測定結果を保存する。
   手順4で［保存］を選びます。

ご注意

- 手順3でエラーコードや警告メッセージが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この設定はできません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
  - I/⏻（電源オン／スタンバイ）押す。
  - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体のINPUT SELECTORつまみを回す。
  - 🔇を押す。
  - 本体のSPEAKERSボタンを押す。
  - 音量を調節する。
  - PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。

6. 自動音場補正の結果を確認する

下記の手順にしたがって、［自動音場補正］で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1. ［リトライ］を選ぶ。
2. テレビ画面の指示にしたがって操作し、-◆-を押して、［測定開始］を選ぶ。
   5秒後に測定が始まります。
   測定中はテストトーンが鳴り、完了まで約30秒かかります。
   測定が終わると、ビープ音が鳴り画面が切り替わります。
3. お好みの項目を選ぶ。
   - **保存：** 測定結果を保存し、設定を終了します。
   - **リトライ：** 自動音場補正を再度実行します。
   - **キャンセル：** 測定結果を保存せずに設定を終了します。
4. 測定結果を保存する。
   手順3で［保存］を選択します。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、［OK］を選びます。警告メッセージについて詳しくは、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

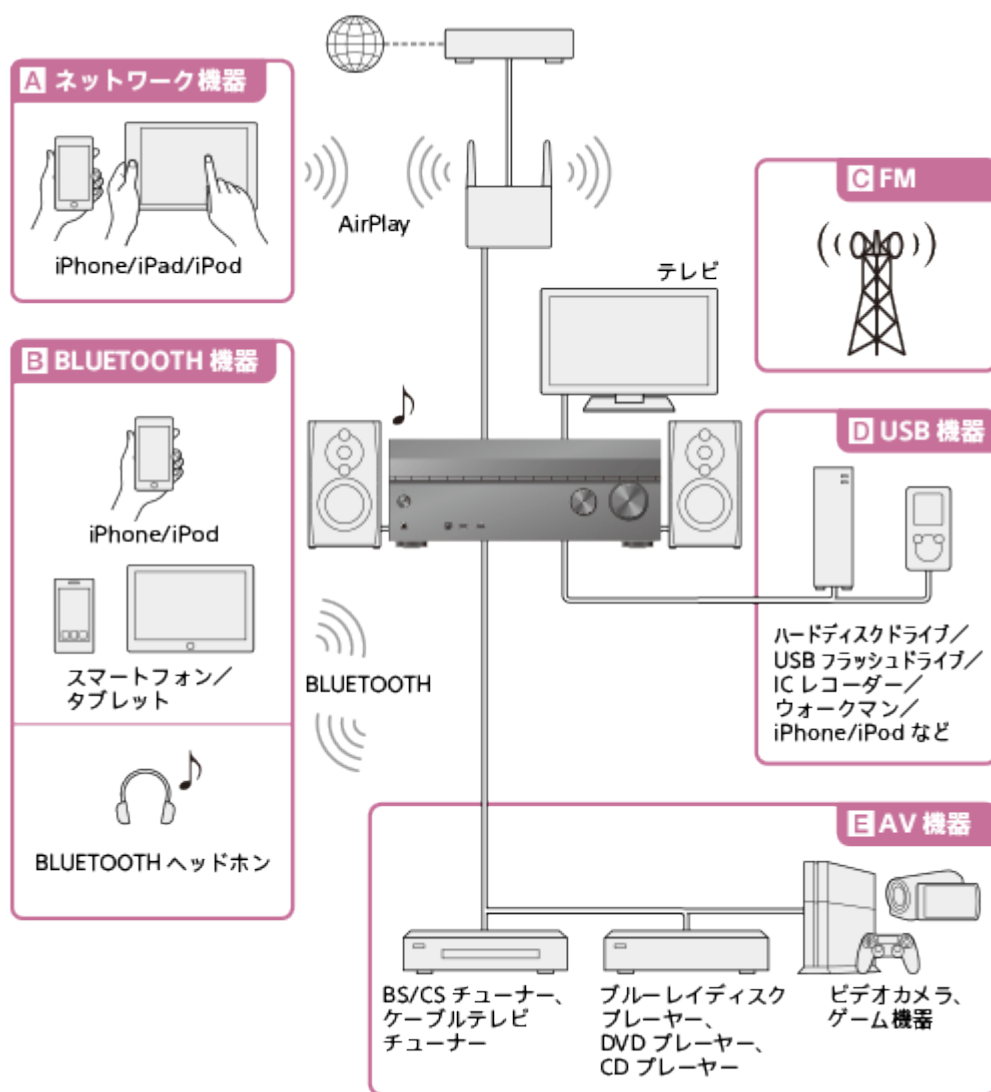
ヒント

- アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のままで使用できます。

---

[41] 映像や音源を楽しむ ｜ AV機器を再生する

映像や音源を楽しむ

ここでは、AVレシーバーで映像や音源を楽しむための操作方法を説明します。
例えば、下図のように複数の機器をAVレシーバーにつなぐことができます。

A ネットワーク機器

iPhone/iPad/iPodまたはスマートフォンの音声／音楽コンテンツを楽しむ

iPhone/iPad/iPodやスマートフォンに保存した音楽などのコンテンツをネットワーク経由でAVレシーバーに送ることができます。

ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音源を楽しむ（AirPlay）

B BLUETOOTH機器

iPhone/iPodまたはスマートフォンの音声／音楽コンテンツを楽しむ

iPhone/iPodやスマートフォンに保存した音楽などのコンテンツをBLUETOOTH経由でAVレシーバーに送ることができます。

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

BLUETOOTHヘッドホンで聞く

BLUETOOTH TX（送信）モードを使うと、BLUETOOTHヘッドホンで音声を楽しむことができます。

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

C FM

FMラジオを聞く

内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。

プリセット登録機能を使って、30局までお好みのFMチャンネルの登録ができます。
FMラジオを聞く

D USB機器

USB機器のコンテンツを楽しむ

外部ハードディスク、USBフラッシュドライブあるいはウォークマンなどのUSB機器を本体前面の ψ （USB）端子に接続し、AVレシーバーに接続したスピーカーやヘッドホンで音楽を聞くことができます。AVレシーバーはハイレゾ音源に対応していますので、ハイレゾ対応機器の高解像度の音源を音質を損なうことなく楽しむことができます。
USB機器内のコンテンツを楽しむ

E AV機器

ブルーレイディスクプレーヤー、CDプレーヤー、CS/BSチューナーまたはゲーム機器などのAV機器の映像/音声を楽しむ

AV機器をAVレシーバーに接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。
AVレシーバーはHDCP 2.2対応のHDMI端子を装備していますので、BS/CS衛星放送などの4Kコンテンツを楽しむことも可能です。
つないだ機器の映像や音源を楽しむ

---

[42] 映像や音源を楽しむ ｜ AV機器を再生する

テレビ画面に表示されたメニューを使う

AVレシーバーのメニューをテレビ画面に表示できます（＊）。

＊ テレビをHDMI OUT A（テレビ）端子につないでいるときにのみ表示されます。

1. テレビの入力を、AVレシーバーをつないでいるHDMI入力に切り替える。
2. リモコンのHOMEを押して、テレビ画面にホームメニューを表示する。

3. リモコンの⇧/⇩/⇦/⇨をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕を押して決定する。

ホームメニューの項目

Watch： 接続機器の映像を見るときに選びます。
Listen： 接続機器の音源を聞くときに選びます。
Custom Preset： さまざまな設定を保存し、それらを呼び出すときに選びます。
Sound Effects： 音響効果を楽しむときに選びます。
Setup： さまざまな設定を調節するときに選びます。

ヒント

- 画面の左下に［OPTIONS］が表示されているときは、OPTIONSを押して機能リストを表示させて、関連した機能を選べます。
- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、HOMEを押してホームメニューを表示させ、もう一度HOMEを押します。

---

[43] 映像や音源を楽しむ ｜ AV機器を再生する

つないだ機器の映像や音源を楽しむ

---

1. テレビの入力を、AVレシーバーをつないでいるHDMI入力に切り替える。
2. リモコンのHOMEを押す。
   テレビ画面にホームメニューが表示されます。テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

3. ホームメニューから［Watch］または［Listen］を選ぶ。
   メニュー項目リストが表示されます。
4. 使用する機器を選ぶ。
5. 機器の電源を入れて再生を開始する。
6. +/–を押して、音量を調節する。

◿
本体のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。

7. サラウンド音源を楽しむには、A.F.D./2CH、MOVIE、またはMUSICを押す。
本体のA.F.D./2CH、MOVIE、またはMUSICボタンでも操作できます。

ご注意

- スピーカーの破損を防ぐために、電源を切る前に音量を下げておいてください。

ヒント

- 本体のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押しても、お好みの機器を選べます。
- 本体のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンの◿+/–ボタンを使うと、音量の調整速度や調節量を変えられます。
音量を素早く上げ／下げするには
  - 本体のMASTER VOLUMEつまみを素早く回す。
  - リモコンのボタンを押したままにする。

  音量を微調整するには
  - 本体のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
  - リモコンのボタンを短く押す。

---

[44] 映像や音源を楽しむ ｜ AV機器を再生する

ARC対応テレビからの音声をAVレシーバーで楽しむ

お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応している場合、テレビの音声をAVレシーバーにつないだスピーカーから出力するには、以下の手順で設定してください。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI機器制御］を選ぶ。
3. ［入］を選ぶ。

お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合、またはHDMIケーブル以外のケーブル（光デジタルケーブルまたは音声ケーブル）経由の音声信号を選びたい場合

音声入力モードを切り替えてください。

ご注意

- 必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。
- お使いのテレビにシステムオーディオコントロールがない場合、テレビのスピーカーとAVレシーバーにつないだスピーカーから音声を出力するには、HDMI設定メニューで［音声信号出力］を［テレビ + アンプ］に設定してください。

---

[45] 映像や音源を楽しむ ｜ AV機器を再生する

HDCP 2.2で著作権保護された4Kコンテンツを見る

4Kコンテンツなど、HDCP 2.2で著作権保護されたコンテンツを見る場合は、テレビとAVレシーバーのHDCP 2.2対応のHDMI端子同士をつなぎます。著作権保護された4KコンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子に対応機器を接続しないと視聴できません。お使いのテレビまたは4K対応機器にHDCP 2.2に対応しているHDMI端子が装備されているかどうかは、テレビまたは4K対応機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

---

[46] 映像や音源を楽しむ ｜ iPhone/iPad/iPodのコンテンツを再生する

USBポート経由でiPhone/iPod内の音源を楽しむ

ψ（USB）ポートにiPhoneまたはiPodをつないで、保存されている音楽を楽しむことができます。

1. ホームメニューから［Watch］または［Listen］-［USB］を選ぶ。
   iPhoneまたはiPodをψ（USB）ポートにつないでいるときは、iPhoneまたはiPod内のコンテンツリストがテレビ画面に表示されます。リモコンを使ってiPhoneまたはiPodを操作することもできます。

2. コンテンツリストから再生したいコンテンツを選ぶ。
   選んだコンテンツの再生が始まります。再生中のコンテンツの情報がテレビ画面に表示されます。

リモコンを使ってiPhone/iPodを操作する

USBを押してから、下記のボタンをお使いください。

- **►II：** 再生開始または一時停止
- **■：** 再生停止
- **I◄◄/►►I：** 再生中または前／次のトラック先頭へ移動します。長押しすると、現在のトラックの早送り、早戻しをします。

ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音源を楽しむ（AirPlay）

iPhone、iPad、iPod、またはパソコンのiTunesライブラリ内の音源を無線ネットワーク経由で楽しむことができます。

Ⓐ パソコン
Ⓑ iPhone/iPad/iPod

1. iPhone/iPad/iPod画面またはiTunesウィンドウの アイコンをタップまたはクリックする。
2. iTunesまたはiPhone/iPad/iPodのAirPlayメニューで、［STR-DN1060 XXXXXX］（＊）を選ぶ。
3. iPhone/iPad/iPodまたはiTunes内のコンテンツを再生する。

＊ XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

AirPlay再生の操作をする

AVレシーバーが出力先の機器として選ばれているとき、リモコンの +/–、►II、■、I◄◄、►►Iボタンが使えます。

ご注意

- AVレシーバーとつないで使う前に、iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。
- iPhone/iPad/iPod、iTunes、およびAirPlayの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ヒント

- 再生が始まらない場合は、もう一度手順1からやり直してください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量を大きく設定すると、大音量の音声がAVレシー

バーから出力されることがありますのでご注意ください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量レベルとAVレシーバーの音量レベルは、連動できないことがあります。

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリングとは、実際の接続前に、BLUETOOTH機器同士がそれぞれ登録し合う操作のことです。いったんペアリング操作が完了すると、以降の登録操作は不要です。ペアリングを開始する前に、［Bluetoothモード］が［受信］に設定されていることを確認してください。

1. BLUETOOTH機器をAVレシーバーから1メートル以内の場所に置く。
2. AVレシーバー本体のCONNECTION PAIRING BLUETOOTHボタンを長押しして、BLUETOOTH機能を選ぶ。
   表示窓に［PAIRING］が表示されます。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。
3. BLUETOOTH機器でペアリングを行い、AVレシーバーを検出する。
   詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。AVレシーバーは［STR-DN1060］として表示されます。
4. BLUETOOTH機器の画面で［STR-DN1060］を選ぶ。
   ［STR-DN1060］が表示されない場合は、手順1からやり直してください。
5. 接続が完了し、表示窓に機種名と［BT］が点灯していることを確認する。
6. BLUETOOTH機器で再生を開始する。
7. 音量を調節する。
   まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、AVレシーバーで音量レベルを調節します。

ペアリング操作を中止する

入力を切り替えます。

ご注意

- 手順4でAVレシーバーとの接続を確立しているときに、BLUETOOTH機器でオーディオプロファイル（A2DPまたはAVRCP）を選びます。BLUETOOTH機器がAVRCPプロファイルに対応していない場合は、AVレシーバーで再生などの操作はできません。
- 手順5でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、［0000］を入力し

ます。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- ［Bluetoothモード］が［切］に設定されているときは、本体のCONNECTION PAIRING BLUETOOTHボタンは働きません。

ヒント

- システム設定メニューの［機器名］で、AVレシーバーの名前を変更することができます。
- BLUETOOTH機器の種類によっては、BLUETOOTH機器の操作ボタンでも音量を調節できます。

対応iPhone/iPad/iPodモデル

対応しているiPhone/iPad/iPodモデルは下記のとおりです。AVレシーバーにつないで使用する前にiPhone/iPad/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

USB接続時

- **iPhone :**
  iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS/iPhone 3G
- **iPod touch :**
  iPod touch（第2世代から第5世代）
- **iPod :**
  iPod classic
- **iPod nano :**
  iPod nano（第3世代から第7世代）

BLUETOOTH接続時

- **iPhone :**
  iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS
- **iPod touch :**
  iPod touch（第4世代および第5世代）

AirPlay使用時

- **iPhone :**

iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS

- **iPad：**
  iPad Air 2/iPad mini 3/iPad Air/iPad mini 2/iPad mini/iPad（第3世代ならびに第4世代）/iPad 2
- **iPod touch：**
  iPod touch（第3世代から第5世代）

AirPlay は、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touch に対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、およびiTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。

---

[50] 映像や音源を楽しむ ｜ iPhone/iPad/iPodのコンテンツを再生する

iPhone/iPad/iPod使用上のご注意

- AVレシーバーにつないだiPhone/iPad/iPodを使用中に、iPhone/iPad/iPodに保存されたデータが消失、破損しても、弊社は一切の責任を負いません。
- iPhone/iPodの充電は、AVレシーバーの電源が入っているときのみ行われます。
- AVレシーバーからiPhone/iPad/iPodへ楽曲を転送できません。
- 操作中にiPhone/iPad/iPodを取り外さないでください。データ破損やiPhone/iPad/iPodの破損を防ぐため、iPhone/iPad/iPodを取り付けるときや取り外すときは、AVレシーバーの電源を切ってください。

---

[51] 映像や音源を楽しむ ｜ USB機器のコンテンツを再生する

USB機器内のコンテンツを楽しむ

ψ（USB）ポートにUSB機器をつないで、保存されている音楽や画像を楽しむことができます。

1. ホームメニューから［Watch］または［Listen］-［USB］を選ぶ。
   USB機器をψ（USB）ポートにつないでいるときは、［USB］がテレビ画面に表示されます。AVレシーバーのリモコンを使ってUSB機器を操作できます。
2. ［Music］または［Photo］を選ぶ。
3. コンテンツリストからお好みのコンテンツを選ぶ。
   選んだコンテンツの再生が始まり、テレビ画面にコンテンツの情報が表示されます。

リモコンを使ってUSB機器を操作する

USBを押してから、下記のボタンをお使いください。

- **►II：** 再生開始または一時停止
- **■：** 再生停止
- **I◄◄/►►I：** 前／次のトラック先頭へ移動します。長押しすると、現在のトラックの早送り、早戻しをします。

ご注意

- ウォークマンに保存されている音楽ファイルを再生するには、AVレシーバーでサポートしている形式（MP3など）でファイルをコンピューターからウォークマン上にドラッグ＆ドロップする必要があります。Media Goを使ってウォークマンに転送されたファイルは、［Music］フォルダーに保存されるため、AVレシーバーでも再生可能です。
- DRM（Digital Rights Management） 著作権保護付きの音源は、再生できません。
- 動画ファイルの再生には対応していません。

---

[52] 映像や音源を楽しむ ｜ USB機器のコンテンツを再生する

USBの仕様および対応USB機器

USB接続で再生できる対応ファイルフォーマット

対応音声フォーマット （＊1）

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) （＊2）：

.mp3

AAC/HE-AAC:

.m4a, .aac, .mp4（＊3）, .3gp（＊3）

WMA9 Standard:

.wma

WMA 10 Pro （＊4）：

.wma

LPCM （＊2）：

.wav

FLAC:

.flac, .fla

Dolby Digital （＊2）：

.ac3

DSF:

.dsf

DSDIFF （*5）：

.dff

AIFF:

.aiff, .aif

ALAC:

.m4a

Monkey’s Audio:

.ape

Vorbis:

.ogg

対応画像フォーマット

JPEG:

.jpeg, .jpg, jpe

PNG:

.png （*6）

GIF:

.gif （*6）

*[1] あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

*[2] 拡張子が「.mka」のファイルは再生できます。

*[3] .mp4と.3gpファイルは音声のみ再生できます。

*[4] Losslessなどでエンコードされたファイルは再生できません。

*[5] DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

*[6] アニメーションPNGまたはアニメーションGIFファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルフォーマットや圧縮状況、または録画状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- 3D画像ファイルは再生できません。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- AVレシーバーはUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します。
  - ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
  - 1つの階層にある500個以下のファイル／フォルダー

- USB機器によっては、AVレシーバーで再生できないことがあります。

対応USB機器

マスストレージクラス（MSC）、High Speedタイプ

最大電流

500 mA

検証済ソニー製USB機器

AVレシーバーでお使いになれるソニー製USB機器は下記のとおりです。

Walkman:

NW-A867
NW-S766/S775/S786
NW-Z1070
NW-E063/E083
NW-F807/F887
NWD-W273
NW-WH303
NW-W274S
NW-ZX1
NW-M505
NW-A16/A17
NW-S14/S15
NW-WS615

ポケットビット:

USM4GL/USM8GL/USM32GL
USM4GM
USM8GN/USM32GN
USM8GQ/USM32GQ/USM64GQ
USM32GLX/USM64GLX
USM8GR/USM16GR/USM32GR
USM64GP
USM8GT
USM16GU
USM4GV
USM8GQX/USM128GQX
USM32W
USM16SA1
USM32X

ICレコーダー／ラジオレコーダー／リニアPCMレコーダー：

ICD-UX502/UX523F/UX534F/UX544F
ICD-TX50/TX650
ICD-FX8
ICD-PX232/PX440
ICD-BX332
ICD-SX733
ICZ-R51/R100/R250TV
PCM-D100

ご注意

- ハードディスクの最初のパーティションに保存されたデータ以外を読み取ることはできません。
- ここにリストアップされていない機種の動作は保証しません。
- ここにリストアップされているUSB機器のすべての動作を保証するものではありません。
- USB機器によっては、一部の地域では入手できない場合があります。
- リストアップされている機種をフォーマットするときは、その機器自体または機種専用のフォーマット用ソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
- USB機器をつなぐときは、USB機器の「Creating Library」または「Creating Database」の表示が消えていることを確認してください。

---

[53] 映像や音源を楽しむ ｜ USB機器のコンテンツを再生する

USB機器使用上のご注意

- 操作中にUSB機器を取り外さないでください。データ破損やUSB機器の破損を防ぐため、USB機器を取り付けるときや取り外すときは、AVレシーバーの電源を切ってください。
- AVレシーバーとUSB機器をUSBハブを介してつながないでください。
- AVレシーバーの入力が［USB］に設定されている状態でUSB機器を接続すると、テレビ画面に［Photo］と［Music］のカテゴリーが表示されます。
- 認識できるデータ量は下記のとおりです。
  - ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
  - 1つの階層にある500個以下のファイル／フォルダー

  最大ファイル数および最大フォルダー数は、ファイルやフォルダー構成によって異なります。USB機器に別の種類のファイルや不必要なフォルダーを保存しないでください。
- あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。互換性のないUSB機器を使うと、雑音の原因となったり、音が途切れたり、あるいはまったく再生できないこともあります。

下記のような場合は、再生開始までに時間がかかることがあります。
  - フォルダー構成が複雑な場合
  - メモリー容量を超えている場合
- つないだUSB機器のすべての機能に対応していない場合があります。
- AVレシーバーでの再生順は、つないだUSB機器の再生順とは異なることがあります。
- 音声ファイルが入っていないフォルダーを選ぶと、［このカテゴリーには再生できるファイルがありません。］と表示されます。
- 非常に長いトラックを再生しているときは、一部の操作が再生を遅らせる原因となることがあります。

---

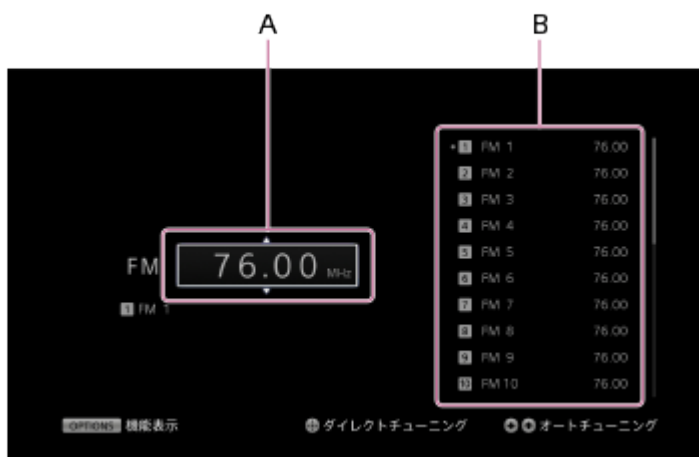
[54] 映像や音源を楽しむ ｜ ラジオを聞く

FMラジオを聞く

内蔵チューナーをとおしてFM放送を聞くことができます。必ず事前にFMアンテナ線をつないでください。

1. ホームメニューから［Listen］-［FM TUNER］を選ぶ。
   FM画面が表示されます。

FM画面

⇧/⇩/⇦/⇨と⊕を押し、それぞれの項目を選んで操作できます。

A: 周波数表示
⇧/⇩をくり返し押して放送局を自動的に合わせることができます（自動選局）。
低い周波数から高い周波数の局へ順にスキャンするときは⇧を押し、高い周波数から低い周波数の局へ順にスキャンするときは⇩を押します。
放送局を受信するとスキャンを自動的に停止します。
B: プリセット局リスト
リストからプリセット番号を選んで選局できます。

[55] 映像や音源を楽しむ ｜ ラジオを聞く

FMラジオ放送局を登録する（プリセットメモリー）

お気に入りの放送局として、FM局を最大30局登録できます。

1. ホームメニューから［Listen］-［FM TUNER］を選ぶ。
2. プリセットしたい放送局を受信する。
3. OPTIONSを押す。
4. オプションメニューから［プリセットメモリー］を選ぶ。
5. プリセット番号を選ぶ。
   選んだプリセット番号で放送局が登録されます。
6. 手順1から5をくり返して、他の放送局を登録する。
   下記のとおり放送局を登録できます。
   - FM局：FM 1からFM 30

[56] 映像や音源を楽しむ ｜ ラジオを聞く

登録した局名を変更する（局名変更）

1. ホームメニューから［Listen］-［FM TUNER］を選ぶ。
2. 名前をつけたいプリセット番号を選ぶ。
3. OPTIONSを押す。
   オプションメニューが表示されます。
4. ［局名変更］を選ぶ。
   オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
5. ⇧/⇩/⇦/⇨と⊕を押して、文字を一つずつ選んで名前を入力する。
6. ［Enter］を選ぶ。
   入力した名前が登録されます。

名前の入力を中止する

BACKを押す。

ご注意

- テレビ画面に表示できても、表示窓には表示できない文字があります。

---

[57] 映像や音源を楽しむ ｜ ラジオを聞く

放送局を直接選局する（ダイレクトチューニング）

放送局の周波数を直接入力できます。

1. ホームメニューから［Listen］-［FM TUNER］を選ぶ。
2. 画面左の周波数表示がハイライトされていることを確認して、⊕を押す。
3. ⇧/⇩/⇦/⇨を押して周波数を入力する。
   i. ⇦/⇨を押して数字を選ぶ。
   ii. ⇧/⇩を押して数字を変える。
4. ⊕を押す。

ご注意

- 合わせた周波数が無効または範囲外の場合は、［---.-- MHz］が表示され、画面が現在の周波数に戻ります。
  正しい周波数が入力されていることを確認してください。周波数が正しく入力されていない場合は、手順3と4をくり返してください。 それでも放送局を受信できない場合は、その地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

ヒント

- 選局時は100 kHzステップで周波数が切り替わります。

---

[58] 映像や音源を楽しむ ｜ 音響効果を楽しむ

音場を選ぶ（サウンドフィールド）

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選べます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［サウンドフィールド］を選ぶ。
3. お好みのサウンドフィールドを選ぶ。
   映画を見るときは、［Movie］表示のあるサウンドフィールドを選んでください。
   音楽を聞くとき、［Music］表示のあるサウンドフィールドを選んでください。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、サウンドフィールドを選べません。
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるときは、ヘッドホン用のサウンドフィールドのみが表示されます。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- スピーカーパターンによっては、［ドルビープロロジックIIx Movie］（PLIIx Movie）、［ドルビープロロジックIIx Music］（PLIIx Music）が表示されないことがあります。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［サウンドフィールド］を選ぶこともできます。
- リモコンまたは本体のA.F.D./2CH、MOVIEまたはMUSICボタンを使って、サウンドフィールドを選ぶこともできます。

---

[59] 映像や音源を楽しむ ｜ 音響効果を楽しむ

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

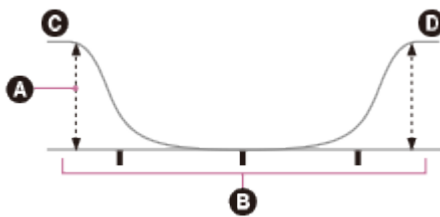
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 電源を切る。
2. MUSICを押しながら I/⏻（電源オン／スタンバイ）を押す。

［S.F. CLEAR］が表示窓に表示され、すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

[60] 映像や音源を楽しむ ｜ 音響効果を楽しむ

イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、フロントハイスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。

A レベル（dB）
B 周波数（Hz）
C 低域
D 高域

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［イコライザ設定］を選ぶ。
3. ［Front］、［Center］、［Surround］または［Front High］を選ぶ。
4. ［低音］または［高音］を選ぶ。
5. ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- ［低音］および［高音］の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、［Front］スピーカーについては、［低音］と［高音］ゲインの調節のみ可能です。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［イコライザ設定］を選ぶこともできます。

[61] 映像や音源を楽しむ ｜ 音響効果を楽しむ

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オプティマイザー）

サウンド・オプティマイザーを使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［サウンド・オプティマイザー］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **標準：**
     映画のレベルを基準に調節する場合に選びます。
   - **弱：**
     CDなど平均音圧が高めに加工されたソフト用に調節する場合に選びます。
   - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［サウンド・オプティマイザー］を選ぶこともできます。

[62] 映像や音源を楽しむ ｜ 音響効果を楽しむ

天井埋め込みスピーカーからの音をより自然な表現で楽

しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。
フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井埋め込み設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［インシーリングスピーカーモード］を選ぶ。
3. ［入］を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - フロントハイスピーカーを使ったスピーカーパターンを選んでいるとき
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
  - 2chステレオ
  - オートフォーマットダイレクト
  - マルチステレオ
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［インシーリングスピーカーモード］を選ぶこともできます。
- お聞きの環境で最適な音声を得るために、［スピーカー設定］の［天井スピーカーの高さ］を設定して、自動音場補正を実行してください。

原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

1. ホームメニューから［Sound Effects］-［ピュアダイレクト］を選ぶ。
2. ［入］を選ぶ。

ピュアダイレクトを解除する

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で［切］を選ぶ。
- 本体のPURE DIRECTボタンを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- ［イコライザ設定］、［サウンド・オプティマイザー］、［音量自動調整］、［ダイナミックレンジ調整］、［インシーリングスピーカーモード］、［自動位相マッチング］、［補正タイプ］および［LFE時間調整］の設定を変える。

ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、［イコライザ設定］、［サウンド・オプティマイザー］、［音量自動調整］、［ダイナミックレンジ調整］、［インシーリングスピーカーモード］、［自動位相マッチング］、［補正タイプ］および［LFE時間調整］は働きません。

ヒント

- 本体のPURE DIRECTボタンでも、ピュアダイレクトモードの入／切を切り替えることができます。
- ホームメニューの［Setup］-［音声設定］から［ピュアダイレクト］を選ぶこともできます。

モバイル機器の画面をテレビに映す（スクリーンミラーリング）

スクリーンミラーリングとはモバイル機器の画面をMiracast技術によってテレビに表示する機能です。
スクリーンミラーリング対応機器（スマートフォン、タブレットなど）とAVレシーバーを直接接続し、モバイル機器の表示をテレビの大画面に映すことができます。
この機能を使うのにワイヤレスルーター（またはアクセスポイント）は必要ありません。

1. MIRRORINGボタンを押す。

ホームメニューの［Watch］から［Screen mirroring］を選ぶこともできます。

2. 画面の指示にしたがって操作する。
   モバイル機器のスクリーンミラーリング機能を起動させてください。操作については、モバイル機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ワンタッチミラーリング機能（NFC）を使ってXperiaスマートフォンに接続するには

MIRRORINGボタンを押してから、ワンタッチミラーリング機能（NFC）対応のXperiaスマートフォンをAVレシーバーのNマークにタッチして接続します。

ミラーリングを解除するには

BACKを押すか、入力を切り替えます。

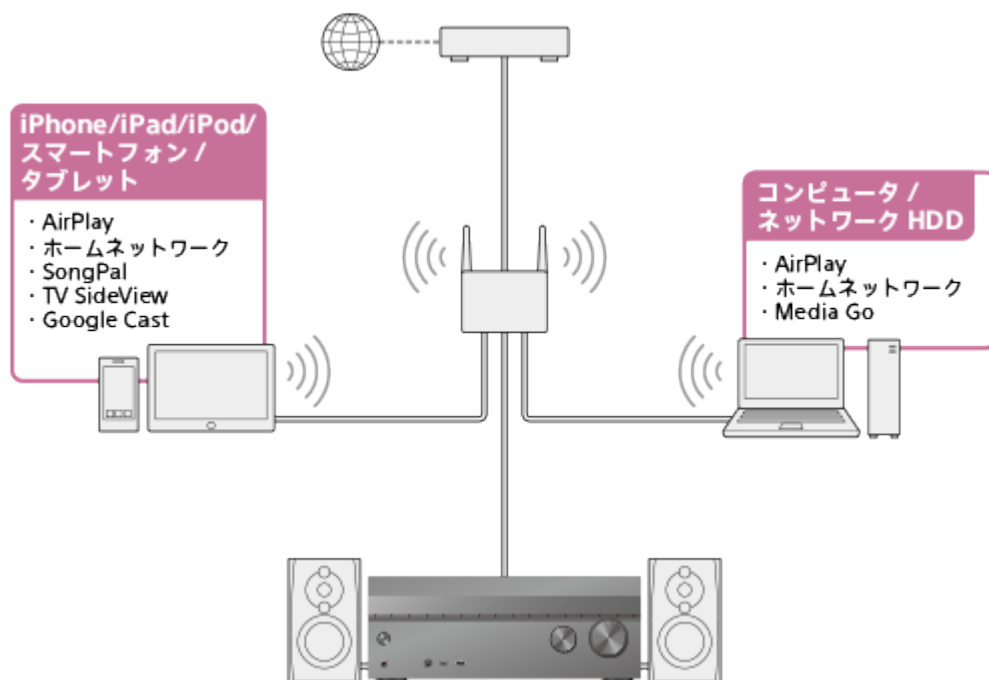
ご注意

- 他のネットワークからの電波干渉により、スクリーンミラーリングの映像や音声が乱れる場合があります。
- 使用環境によっては、画質や音質が悪くなる場合があります。
- スクリーンミラーリング中は、ネットワーク機能の一部が使えなくなることがあります。
- 接続機器がMiracast対応であることを確認してください。すべてのMiracast対応機器の接続性が保証されているわけではありません。
- ［Bluetoothモード］が［受信］に設定されているときに、スクリーンミラーリングを実行すると、BLUETOOTH接続が解除されます。

ヒント

- 映像や音声の状態が頻繁に乱れる場合は、通信設定メニューの［スクリーンミラーリング周波数設定］を設定すると、再生が安定する場合があります。

ネットワーク機能を使ってできること

有線または無線でホームネットワークに接続しているコンピューター、ネットワークハードディスクドライブ、iPhone/iPad/iPod、あるいはその他のスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。
対応アプリを使えば、スマートフォンからAVレシーバーを操作することもできます。

- **AirPlay**

AVレシーバーはAirPlayに対応しています。iPhone/iPad/iPodあるいはiTunesライブラリの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。
ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音源を楽しむ（AirPlay）

- **ホームネットワーク**

ホームネットワークを利用して、ネットワーク上の機器（コンピューター、ネットワークHDDなど）からさまざまなフォーマットの音声や画像を再生できます。
ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ

- **SongPal**

スマートフォンやタブレットにインストールされたSongPalを用いて、AVレシーバーをワイヤレスで操作することができます。AVレシーバーを再生機器としてもよく使われる方、AVレシーバーのゾーン機能をお使いの方、他のソニー製SongPal Link対応機器をお持ちの方におすすめします。
スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）

- **TV SideView**

スマートフォンやタブレットにインストールされたTV SideViewを用いて、AVレシーバーをワイヤレスで操作することができます。AVレシーバーと合わせてソニー製のTVをよく使われている方におすすめします。
TV SideView機器をAVレシーバーに登録する

- **Google Cast**

Google Cast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、AVレシーバーで再生することができます。
Google Cast™ を使う

- **Media Go**

Media GoのThrow機能を使えば、パソコンにダウンロードしたMedia Goライブラリ内のハイレゾ音源を含む音楽ファイルや画像ファイルをAVレシーバーで楽しむことができます。

Media Goを使ってハイレゾ音源を楽しむ

LANケーブルを使ってネットワークに接続する（有線LANに接続する場合のみ）

下図はAVレシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。

Ⓐ サーバー
Ⓑ LANケーブル（別売）
Ⓒ ルーター
Ⓓ モデム
Ⓔ インターネット

有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。

2. ［ネットワーク設定］を選ぶ。

3. ［有線LAN設定］を選ぶ。
テレビ画面にIPアドレスの取得方法を選ぶ画面が表示されます。

4. ［自動取得］を選ぶ。
ネットワーク接続を開始します。
確認画面が表示されます。

5. ⇧/⇩を押して情報を確認し、⇨を押す。

6. ［接続診断］を選ぶ。
ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順4で［手動］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

ヒント

- 通信設定を確認するときは、［ネットワーク接続状態］をご覧ください。

無線LANアンテナを使ってネットワークに接続する（無線LANに接続する場合のみ）

下図はAVレシーバーとサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。
サーバーをルーターにつなぐときは、有線接続をおすすめします。

Ⓐ サーバー
Ⓑ ルーター
Ⓒ モデム
Ⓓ インターネット

ご注意

- 無線接続の場合は、サーバー上の音声再生がときどき途切れることがあります。
- スクリーンミラーリング、BLUETOOTH RX（受信）モードまたはBLUETOOTH TX（送信）モード使用時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定を始める前に

お使いの無線LANルーター（アクセスポイント）にWPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応したボタンがある場合は、AVレシーバーを簡単にWi-Fi（無線LAN）ネットワークに接続できます。
WPSボタンがない場合は、以下の情報を選択、または入力する必要があります。あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名（SSID）（＊）
- ネットワークのセキュリティーキー（パスワード）（＊＊）

＊ SSID（Service Set Identifier）は、アクセスポイントを特定化するための名前です。

＊＊ この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［ネットワーク設定］を選ぶ。
3. ［無線LAN設定（内蔵）］を選ぶ。
4. ［WPS（プッシュボタン方式）］を選ぶ。
5. ［開始］を選ぶ。
6. アクセスポイントのWPSボタンを押す。
   ネットワーク接続を開始します。
   通信設定が完了し、表示窓に［ ］が点灯します。

任意のネットワーク名（SSID）による設定方法を選んだ場合は

手順4で任意のネットワーク名（SSID）を選び、オンスクリーンキーボードを使って、セキュリティーキー（パスキー）を入力し、［Enter］を選んで入力を確定させると、ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを手動で入力するときは

手順4で［新しい接続先の登録］-［手動登録］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

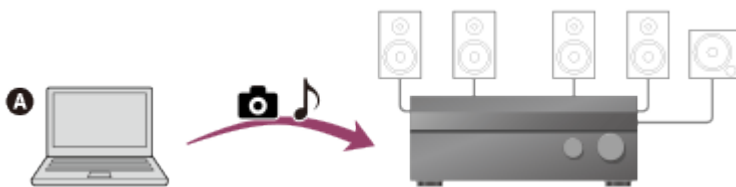
WPS PINコードを使って設定するときは

手順4で［新しい接続先の登録］-［（WPS）PIN方式］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

ヒント

- ネットワーク接続状態を確認するときは、［ネットワーク接続状態］をご覧ください。

ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ

ホームネットワーク上のサーバー内にある音楽／画像ファイルを再生できます。
サーバーの音楽／画像ファイルを再生できるよう、サーバー側でいくつかの設定が必要な場合があります。詳しくは、各機器やアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

A サーバー（コンピューターなど）

1. ホームメニューから［Listen］-［Home Network］を選ぶ。
   テレビ画面に利用できるサーバーのリストが表示されます。
   前回最後に選んだ項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）がテレビ画面に表示された場合は、BACKを押してサーバーリストを表示させてください。利用できるサーバーがない場合は、通信設定メニューから［接続サーバー設定］画面を表示し、OPTIONSを押して、［サーバーリスト更新］を選び、サーバーリストを更新してください。

2. サーバーを選ぶ。
   テレビ画面にコンテンツリストが表示されます。

3. お好みの項目（プレイリスト、アルバム、フォルダーなど）を選ぶ。
   この手順をくり返して選択肢をしぼり込み、お好みの項目を表示させてください。表示される項目は、接続しているサーバーによって異なります。

4. お好みのファイルを選ぶ。
   再生が始まります。

ご注意

- DRM（Digital Rights Management） 著作権保護付きのコンテンツは、再生できません。
- 動画ファイルの再生には対応していません。
- トラックによっては再生できない場合があります。

ヒント

- ホームメニューから［Watch］-［Home Network］を選ぶこともできます。
- サーバー機器がWake-on-LANに対応している場合は、手順2で自動的にサーバーの電源が入ります。サーバーがWake-on-LANに対応していない場合は、あらかじめサーバーの電源を入れてください。お使いのサーバーのWake-on-LAN設定または操作について詳しくは、サーバーの取扱説明書またはヘルプを参照してください。

---

[71] ネットワーク機能を使う ｜ ホームネットワークのサーバー内にあるコンテンツを楽しむ

サーバーリストからサーバーを削除する

通常利用しないサーバーがサーバーリストに表示される場合は、以下の操作で削除することができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［接続サーバー設定］を選ぶ。
3. 削除したいサーバーを選び、OPTIONSを押す。
4. オプションメニューから［削除］を選ぶ。
5. 確認画面で［はい］を選ぶ。
   ［リストから機器を削除しました。］がテレビ画面に表示され、選んだサーバーが削除されます。

ご注意

- サーバーリスト更新時などにネットワーク上に削除したサーバーが見つかった場合は、削除されたあともそのサーバーはサーバーリストに表示されます。

ホームネットワーク上のコントローラー機器からAVレシーバーを操作できるようにする（レンダラーアクセス制御設定）

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してAVレシーバーの操作を許可するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［レンダラーアクセス制御設定］を選ぶ。
   登録コントローラー機器のリスト（40台まで）が表示されます。
3. 設定したいコントローラー機器を選び、⊕を押す。
4. 以下のいずれの設定を選ぶ。
   - **許可する**：
     コントローラー機器からのアクセスを許可します。
   - **許可しない**：

コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

対応iPhone/iPad/iPodモデル

対応しているiPhone/iPad/iPodモデルは下記のとおりです。AVレシーバーにつないで使用する前にiPhone/iPad/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

USB接続時

- **iPhone :**
  iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS/iPhone 3G
- **iPod touch :**
  iPod touch（第2世代から第5世代）
- **iPod :**
  iPod classic
- **iPod nano :**
  iPod nano（第3世代から第7世代）

BLUETOOTH接続時

- **iPhone :**
  iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS
- **iPod touch :**
  iPod touch（第4世代および第5世代）

AirPlay使用時

- **iPhone :**
  iPhone 6 Plus/iPhone 6/iPhone 5s/iPhone 5c/iPhone 5/iPhone 4s/iPhone 4/iPhone 3GS
- **iPad :**
  iPad Air 2/iPad mini 3/iPad Air/iPad mini 2/iPad mini/iPad（第3世代ならびに第4世代）/iPad 2
- **iPod touch :**
  iPod touch（第3世代から第5世代）

AirPlay は、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touch に対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、およびiTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。

ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音源を楽しむ（AirPlay）

iPhone、iPad、iPod、またはパソコンのiTunesライブラリ内の音源を無線ネットワーク経由で楽しむことができます。

Ⓐ パソコン
Ⓑ iPhone/iPad/iPod

1. iPhone/iPad/iPod画面またはiTunesウィンドウのアイコンをタップまたはクリックする。
2. iTunesまたはiPhone/iPad/iPodのAirPlayメニューで、［STR-DN1060 XXXXXX］（＊）を選ぶ。
3. iPhone/iPad/iPodまたはiTunes内のコンテンツを再生する。

＊ XXXXXX は、それぞれの機器固有の識別番号です。

AirPlay再生の操作をする

AVレシーバーが出力先の機器として選ばれているとき、リモコンの◢ +/−、►II、■、I◄◄、►►Iボタンが使えます。

ご注意

- AVレシーバーとつないで使う前に、iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。
- iPhone/iPad/iPod、iTunes、およびAirPlayの操作について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

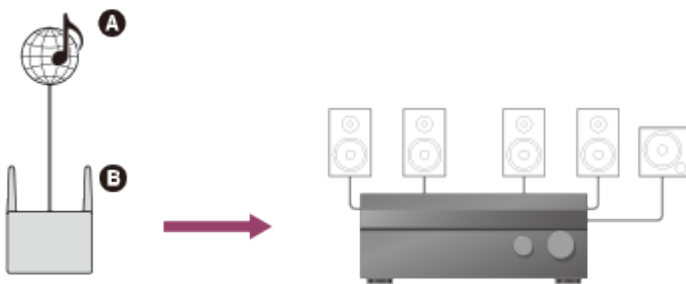
ヒント

- 再生が始まらない場合は、もう一度手順1からやり直してください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量を大きく設定すると、大音量の音声がAVレシーバーから出力されることがありますのでご注意ください。
- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesの音量レベルとAVレシーバーの音量レベルは、連動できないことがあります。

---

[75] ネットワーク機能を使う ｜ インターネットラジオや音楽サービスを楽しむ

インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ

インターネットラジオや音楽サービスを聞くことができます。
この機能を使うには、AVレシーバーをインターネットに接続の上、下記操作で表示されるガイドに従って設定が必要です。

A インターネット
B ルーター

1. ホームメニューから［Listen］-［Music Services］を選ぶ。
   テレビ画面にサービスプロバイダーリストが表示されます。サービスプロバイダーリストを更新するには、OPTIONSを押して［サーバーリスト更新］を選びます。
2. お好みのインターネットラジオや音楽サービスを選ぶ。

---

[76] ネットワーク機能を使う ｜ スマートフォンやタブレットなどでAVレシーバーを操作する（SongPal）

スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を

操作するためのアプリです。
お手持ちのスマートフォンやタブレットを使ってGoogle Play™（Playストア）またはApp StoreでSongPalを検索し、ダウンロードしてください。
SongPalを使うと、以下のことができます。

- AVレシーバーの入力、音量、よく使う設定を変更する。
- ホームネットワークサーバーやスマートフォン上にある音声／音楽コンテンツを本機で楽しむ。
- スマートフォンのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しむ。
- WPS機能対応のWi-Fiルーターがなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続を設定する。
- SongPal Link機能を使用する。

1. SongPalアプリをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
2. SongPalを起動し、画面の指示に従う。
3. NFC機能または手動でモバイル機器をAVレシーバーにつなぐ。
   接続が完了すると、SongPalを使ってAVレシーバーを操作できます。

ご注意

- SongPalはiPadには対応していません。
- この機能をお使いになる前に、［Bluetoothモード］が［受信］になっていることをご確認ください。
- 本機はSongPalバージョン3.0以降に対応しています。
- SongPalは、AVレシーバーのネットワーク機能とBLUETOOTH機能を使用します。AVレシーバーとモバイル機器は、SongPalの各機能が動作する状態でお使いください。
- SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

複数の機器で同じ音楽を聞く／別の場所で異なる音楽を聞く（SongPal Link）

SongPalを使って、パソコンやスマートフォンに保存した音楽や音楽配信サービスを、複数の部屋で同時に聞くことができます。
SongPal Linkについて詳しくは、下記のURLをご参照ください。
http://www.sony.net/nasite

[78] ネットワーク機能を使う ｜ スマートフォンやタブレットなどでAVレシーバーを操作する（TV SideView）

TV SideView機器をAVレシーバーに登録する

モバイル機器やタブレット機器などにインストールされたTV SideViewで、AVレシーバーを操作できます。
TV SideViewを使用する際には、TV SideViewがインストールされたモバイル機器をAVレシーバーに登録する必要があります（初回のみ）。
お手持ちのスマートフォンやタブレットを使い、Google Play™（Playストア）またはApp StoreでTV SideViewを検索し、ダウンロードしてください。

1. TV SideViewアプリをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
2. AVレシーバーの電源を入れ、お使いのモバイル機器と同じネットワークに接続する。
3. TV SideViewを起動し、メニューの［機器登録］を選び、TV SideView画面とAVレシーバー画面の指示に従って操作を行う。
   接続が完了すると、TV SideViewを使ってAVレシーバーを操作できます。

[79] ネットワーク機能を使う ｜ スマートフォンやタブレットなどでAVレシーバーを操作する（TV SideView）

登録したTV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）

AVレシーバーを操作可能なTV SideView機器を確認できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［登録済モバイル機器リスト］を選ぶ。

ご注意

- 最大で5台のTV SideView機器を登録できます。すでに5台に達していて、新たな機器を追加したい場合は、不要な機器を削除してください。

[80] ネットワーク機能を使う ｜ スマートフォンやタブレットなどでAVレシーバーを操作する（TV SideView）

TV SideView機器を機器リストから削除する

AVレシーバーを操作可能なTV SideView機器を削除できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［登録済モバイル機器リスト］を選ぶ。
3. 削除したい機器を選び、OPTIONSを押す。
4. オプションメニューから［削除］を選ぶ。
5. ［はい］を選ぶ。
   選んだ機器が機器リストから削除されます。

[81] ネットワーク機能を使う ｜ Google Cast™ を使う

Google Cast™ を使う

Google Castを使うことで、Google Cast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、AVレシーバーで再生することができます。Google Castを使うには、SongPalによる初期設定が必要です。

1. SongPalアプリをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
2. SongPalを起動し、AVレシーバーを接続している同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiで接続する。
3. SongPalの指示に従い、初期設定を完了する。
4. モバイル機器のGoogle Cast対応アプリを起動し、AVレシーバーを選択し、コンテンツを再生する。

[82] ネットワーク機能を使う ｜ Media Goを使ってハイレゾ音源を楽しむ

Media Goを使ってハイレゾ音源を楽しむ

Media GoのThrow機能を使えば、パソコンにダウンロードしたMedia Goライブラリ内のハイレゾ音源を含む音楽ファイルや画像ファイルをAVレシーバーで楽しむことができます。 また、Media Goの再生コントロールを使用して、再生、停止、音量調節などをパソコン側から操作することができます。
詳しくはMedia Goのオンラインヘルプをご覧ください。

[83] ネットワーク機能を使う ｜ ホームネットワーク上の特定の機器からAVレシーバーを操作するかを設定する

ホームネットワーク上のコントローラー機器からAVレシーバーを操作できるようにする（自動レンダラーアクセス許可）

ホームネットワーク上で検出されたコントローラー機器に対してAVレシーバーの自動アクセスを許可するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［自動レンダラーアクセス許可］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

[84] ネットワーク機能を使う ｜ ホームネットワーク上の特定の機器からAVレシーバーを操作するかを設定する

ホームネットワーク上のコントローラー機器からAVレシーバーを操作できるようにする（レンダラーアクセス制御設定）

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してAVレシーバーの操作を許可するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［レンダラーアクセス制御設定］を選ぶ。

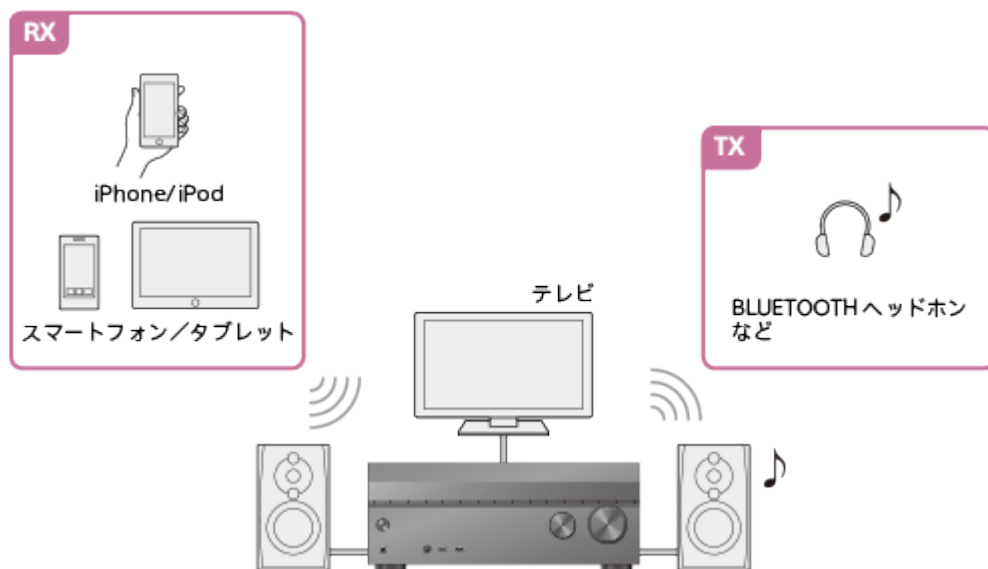
登録コントローラー機器のリスト（40台まで）が表示されます。

3. 設定したいコントローラー機器を選び、 を押す。
4. 以下のいずれの設定を選ぶ。
    - **許可する**：
      コントローラー機器からのアクセスを許可します。
    - **許可しない**：
      コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

ホームネットワークコントローラー機器を機器リストから削除する

---

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［レンダラーアクセス制御設定］を選ぶ。
3. 削除したい機器を選び、OPTIONSを押す。
4. オプションメニューから［削除］を選ぶ。
5. ［はい］を選ぶ。
   選んだ機器が機器リストから削除されます。

BLUETOOTH機能を使ってできること

- **RX（受信モード）**

AVレシーバーでBLUETOOTH機器の音声／音楽コンテンツを聞く
BLUETOOTH機能に対応したiPhone/iPodあるいはスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを、AVレシーバーに送信して楽しむことができます。
NFC機能に対応した機器なら、AVレシーバーに近づけるだけで、ワンタッチ接続が可能です。
ワンタッチ接続（NFC）でBLUETOOTH機器内の音源を楽しむ
BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

- **TX（送信モード）**

AVレシーバーにつないだAV機器から送信した音源をBLUETOOTHレシーバーで聞く
AVレシーバーにつないだAV機器の音源をBLUETOOTHヘッドホンで楽しむことができます。（NFC機能はお使いになれません。）音が途切れる場合は、BLUETOOTHヘッドホンをAVレシーバーに近づけてください。
BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリング可能なBLUETOOTH機器のバージョンとプロファイルについては、「対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル」を参照ください。

---

[87] BLUETOOTH機能を使う ｜ BLUETOOTH機器の音源を楽しむ

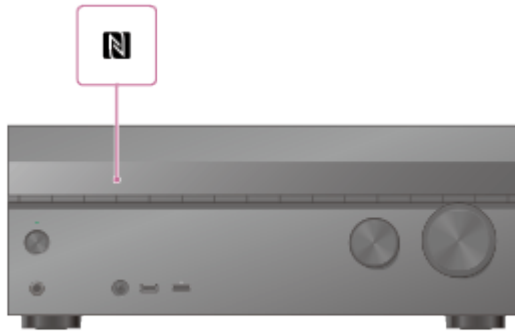
ワンタッチ接続（NFC）でBLUETOOTH機器内の音源を楽しむ

NFC機能を使ってワンタッチ接続でBLUETOOTH機器内の音源を楽しめます。

1. Android OS 4.0以前を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器の場合は、「NFC簡単接

続」アプリをお使いのスマートフォンにダウンロードする。

Android OS 4.1以降を搭載したNFC対応のBLUETOOTH機器をお使いの場合は、「NFC簡単接続」アプリをインストールする必要はありません。

2. BLUETOOTH機器でAVレシーバー上のNマークをタッチする。

3. BLUETOOTH機器の画面に表示される指示にしたがって、BLUETOOTH接続操作を完了する。
4. 接続が完了し、表示窓の［BT］が点灯していることを確認する。
5. BLUETOOTH機器で再生を開始する。
6. 音量を調節する。
最初にBLUETOOTH機器の音量を調節してください。それでも音量が小さい場合は、AVレシーバーの音量を調節してください。

対応スマートフォン

NFC機能を搭載したスマートフォン（対応OS：Android 2.3.3以降、Android 3.xは除く）

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［切］に設定されているときやソフトウェアアップデート画面が表示されている間は、この機能は働きません。
- NFC対応BLUETOOTHヘッドホンには対応していません。

ヒント

- AVレシーバーがスタンバイ状態のときにBLUETOOTH機器をつなぎたい場合は、システム設定メニューの［高速起動/ネットワークスタンバイ］を［入］に設定してください。

BLUETOOTH機器内の音源を楽しむ（ペアリング操作）

ペアリングとは、実際の接続前に、BLUETOOTH機器同士がそれぞれ登録し合う操作のことです。いったんペアリング操作が完了すると、以降の登録操作は不要です。ペアリングを開始する前に、［Bluetoothモード］が［受信］に設定されていることを確認してください。

1. BLUETOOTH機器をAVレシーバーから1メートル以内の場所に置く。
2. AVレシーバー本体のCONNECTION PAIRING BLUETOOTHボタンを長押しして、BLUETOOTH機能を選ぶ。
   表示窓に［PAIRING］が表示されます。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。
3. BLUETOOTH機器でペアリングを行い、AVレシーバーを検出する。
   詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。AVレシーバーは［STR-DN1060］として表示されます。
4. BLUETOOTH機器の画面で［STR-DN1060］を選ぶ。
   ［STR-DN1060］が表示されない場合は、手順1からやり直してください。
5. 接続が完了し、表示窓に機種名と［BT］が点灯していることを確認する。
6. BLUETOOTH機器で再生を開始する。
7. 音量を調節する。
   まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、AVレシーバーで音量レベルを調節します。

ペアリング操作を中止する

入力を切り替えます。

ご注意

- 手順4でAVレシーバーとの接続を確立しているときに、BLUETOOTH機器でオーディオプロファイル（A2DPまたはAVRCP）を選びます。BLUETOOTH機器がAVRCPプロファイルに対応していない場合は、AVレシーバーで再生などの操作はできません。
- 手順5でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、［0000］を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大9台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。10台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。
- ［Bluetoothモード］が［切］に設定されているときは、本体のCONNECTION PAIRING BLUETOOTHボタンは働きません。

ヒント

- システム設定メニューの［機器名］で、AVレシーバーの名前を変更することができます。
- BLUETOOTH機器の種類によっては、BLUETOOTH機器の操作ボタンでも音量を調節できます。

BLUETOOTH機器をリモコンで操作する

リモコンの以下のボタンを使ってBLUETOOTH機器を操作できます。

- **►II**（*）**：** 再生開始または一時停止
- **■：** 再生停止
- **I◄◄/►►I：** 前／次のトラックの先頭へ移動

* BLUETOOTH機器が一台もつながれていないときに►IIを押すと、自動的に前回つないだBLUETOOTH機器につながり、音楽を再生します。

ご注意

- これらの操作は特定のBLUETOOTH機器では働かないことがあります。また、つないだBLUETOOTH機器によって実際の操作が異なることがあります。
- RX/TXボタンはBLUETOOTH機能またはスクリーンミラーリング機能が働いているとき、または［Bluetoothモード］が［切］に設定されているときは働きません。

対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。下記のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- **対応BLUETOOTHバージョン：** BLUETOOTH標準規格Ver.3.0準拠
- **対応BLUETOOTHプロファイル：**
  - A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音声／音楽コンテンツを送受信する。
  - AVRCP 1.5（Audio Video Remote Control Profile）：一時停止、停止、再生、音量調整など、オーディオ／映像機器を操作する。

最新の情報については、「カスタマーサポートウェブサイト」に記載のウェブサイトをご確

認ください。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、BLUETOOTH機器での音声再生に比べて、AVレシーバーでの音声再生が遅れることがあります。

BLUETOOTHヘッドホンに送信して音声を聞く（ペアリング操作）

AVレシーバーで再生されている音声をBLUETOOTHヘッドホンで聞くことができます。

1. Bluetooth設定メニューの［Bluetoothモード］-［送信］を選ぶ。
   表示窓に［BT TX］と表示されます。
2. BLUETOOTHヘッドホンのBLUETOOTH機能をオンにする。
3. Bluetooth設定メニューの［機器リスト］からBLUETOOTHヘッドホンの名称を選ぶ。
   BLUETOOTHヘッドホンの名前が見つからない場合は、［検索］を選んでください。
4. 音源を再生する。
   AVレシーバーを経由して、BLUETOOTHヘッドホンから音声が出力されます。
5. 音量を調節する。
   最初にBLUETOOTHヘッドホンを適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、AVレシーバーで音量を調節します。
   BLUETOOTHヘッドホンに接続した状態で、AVレシーバーの音量は調節できません。
   本体のMASTER VOLUMEつまみやリモコンの◿ +/-は、BLUETOOTHヘッドホンにしか働きません。

ご注意

- BLUETOOTHヘッドホンは9台まで登録することができます。9台分を登録したあと新たなBLUETOOTHヘッドホンをペアリングすると、9台のなかで最も接続履歴の古いBLUETOOTHヘッドホンの登録情報が、新たなBLUETOOTHヘッドホンの情報で上書きされます。
- BLUETOOTHヘッドホンは［機器リスト］に15台まで表示することができます。
- 音声送信中はオプションメニューのサウンドエフェクトや設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力できません。

BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、BLUETOOTHヘッドホン側での再生がわずかに遅れます。
- SCMS-T非対応のヘッドフォンへは音声を出力できません。
- BLUETOOTHヘッドホンが正しく接続されているときは、スピーカーやHDMI OUT端子からは音声が出力されません。
- AVレシーバーが送信状態のときは［Screen mirroring］、［Bluetooth］、オーディオ機器コントロールが無効になります。
- NFC対応BLUETOOTHヘッドホンには対応していません。

ヒント

- BLUETOOTH機器からのAAC音声、LDAC音声の受信を無効または有効にできます。
- リモコンのBLUETOOTH RX/TXボタンでも［Bluetoothモード］の切り替えができます。
- 手順2の機器がペアリング済みで、最後に接続していた機器の場合、BLUETOOTH RX/TXボタンを押すだけで自動的にAVレシーバーと接続できます。この場合、手順3の操作を行う必要はありません。

対応BLUETOOTHバージョンおよびプロファイル

「プロファイル」は各種BLUETOOTH製品の特性ごとに機能を標準化したものです。下記のBLUETOOTHバージョンおよびプロファイルに対応しています。

- **対応BLUETOOTHバージョン：** BLUETOOTH標準規格Ver.3.0準拠
- **対応BLUETOOTHプロファイル：**
  - A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音声／音楽コンテンツを送受信する。
  - AVRCP 1.5（Audio Video Remote Control Profile）：一時停止、停止、再生、音量調整など、オーディオ／映像機器を操作する。

最新の情報については、「カスタマーサポートウェブサイト」に記載のウェブサイトをご確認ください。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、BLUETOOTH機器での音声再生に比べて、AVレシーバーでの音声再生が遅れることがあります。

スマートフォンやタブレット機器を使って操作する（SongPal）

SongPalは、スマートフォン／タブレットから、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。
お手持ちのスマートフォンやタブレットを使ってGoogle Play™（Playストア）またはApp StoreでSongPalを検索し、ダウンロードしてください。
SongPalを使うと、以下のことができます。

- AVレシーバーの入力、音量、よく使う設定を変更する。
- ホームネットワークサーバーやスマートフォン上にある音声／音楽コンテンツを本機で楽しむ。
- スマートフォンのディスプレイを使って音楽をビジュアルで楽しむ。
- WPS機能対応のWi-Fiルーターがなくても、SongPalを使って簡単にWi-Fi接続を設定する。
- SongPal Link機能を使用する。

1. SongPalアプリをお使いのモバイル機器にダウンロードする。
2. SongPalを起動し、画面の指示に従う。
3. NFC機能または手動でモバイル機器をAVレシーバーにつなぐ。
   接続が完了すると、SongPalを使ってAVレシーバーを操作できます。

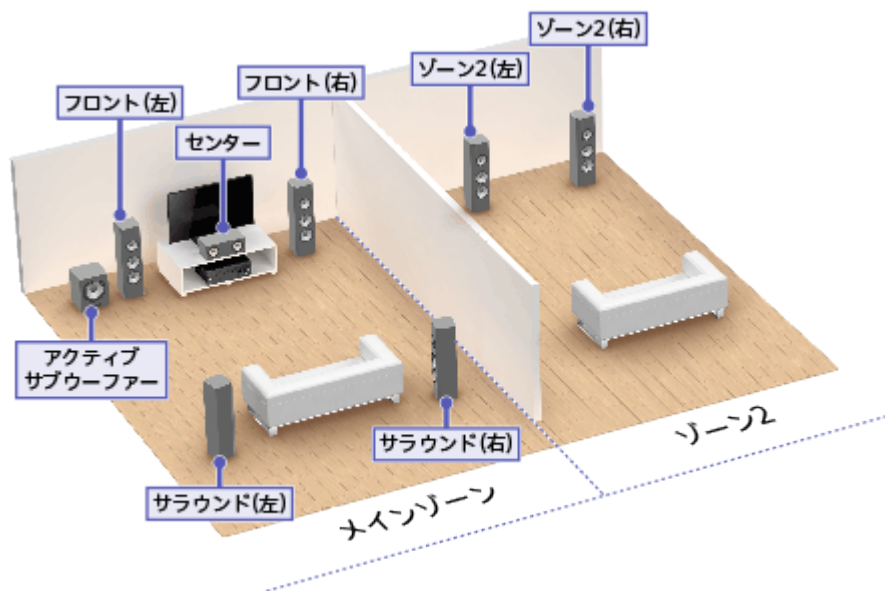
ご注意

- SongPalはiPadには対応していません。
- この機能をお使いになる前に、［Bluetoothモード］が［受信］になっていることをご確認ください。
- 本機はSongPalバージョン3.0以降に対応しています。
- SongPalは、AVレシーバーのネットワーク機能とBLUETOOTH機能を使用します。AVレシーバーとモバイル機器は、SongPalの各機能が動作する状態でお使いください。
- SongPalの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

[94] マルチゾーン機能を使う ｜ マルチゾーン機能について

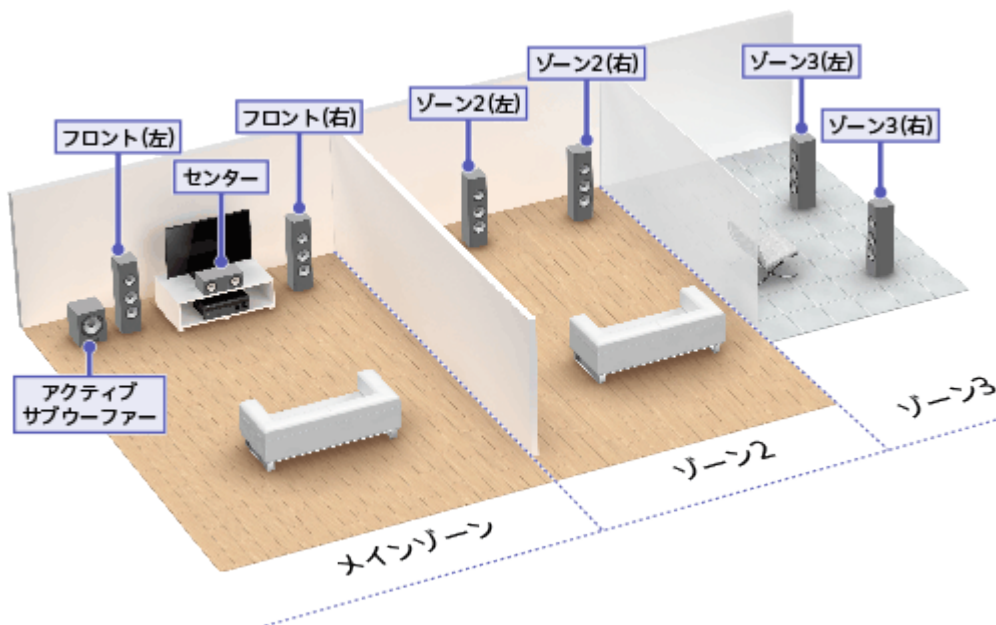
マルチゾーン機能を使ってできること

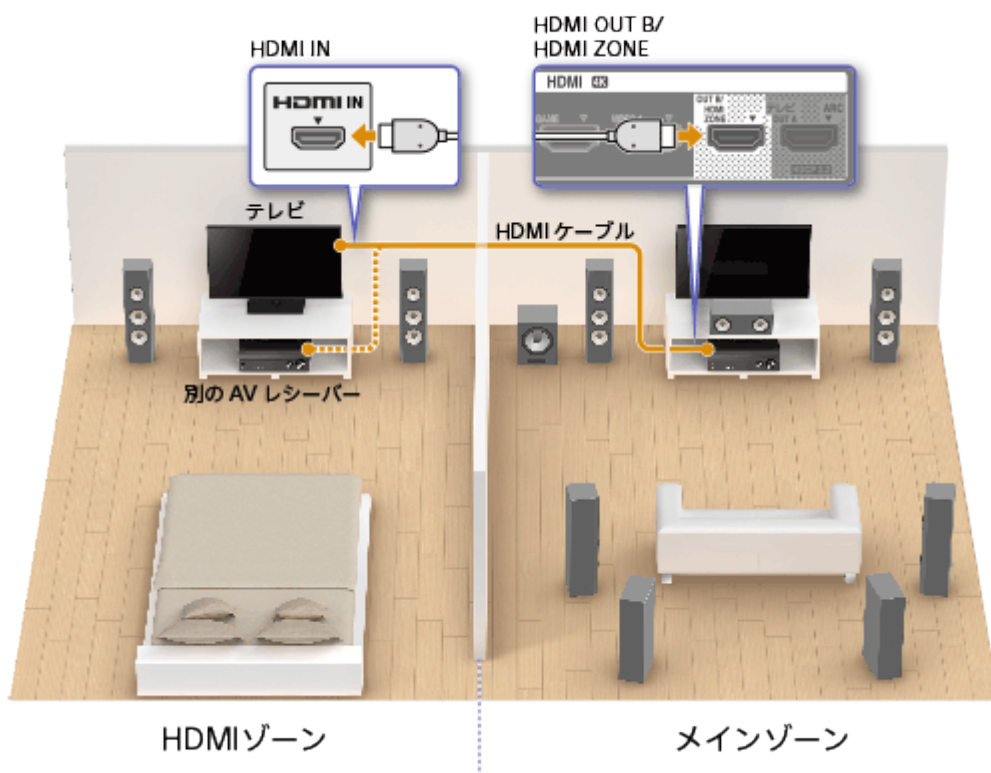
- **2箇所で音源を聞く — ゾーン2**

別の部屋のスピーカーをAVレシーバーのスピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につなぐと、別の部屋で同じ音源を楽しむことができます。例えば、リビングルームとキッチンの2か所で別々のAV機器から同じ音楽を同時に聞くことができます。あるいは、リビングルームで映画を見ながら、キッチンでは別の機器で音楽を再生することができます。
音量もそれぞれの部屋で別に調節できます。

ヒント

- AVレシーバーまたはアンプをゾーン2に追加し、ZONE 2 OUT端子につなぐと、ゾーン2でさらにパワフルな音を楽しむことができます。

- **3箇所で音源を聞く ― ゾーン2 + ゾーン3**

ゾーン2に加えて、3つ目の部屋のスピーカーをAVレシーバーのスピーカーSURROUND /ZONE 3端子につなぐと、3つの部屋で同じ音源を同時に楽しむことができます。例えば、リビングルームのAV機器の音源がキッチンとテラスでも同時に聞くことができます。あるいは、別々のコンテンツを3か所で別々に楽しむこともできます。
音量もそれぞれの部屋で別に調節できます。

- **HDMIゾーン**

別の部屋のテレビやもう一台のAVレシーバーをHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐと、その部屋でも映像と音楽が楽しめます。例えば、リビングルームのAV機器の映像や音楽を、寝室でも高品質で再生することができます。

ご注意

- ゾーン2、ゾーン3での使用できる音源には制限があります。詳しくは、「各ゾーンで視聴できる入力」を参照してください。

各ゾーンで視聴できる入力

ゾーンによって、視聴できる入力は異なります。

メインゾーンで視聴できる入力

メインゾーンでは、AVレシーバーにつないだどの機器からの入力も視聴することができます。
BLUETOOTHを使って受信した音源なども選ぶことができます。

BD/DVD:

- HDMI IN BD/DVD 端子からの音源

SAT/CATV:

- HDMI IN SAT/CATV (MHL) 端子からの音源
- 映像／音声 IN SAT/CATV 端子からの音源
- コンポーネント映像 IN SAT/CATV 端子からの音源
- 光デジタル音声 IN 1 (SAT/CATV) 端子からの音源

GAME:

- HDMI IN GAME 端子からの音源

SA-CD/CD:

- HDMI IN SA-CD/CD 端子からの音源
- 同軸デジタル音声 IN SA-CD/CD 端子からの音源
- 音声 IN SA-CD/CD 端子からの音源

VIDEO 1:

- HDMI IN VIDEO 1 端子からの音源
- 映像／音声 IN VIDEO 1 端子からの音源

VIDEO 2:

- 前面の HDMI/MHL (VIDEO 2 IN) 端子からの音源

USB:

- 前面の ψ （USB）ポートからの音源

TV:

- 光デジタル音声 IN 2 (TV) 端子からの音源
- 音声 IN TV 端子からの音源

FM TUNER:

- 内蔵FMチューナーが受信するFM放送

Bluetooth:

BLUETOOTH 機能で受信した音源

Home Network:

- ホームネットワーク上の音源

ゾーン2とゾーン3で視聴できる入力

ゾーン2とゾーン3では、以下の入力が利用可能です。
ゾーン2とゾーン3で映像を見ることはできません。HDMI IN端子につないだ機器の音声はお聞きになれません。

SOURCE:

- メインゾーンで視聴中の信号（音声のみ）

SAT/CATV:

- 音声 IN SAT/CATV 端子からの音源

VIDEO 1:

- 音声 IN VIDEO 1 端子からの音源

SA-CD/CD:

- 音声 IN SA-CD/CD 端子からの音源

FM TUNER:

- 内蔵FMチューナーが受信するFM放送

USB（＊）：

- 前面の ⍦（USB）ポートからの音源

Bluetooth（＊）：

- BLUETOOTH 機能で受信した音源

Home Network（＊）：

- ホームネットワーク上の音源

ご注意

- HDMI IN、光デジタル音声IN、同軸デジタル音声IN端子からの信号はゾーン2とゾーン3のスピーカーからは出力できません。
- ゾーン2またはゾーン3の入力が［USB］、［Home Network］、［Music Services］あるいは［Bluetooth］の場合、メインゾーンで［Screen mirroring］を選ぶと、ゾーン2とゾーン3の入力は自動的に［SOURCE］に設定されます。この場合、ゾーン2あるいはゾーン3からは音声は出力されません。
- AV機器が再生中で、ゾーン2またはゾーン3の入力が［USB］、［Home Network］あるいは［Music Services］の場合、メインゾーンにBLUETOOTHヘッドホンをつなぐと、ゾーン2とゾーン3の入力は自動的に［SOURCE］に設定されます。この場合、ゾーン2あるいはゾーン3から出力される信号は、FMチューナーとアナログ音声だけになります。

- AV機器再生中に、BLUETOOTHヘッドホンをメインゾーンにつないでいる場合、ゾーン2あるいはゾーン3の入力を［USB］、［Home Network］あるいは［Music Services］に切り替えると、BLUETOOTHヘッドホンの接続が解除されます。

* メインゾーン、ゾーン2あるいはゾーン3から、［USB］、［Home Network］、［Music Services］または［Bluetooth］を選ぶことができます。どちらかのゾーンでいずれかの入力が選ばれている場合でも、最後に選んだ入力が優先されます。

HDMIゾーンで視聴できる入力

HDMIゾーンでは、以下の入力が同時または別々に利用可能です。HDMI IN端子から入力される映像と音声のみ視聴できます。

SOURCE:

- メインゾーンで視聴中の信号（HDMI IN端子につないだ入力のみ）

BD/DVD（*）:

- HDMI IN BD/DVD 端子からのソース

GAME:

- HDMI IN GAME 端子からのソース

SAT/CATV:

- HDMI IN SAT/CATV (MHL) 端子からのソース

VIDEO 1:

- HDMI IN VIDEO 1 端子からのソース

VIDEO 2:

- 前面の HDMI/MHL (VIDEO 2 IN) 端子からのソース

SA-CD/CD（*）:

- HDMI IN SA-CD/CD 端子からのソース

* メインゾーンとHDMIゾーンから［BD/DVD］または［SA-CD/CD］のどちらかの入力が選べます。どちらかのゾーンで異なる入力が選ばれた場合には、最後に選んだ入力が優先されます。

---

1. 別の部屋（ゾーン2、ゾーン3）のスピーカーを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、AVレシーバーにつないだ機器の音源を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2ではCDを聞くことができます。

ゾーン2にスピーカを設置し、各スピーカーを下図のようにスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につないでください。
必ず電源コードを抜いた状態で、ケーブル類をつないでください。スピーカーケーブルのつなぎかたについて詳しくは、「スピーカーケーブルのつなぎかた」をご覧ください。

ゾーン2のスピーカーを接続する

Ⓐ スピーカー
Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- このゾーン2接続を使うときは、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の設定を行う必要があります。
- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

ゾーン3のスピーカーを接続する

Ⓐ スピーカー
Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

ご注意

- このゾーン3接続を使うときは、スピーカー SURROUND/ZONE 3端子の設定を行う必要があります。
- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン3のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン3のスピーカーから出力できません。

---

[97] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2、ゾーン3）に設置したスピーカーからの音源を楽しむ

2. ゾーン2用にスピーカーを設定する

ゾーン2に設置したスピーカーをゾーン2のスピーカーとして設定することができます。
ゾーン2に設置したスピーカーをAVレシーバーのスピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子に接続したら、以下の操作を行います。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［スピーカーパターン］を選ぶ。
3. テレビ画面に表示される以下のいずれかのスピーカーパターンを選び、［保存］を選ぶ。
   3/2.1、 3/2、2/2.1、2/2、3/0.1、3/0、2/0.1または 2/0

4. ［サラウンドバックスピーカー割り当て］-［ゾーン2］を選ぶ。

ご注意

- サラウンドバックまたはフロントハイスピーカーありのスピーカーパターンに設定している場合は、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子をバイアンプ接続用またはゾーン2用のスピーカーに設定できません。

---

[98] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2、ゾーン3）に設置したスピーカーからの音源を楽しむ

3. ゾーン3用にスピーカーを設定する

ゾーン3に設置したスピーカーをゾーン3のスピーカーとして設定することができます。
ゾーン3に設置したスピーカーをAVレシーバーのスピーカーSURROUND/ZONE 3端子に接続したら、以下の操作を行います。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［スピーカーパターン］を選ぶ。
3. テレビ画面に表示される以下のいずれかのスピーカーパターンを選び、［保存］を選ぶ。
   3/0.1、3/0、2/0.1または 2/0
4. ［サラウンドスピーカー割り当て］-［ゾーン3］を選ぶ。

ご注意

- サラウンドスピーカーありのスピーカーパターンに設定している場合は、スピーカー SURROUND/ZONE 3端子をゾーン3用のスピーカーに設定できません。

---

[99] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2、ゾーン3）に設置したスピーカーからの音源を楽しむ

4. ゾーン2、ゾーン3に設置したスピーカーからの音源を楽しむ

以下の手順でゾーン2、ゾーン3でもAVレシーバーからの音源を楽しめます。

1. 本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、ゾーン2またはゾーン3を選ぶ。
2. 本体のZONE POWERボタンを押す。
   選択したゾーンの出力が有効になります。
3. 表示窓に［2. xxxx（入力名）］または［3. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のINPUT SELECTORつまみを使って出力したい音源を選ぶ。
   ゾーン2とゾーン3でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、［SOURCE］を選びます。
4. 選択した入力機器で聞きたい音源コンテンツの再生を始める。
5. 適切な音量に調節する。
   表示窓に［2. xxxx（入力名）］または［3. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節します。

ヒント

- 手順3で、［2. xxxx（入力名）］または［3. xxxx（入力名）表示が消えてしまったら、本体のZONE SELECTボタンを再度押します。

ゾーン2またはゾーン3操作を解除する

本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、解除したいゾーンを選び、本体のZONE POWERボタンを押す。

ゾーン2またはゾーン3操作で利用できる入力

「各ゾーンで視聴できる入力」を参照してください。

ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから、設定を変更したり、ゾーン入力を切り替えたり、ゾーン操作が簡単にできます。

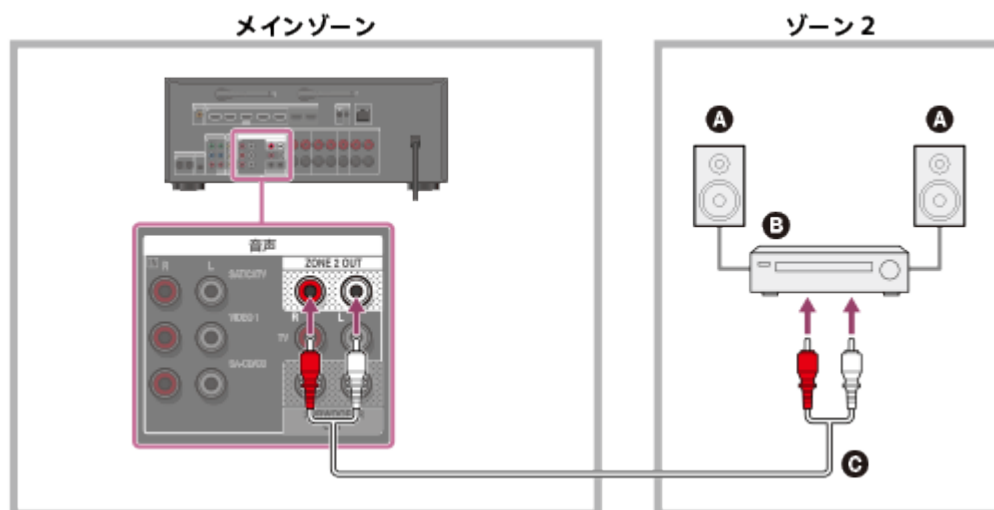
---

[100] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2）に設置したもう1台のアンプにつないで楽しむ

1. ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

メインゾーン以外のゾーンで、AVレシーバーにつないだ機器の音源を楽しめます。例えば、メインゾーンではDVDを視聴し、ゾーン2ではCDを聞くことができます。

Ⓐ スピーカー
Ⓑ アンプ／レシーバー
Ⓒ 音声ケーブル（別売）

ご注意

- ［USB］、［Bluetooth］（BLUETOOTH RX（受信）モード時のみ）、［Home Network］、［Music Services］、［FM TUNER］からの音声信号、または音声 IN端子からの音声のみゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力信号、ならびにスクリーンミラーリングの音声は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。

---

[101] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2）に設置したもう1台のアンプにつないで楽しむ

2. ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）

ZONE 2 音声 OUT端子の音量調節を可変または固定に設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［ゾーン設定］を選ぶ。
2. ［ゾーン2音声出力モード］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **可変：**
     ゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。AVレシーバーの音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが調整可能になります。
   - **固定：**

ゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。AVレシーバーの音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが固定されます。

ご注意

- ［可変］に設定されているときは、初期設定で音量が下げられています。設定完了後、音声を聞きながら音量を上げてください。スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の音量は音声ZONE 2 OUT端子と連動して調節されます。

---

[102] マルチゾーン機能を使う ｜ 他の部屋（ゾーン2）に設置したもう1台のアンプにつないで楽しむ

3. ゾーン2に設置したもう1台のアンプにつないだスピーカーからの音源を楽しむ

以下の手順でゾーン2でAVレシーバーからの音源を楽しめます。

1. ゾーン2のアンプの電源を入れる。
2. 本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、ゾーン2を選ぶ。
3. 本体のZONE POWERボタンを押す。
   ゾーン2出力が有効になります。
4. 表示窓に［2. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のINPUT SELECTORつまみを使って出力したい音源を選ぶ。
5. 適切な音量に調節する。
   ゾーン2のアンプを使って音量を調節します。ゾーン設定メニューの［ゾーン2音声出力モード］を［可変］に設定している場合は、表示窓に［2. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のMASTER VOLUMEつまみを使ってゾーン2の音量を調節することもできます。

ヒント

- 手順4で、［2. xxxx（入力名）］表示が消えてしまったら、本体のZONE SELECTボタンを再度押します。

ゾーン2操作を解除する

本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、解除したいゾーンを選び、表示窓に［2.

xxxx（入力名）］が表示されている間に本体のZONE POWERボタンを押す。

ゾーン2操作で利用できる入力

「各ゾーンで視聴できる入力」を参照してください。

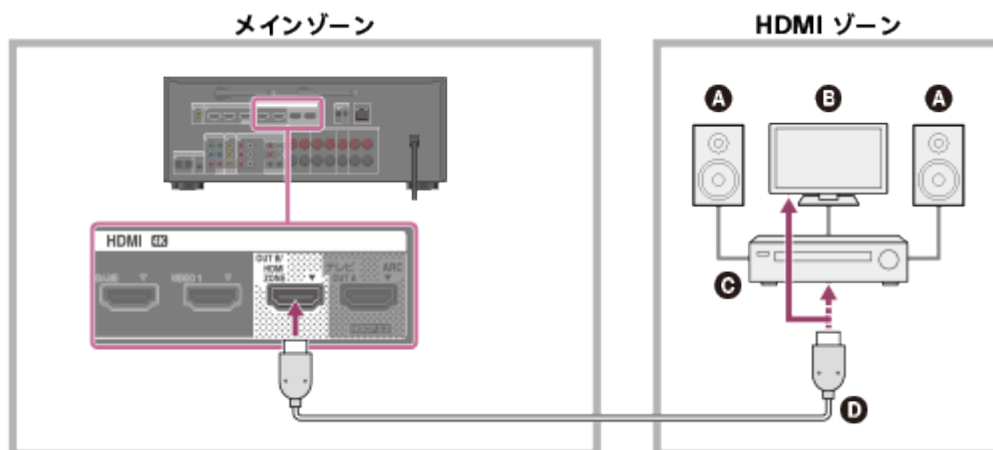
ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから、設定を変更したり、ゾーン入力を切り替えたり、ゾーン操作が簡単にできます。

---

[103] マルチゾーン機能を使う ｜ もう1台のテレビやレシーバーを使って他の部屋で映像や音楽を楽しむ

1. 別の部屋のレシーバーやテレビをHDMI接続する

HDMI入力の映像／音声信号はHDMI OUT B/HDMI ZONE端子を使ってHDMIゾーンに出力されます。

Ⓐ スピーカー
Ⓑ テレビ
Ⓒ アンプ／レシーバー
Ⓓ HDMIケーブル（別売）

ご注意

- この接続を使うには、HDMI設定メニューの［HDMI出力Bモード］を［ゾーン］に設定してください。

---

[104] マルチゾーン機能を使う ｜ もう1台のテレビやレシーバーを使って他の部屋で映像や音楽を楽しむ

2. HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）

HDMIゾーンの接続には、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が使用できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI出力Bモード］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **メイン：**
     端子は、HDMI OUT B出力用に使用されます。テレビやプロジェクターを一つの部屋（メインゾーン）で楽しみたいときに選びます。
   - **ゾーン：**
     端子はHDMIゾーン出力用に使用されます。別の部屋（HDMIゾーン）のアンプにつないだ機器で映像や音声を楽しみたいときに選びます。

ご注意

- ［ゾーン］を選んだ場合、HDMI機器制御（"ブラビアリンク"）と高速入力切替はお使いになれません。
- HDMIゾーンの入力選択については「4. 別の部屋のレシーバーやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）」を参照してください。

3. メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）

HDMIゾーンが有効な場合、メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を選ぶと、メインゾーンでの音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。この干渉を防止するために、メインゾーンへのHDMI入力を優先するように設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI出力優先端子］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。

メイン／ゾーン：
メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を楽しむことができます。ただし、メインゾーンとHDMIゾーンの双方で音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。

- **メイン：**
メインゾーンで高品質の音声および映像信号を楽しむことができます。ただし、HDMIゾーンで同じHDMI入力を選ぶと、HDMIゾーンでは映像と音声が出力されません。

ご注意

- この機能は、［HDMI出力Bモード］が［ゾーン］に設定されているときのみ働きます。

ヒント

- メインゾーンとHDMIゾーンに異なる解像度のテレビをつなぎ、どちらのゾーンでも同じHDMI入力を選んだ場合、それぞれのテレビに出力される映像信号がいずれかのテレビの低い方の解像度に制限されます。

---

[106] マルチゾーン機能を使う ｜ もう1台のテレビやレシーバーを使って他の部屋で映像や音楽を楽しむ

4. 別の部屋のレシーバーやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）

以下の手順でHDMIゾーンでAVレシーバーからの音源を楽しめます。

1. HDMIゾーンのアンプまたはテレビの電源を入れる。
2. 本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、HDMIゾーンを選ぶ。
3. 本体のZONE POWERボタンを押す。
HDMIゾーンが有効になります。
4. 表示窓に［H. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のINPUT SELECTORつまみを使って出力したいソースを選ぶ。
5. 適切な音量に調節する。
HDMIゾーンのアンプまたはテレビを使って音量を調節します。AVレシーバーからHDMIゾーンの音量調節はできません。

ヒント

- 手順4で、［H. xxxx（入力名）］表示が消えてしまったら、本体のZONE SELECTボタンを再度押します。

HDMIゾーン操作を解除する

本体のZONE SELECTボタンをくり返し押して、解除したいゾーンを選び、表示窓に［H. xxxx（入力名）］が表示されている間に本体のZONE POWERボタンを押す。

HDMIゾーン操作で利用できる入力

「各ゾーンで視聴できる入力」を参照してください。

ヒント

- 専用アプリSongPalを使うと、お使いのスマートフォンやタブレットから、設定を変更したり、ゾーン入力を切り替えたり、ゾーン操作が簡単にできます。

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能により、HDMI機器制御機能を搭載するテレビ、ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤー、DVDプレーヤー、AVアンプなどのソニー製品を連動操作することができます。
HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。
“ブラビアリンク”機能に対応している製品とつなぐことをおすすめします。

“ブラビアリンク”の準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うために、HDMI機器制御機能を有効に設定します。AVレシーバーおよびつないだ機器のHDMI機器制御機能を個別に有効に設定する必要があります。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI機器制御］を選ぶ。

3. ［入］を選ぶ。
   HDMI機器制御機能が有効になります。

4. リモコンのHOMEを押して、ホームメニューに戻る。

5. もう一度HOMEを押して、ホームメニューを閉じる。

6. リモコンの入力切り替え用ボタンで、HDMI入力につないだ機器のうち、映像を表示させたい機器を選ぶ。

7. AVレシーバーにつないだ機器のHDMI機器制御機能を有効に設定する。
   つないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

8. 他の機器でもHDMI機器制御機能を使いたいときは、手順6、7をくり返す。

ご注意

- HDMIケーブルを抜いたり接続を変えたりした場合は、もう一度上記の操作を行ってください。
- ［HDMI出力Bモード］が［ゾーン］に設定されているとき、この機能は使用できません。

つないだ機器からの入力ソースをすぐに楽しむ（ワンタッチプレイ）

HDMI接続した機器のコンテンツを再生すると、AVレシーバーは自動的に電源が入り、対応するHDMI入力に切り替わります。

ご注意

- テレビによっては、コンテンツの先頭が表示されないことがあります。
- ［スタンバイスルー］が［自動］または［入］に設定されているときは、AVレシーバーがスタンバイ状態の場合、接続した機器のコンテンツを再生すると、音声はテレビだけから出力されます。

AVレシーバーにつないだスピーカーからテレビの音声を楽しむ（システムオーディオコントロール）

システムオーディオコントロールを使って以下の操作ができます。

- AVレシーバーの電源を入れると、テレビの音声がAVレシーバーにつないだスピーカーから出力されます。AVレシーバーの電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから出力されます。
- AVレシーバーにつないだスピーカーからテレビの音声を出力しているときは、テレビ側の音量調節でAVレシーバーの音量も調節できます。

ご注意

- ［HDMI機器制御］が［入］に設定されていると、HDMI設定メニューの［音声信号出力］設定は、テレビのスピーカー設定に応じて自動的に設定されます。

ヒント

- テレビのスピーカー設定を切り替えることでもこの機能を操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

テレビの電源と同時にAVレシーバーと接続機器の電源も切る（電源オフ連動）

テレビの電源を切ると、HDMI接続されているAVレシーバーやその他の機器の電源も同時に切ることができます。

ご注意

- 電源オフ連動は、テレビ側の設定が必要な場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- つないだ機器の仕様によっては、電源オフ連動で機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各接続機器の取扱説明書を参照してください。

最適な音場（サウンドフィールド）を自動で選ぶ（シーンセレクト）

シーンセレクト連動に対応したテレビをお使いの場合、テレビで選んだシーンに応じて、最適なサウンドフィールドに自動的に切り替えることができます。
操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

テレビで選んだシーンからサウンドフィールドを切り替える（シーン： サウンドフィールド）

- **シネマ：**
  HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- **スポーツ：**
  スポーツ（Sports）（SPORTS）
- **ミュージック：**
  ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **アニメ：**
  オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **フォト：**
  オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **ゲーム：**
  オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **グラフィックス：**
  オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）

ご注意

- テレビによっては、サウンドフィールドが切り替わらないことがあります。

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール対応のテレビをAVレシーバーにつないだ場合は、テレビ画面にオーディオ機器コントロールの設定画面を表示させることができます。
テレビのリモコンでAVレシーバーの入力や音場（サウンドフィールド）を切り替えることができます。また、センタースピーカー、アクティブサブウーファーのレベルや［サウンド・オプティマイザー］、［二重音声］、［AVシンク］の設定を調節できます。

ご注意

- オーディオ機器コントロールを使用するには、テレビがインターネットに接続されている必要があります。

---

[114] その他の機能を使う ｜ ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”機能）

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリモコンを使って、AVレシーバーのメニュー操作ができます。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- AVレシーバーは［チューナー］としてテレビに認識されます。
- お使いのテレビがリンクメニューに対応している必要があります。
- テレビの種類によっては、一部の操作ができないことがあります。

---

[115] その他の機能を使う ｜ ブラビアテレビと他機器と連動させる（“ブラビアリンク”機能）

MHL対応機器の操作について

MHLケーブル（別売）でMHL対応機器をつなぐと、ワンタッチプレイおよびテレビリモコンからのメニュー操作が簡単にできます。
HDMIケーブル（別売）を使って“ブラビアリンク”対応テレビとの連動操作も可能です。

ご注意

- MHL対応機器によっては、一部の操作が連動しないことがあります。

ワンタッチプレイ

MHL対応機器をつないだり、再生したりすると、AVレシーバーは適切な入力に切り替わります。

ご注意

- この機能は以下の場合のみ働きます。
  - AVレシーバーの電源が入っている。
  - ［HDMI機器制御］が［入］に設定されている。

– ［MHL機器 自動入力切替］が［入］に設定されている。
– MHL対応機器をMHLケーブル（別売）でHDMI/MHL（VIDEO 2 IN）またはHDMI IN SAT/CATV（MHL）端子に接続している。

リモコンからのメニュー操作

リモコンの⇧/⇩/⇦/⇨、⊕、BACK、OPTIONS、HOME（＊）、►II、■、および I◄◄/►►I ボタンを使ってMHL対応機器を操作できます。

＊ HOMEを押したままにすると、MHL対応機器のホームメニューを表示できます。

ご注意

- この機能は以下の場合のみ働きます。
  – AVレシーバーの電源が入っている。
  – MHL対応機器をMHLケーブル（別売）でHDMI/MHL（VIDEO 2 IN）またはHDMI IN SAT/CATV（MHL）端子に接続している。

[116] その他の機能を使う ｜ 映像や音声の設定をする

HDMI映像信号を出力するモニターを切り替える

HDMI OUT A（テレビ）とHDMI OUT B/HDMI ZONE端子にモニターを2台つないでいる場合は、リモコンのHDMI OUTPUTボタンを押して2台のモニターへの出力を切り替えることができます。

1. 2台のモニターを接続し、AVレシーバーと2台のモニターの電源を入れる。
2. HDMI OUTPUTを押す。
   ボタンを押すたびに、出力が下記のように切り替わります。
   HDMI A - HDMI B - HDMI A+B - HDMI OFF

ご注意

- HDMI OUT A（テレビ）端子とHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につないだ各モニターの対応映像フォーマットが異なる場合、［HDMI A+B］が働かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、［HDMI A+B］が働かない場合があります。
- テレビ画面のメニューは、モニターをHDMI OUT A（テレビ）端子につないでいるときにだけ表示されます。
- ［HDMI OFF］を選んでいるときも、HDMI信号はHDMIゾーンへは出力されます。

[117] その他の機能を使う ｜ 映像や音声の設定をする

デジタル音声とアナログ音声を切り替える（入力モード）

機器をAVレシーバーのデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するコンテンツの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り替えたりすることができます。

1. 入力切り替え用ボタンを押して入力を選ぶ。
2. OPTIONSを押す。
3. ［入力モード］を選ぶ。
    - **自動：**
      デジタル音声信号が優先されます。複数のデジタル接続をしている場合は、HDMIの音声信号が優先されます。
      デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。テレビ入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が優先されます。お使いのテレビがARC機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
    - **光IN：**
      デジタル音声信号入力を光デジタル音声端子に指定します。
    - **同軸 IN：**
      デジタル音声信号入力を同軸デジタル音声端子に指定します。
    - **アナログIN：**
      アナログ音声信号入力を音声 IN（L/R）端子に指定します。

ご注意

- 入力によっては、［入力モード］が暗く表示され、他のモードを選ぶことができません。
- ［アナログダイレクト］を使っているときは、音声入力は［アナログIN］に設定されます。他のモードは選べません。

ヒント

- 手順1で入力を選ぶときに、本体のINPUT SELECTORつまみを使うこともできます。

他の映像／音声入力端子を使う（入力の割り当て）

端子の初期設定がつないでいる機器に対応していない場合は、コンポーネント映像端子（＊）および光デジタル音声/同軸デジタル音声入力端子の割り当てを他の入力に変更できます。
例： DVDプレーヤーを光デジタル音声 IN 1（SAT/CATV）端子およびコンポーネント映像 IN SAT/CATV端子につないでいるとき

- 光デジタル音声 IN 1（SAT/CATV）端子を［BD/DVD］に割り当てる。
- コンポーネント映像 IN SAT/CATV端子を［BD/DVD］に割り当てる。

1. ホームメニューから［Setup］-［入力設定］を選ぶ。
2. 割り当てたい入力名を選ぶ。
3. ⇦/⇨をくり返し押して［コンポーネント］または［光 / 同軸］を選ぶ。
4. ⇧/⇩をくり返し押して割り当てたい端子を選ぶ。

割り当て可能な映像入力端子

IN：
BD/DVD、GAME、SAT/CATV（＊）、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD

未設定：
BD/DVD（＊）、GAME（＊）、SAT/CATV、VIDEO 1（＊）、VIDEO 2（＊）、SA-CD/CD（＊）

割り当て可能な音声入力端子

光IN 1：
BD/DVD、GAME、SAT/CATV（＊）、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD

光IN 2：
BD/DVD、GAME、SAT/CATV、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD

同軸IN：
BD/DVD、GAME、SAT/CATV、VIDEO 1、VIDEO 2、SA-CD/CD（＊）

未設定：
BD/DVD（＊）、GAME（＊）、SAT/CATV、VIDEO 1（＊）、VIDEO 2（＊）、SA-CD/CD

＊ 初期設定

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、入力モード設定が自動的に変わることがあります。
- 1つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。
- 割り当てた端子から音声が出力されない場合は、入力モード設定も確認してください。

[119] その他の機能を使う ｜ さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

Custom Presetについて

視聴環境に合わせて、プレーヤーやモニターに関わるAVレシーバーのさまざまな設定を一括して保存できます。保存したそれらの設定をワンタッチで登録し、設定した環境を簡単に呼び出すことができます。
例えば、［1: Movie］に以下のように設定を保存しておくことによって、［入力］、［サウンドフィールド］、［補正タイプ］の設定を個別に切り替えることなく、ワンタッチで一括して切り替えることができます。

- 入力： BD/DVD
- サウンドフィールド： HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）
- 補正タイプ： 切

[120] その他の機能を使う ｜ さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

プリセットに設定を保存する

1. ホームメニューから［Custom Preset］を選ぶ。
2. ［1: Movie］、［2: Music］、［3: Party］、または［4: Night］の中から設定を編集したいプリセットを選んだ状態でOPTIONSを押す。
3. オプションメニューからお好みのメニューを選ぶ。
    - **編集**：
      お好みに合わせて設定をカスタマイズおよび保存できます。
    - **現在設定の取込**：
      現在の設定を読み込み、プリセットとして保存します。［入力］および［音量］は保存されません。

ご注意

- ［切］として保存されている設定項目は、プリセットを呼び出しても現在の設定内容は変更されません。［切］に設定するには、［編集］を選び、編集画面で設定項目のチェックを外してください。

ヒント

- リモコンのCUSTOM PRESET 1、CUSTOM PRESET 2、またはCUSTOM PRESET 3を3

秒間押し続けると、メニューで［現在設定の取込］を選んだときと同様に、現在の設定で［1: Movie］、［2: Music］、または［3: Party］を上書きできます。
- ［3: Party］を選ぶと、ゾーン2、ゾーン3、HDMIゾーンが自動的にオンになり、メインゾーンと同じ音楽が同時に楽しめます。

---

[121] その他の機能を使う ｜ さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

シーンに保存した設定を呼び出す

---

1. ホームメニューから［Custom Preset］を選ぶ。
2. お好みのプリセットを選ぶ。

ヒント

- リモコンのCUSTOM PRESET 1、CUSTOM PRESET 2、またはCUSTOM PRESET 3を押して、［1: Movie］、［2: Music］、または［3: Party］に保存した設定を直接呼び出せます。

---

[122] その他の機能を使う ｜ さまざまな設定を保存して呼び出す（Custom Preset）

設定を保存できる項目とその初期設定値

1： Movie

- 入力： BD/DVD
- チューナープリセット： –
- 音量： –
- HDMI出力： –
- ゾーン連動： –
- スリープタイマー： –
- サウンドフィールド： HD-D.C.S.
- サウンド・オプティマイザー： –
- インシーリングスピーカーモード： –
- ピュアダイレクト： –
- 補正タイプ： –
- フロント低音調整： –
- フロント高音調整： –
- センター低音調整： –

- センター高音調整： –
- サラウンド低音調整： –
- サラウンド高音調整： –
- フロントハイ低音調整： –
- フロントハイ高音調整： –

2： Music

- 入力： SA-CD/CD
- チューナープリセット： –
- 音量： –
- HDMI出力： –
- ゾーン連動： –
- スリープタイマー： –
- サウンドフィールド： マルチステレオ
- サウンド・オプティマイザー： –
- インシーリングスピーカーモード： –
- ピュアダイレクト： –
- 補正タイプ： –
- フロント低音調整： –
- フロント高音調整： –
- センター低音調整： –
- センター高音調整： –
- サラウンド低音調整： –
- サラウンド高音調整： –
- フロントハイ低音調整： –
- フロントハイ高音調整： –

3： Party

- 入力： –
- チューナープリセット： –
- 音量： 27
- HDMI出力： –
- ゾーン連動： 入
- スリープタイマー： 切
- サウンドフィールド： マルチステレオ
- サウンド・オプティマイザー： 切
- インシーリングスピーカーモード： –
- ピュアダイレクト： –
- 補正タイプ： –
- フロント低音調整： –
- フロント高音調整： –
- センター低音調整： –
- センター高音調整： –
- サラウンド低音調整： –

- サラウンド高音調整： –
- フロントハイ低音調整： –
- フロントハイ高音調整： –

4： Night

- 入力： –
- チューナープリセット： –
- 音量： 11
- HDMI出力： –
- ゾーン連動： –
- スリープタイマー： 30分
- サウンドフィールド： –
- サウンド・オプティマイザー： 標準
- インシーリングスピーカーモード： –
- ピュアダイレクト： –
- 補正タイプ： –
- フロント低音調整： –
- フロント高音調整： –
- センター低音調整： –
- センター高音調整： –
- サラウンド低音調整： –
- サラウンド高音調整： –
- フロントハイ低音調整： –
- フロントハイ高音調整： –

スリープタイマーを使う

表示窓のメニューを使って、指定した時間に電源が切れるよう設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［スリープタイマー］を選ぶ。
3. お好みの時間を選ぶ。
   - **2時間**
   - **1時間30分**
   - **1時間**
   - **30分**
   - **切**

スリープタイマーを使用中は、AVレシーバーの表示窓に［SLEEP］が点灯します。

ヒント

- 電源が切れるまでの残り時間は、システム設定画面で確認できます。また、残り時間が1分を切ると、テレビ画面の右下に残り時間が表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープタイマーが解除されます。
  - AVレシーバーのソフトウェアをアップデートする。
  - 電源を入／切する。

---

[124] その他の機能を使う ｜ 情報を確認する

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

1. 情報を確認したい入力を選ぶ。
2. 本体のDISPLAY MODEボタンをくり返し押す。
   DISPLAY MODEボタンを押すたびに表示が次のように切り替わります。
   入力のインデックス名（＊1）- 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2）- 音量レベル - ストリーム情報（＊3）

   FMラジオ聴取時

   プリセット放送局名（＊1）- 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2）- 音量レベル

＊1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。
＊2 ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、［PURE.DIRECT］が表示されます。
＊3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

---

[125] 設定を調節する ｜ かんたん設定

かんたん設定を使って初期設定を行う

AVレシーバーを初期化したあとに初めて電源を入れると、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。かんたん設定画面の指示にしたがって、以下の機能を設定できます。

- **スピーカー設定**
  お使いのスピーカー構成、配置に応じて自動音場補正を行うことができます。
- **ネットワーク設定**
  ネットワークに接続するための設定を行うことができます。

ご注意

- この機能を使うには、テレビの入力を、AVレシーバーをつないでいる入力に切り替えてください。
- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。

かんたん設定画面が表示されない、または手動でかんたん設定画面を表示させたい場合は、ホームメニューの［Setup］-［かんたん設定］から表示できます。

---

[126] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

1. 自動音場補正について

自動音場補正機能で以下のような自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーとAVレシーバーの接続の確認
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定（＊）
- スピーカーサイズの測定（＊）
- 周波数特性の測定（EQ）（＊）
- 周波数特性の測定（位相）（＊）（＊＊）

＊［アナログダイレクト］が選ばれているときは、測定結果は使用できません。

＊＊ 音声フォーマットによっては、測定結果が使用できないことがあります。

ご注意

- D.C.A.C.（デジタルシネマ自動音場補正）は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。ただし、スピーカーのレベルは、［テストトーン］を使ってお好みに合わせて手動で調節できます。

---

[127] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

2. 自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。

- スピーカーを配置して接続する。
- AUTO CAL MIC端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には他のマイクをつながないでください。
- バイアンプ接続またはスピーカーフロントB接続を使用する場合は、スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の割り当てを正しく設定してください。
- スピーカー出力が［SPK OFF］以外に設定されていることを確認する。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、自動音場補正は実行できません。
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子さまに充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、消音機能は自動的に解除されます。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

---

[128] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

3. 測定用マイクをつなぐ

Ⓐ 測定用マイク（付属）

1. AUTO CAL MIC端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

2. 測定用マイクを配置する。
   視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

4. フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 本体のSPEAKERSボタンをくり返し押して、使用したいフロントスピーカーシステムを選ぶ。

どちらの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SP A：**
  スピーカー FRONT A端子につないだスピーカー
- **SP B**（＊）**：**
  スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子につないだスピーカー
- **SP A+B**（＊）**：**
  スピーカー FRONT A端子およびスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の両方につないだスピーカー（パラレル接続）
- **（表示なし）：**
  ［SPK OFF］が表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

＊ ［SP B］または［SP A+B］を選ぶには、スピーカー設定メニューの［サラウンドバックスピーカー割り当て］を使ってスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の割り当てを［フロントB］に設定してください。

ご注意

- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この設定はできません。
- 本体のSPEAKERSボタンを押すと、［Bluetoothモード］が自動的に［受信］に変更されます。

5. 自動音場補正を行う

視聴位置から自動音場補正を実行します。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［自動音場補正］を選ぶ。
3. テレビ画面の指示にしたがって操作し、-+-を押して、［測定開始］を選ぶ。
   5秒後に測定が始まります。
   測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続きます。
   測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。
4. お好みの項目を選ぶ。
   - **保存：** 測定結果を保存し、設定を終了します。
   - **リトライ：** 自動音場補正を再度実行します。
   - **キャンセル：** 測定結果を保存せずに設定を終了します。

   測定結果について詳しくは、「6. 自動音場補正の結果を確認する」をご覧ください。
5. 測定結果を保存する。
   手順4で［保存］を選びます。

ご注意

- 手順3でエラーコードや警告メッセージが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、この設定はできません。

ヒント

- 測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
  - I/⏻（電源オン／スタンバイ）押す。
  - リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体のINPUT SELECTORつまみを回す。
  - 🔇を押す。
  - 本体のSPEAKERSボタンを押す。
  - 音量を調節する。
  - PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。

6. 自動音場補正の結果を確認する

下記の手順にしたがって、［自動音場補正］で取得したエラーコードや警告メッセージを確認してください。

エラーコードが表示されたら

エラーを確認し、もう一度自動音場補正を実行してください。

1. ［リトライ］を選ぶ。
2. テレビ画面の指示にしたがって操作し、を押して、［測定開始］を選ぶ。
   5秒後に測定が始まります。
   測定中はテストトーンが鳴り、完了まで約30秒かかります。
   測定が終わると、ビープ音が鳴り画面が切り替わります。
3. お好みの項目を選ぶ。
   - **保存：** 測定結果を保存し、設定を終了します。
   - **リトライ：** 自動音場補正を再度実行します。
   - **キャンセル：** 測定結果を保存せずに設定を終了します。
4. 測定結果を保存する。
   手順3で［保存］を選択します。

警告メッセージが表示されたら

警告メッセージを確認して、［OK］を選びます。警告メッセージについて詳しくは、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

ヒント

- アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合がありますが、測定結果の値のままで使用できます。

スピーカーの位相特性を補正する（自動位相マッチング）

D.C.A.C.（デジタルシネマ自動音場補正）機能のA.P.M.（自動位相マッチング）機能を設定できます。スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現しま

す。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［自動位相マッチング］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **自動：**
      自動位相マッチングの入／切が自動的に切り替わります。
    - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
    - ［アナログダイレクト］が使われているとき
    - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
    - ［自動音場補正］を行っていない場合
    - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

自動音場補正の補正タイプを選ぶ（補正タイプ）

自動音場補正を実行し、設定を保存すると、補正タイプを選べます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［補正タイプ］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **フルフラット：**
      各スピーカーの周波数特性を平らにします。
    - **エンジニア：**
      「ソニー基準のリスニングルーム」の周波数特性にします。
    - **フロントリファレンス：**
      すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
    - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

---

[134] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

サラウンドスピーカー端子の割り当てを設定する（スピーカーパターン／サラウンドスピーカー割り当て）

スピーカーパターンを選び、スピーカー SURROUND端子への割り当てを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［スピーカーパターン］を選ぶ。
3. テレビ画面に表示されるスピーカー設置例を参考にお好みのスピーカーパターンを選び、［保存］を選ぶ。
4. ［サラウンドスピーカー割り当て］を以下のいずれかに設定する（＊）。
   - **ゾーン3：**
     ゾーン3接続を使うとき。
   - **サラウンド**

   ＊ 手順3で選んだスピーカーパターンによって、表示される設定が異なります。

ご注意

- 以下の場合のみ［サラウンドスピーカー割り当て］を設定することができます。
  - サラウンドスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］以外に設定されているとき

---

[135] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

スピーカーパターンを選び、スピーカー端子の割り当て

を設定する（スピーカーパターン/サラウンドバックスピーカー割り当て）

スピーカーパターンを選び、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子への割り当てを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［スピーカーパターン］を選ぶ。
3. テレビ画面に表示されるスピーカー設置例を参考にお好みのスピーカーパターンを選び、［保存］を選ぶ。
4. ［サラウンドバックスピーカー割り当て］を以下のいずれかに設定する（＊）。
    - **ゾーン2：**
      ゾーン2に設置したスピーカーをつないで使うとき。
    - **バイアンプ：**
      バイアンプ接続を使うとき。
    - **フロントB：**
      フロントスピーカーをつないで使うとき。
    - **サラウンドバック：**
      上記のいずれの接続も使用していないとき。

    ＊ 手順3で選んだスピーカーパターンによって、表示される設定が異なります。

ご注意

- 以下の場合のみ［サラウンドバックスピーカー割り当て］を設定することができます。
    - サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンに設定されているとき
    - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
    - ［Bluetoothモード］が［送信］以外に設定されているとき

スピーカーのサイズを調節する（サイズ）

各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右）のサイズを調整できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［サイズ］を選ぶ。
3. サイズを調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
4. お好みのサイズを選ぶ。
   - **大：**
     低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、［大］を選びます。通常は［大］を選びます。
   - **小：**
     マルチチャンネルサラウンド音声を出力している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分に感じるときは、［小］を選びます。低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは［大］に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

- 以下の場合、［サイズ］を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

ヒント

- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を［小］にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に［小］に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に［大］に設定されます。

スピーカーの距離を調節する（距離）

視聴位置から各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）までの距離を調整できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［距離］を選ぶ。
3. 視聴位置からの距離を調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。

4. 距離を調節する。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、調節できないパラメーターがあります。
- 以下の場合、［距離］を設定することはできません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

---

[138] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

スピーカーレベルを調節する（レベル）

各スピーカー（フロント左／右、フロントハイ左／右、センター、サラウンド左／右、サラウンドバック左／右、アクティブサブウーファー）のレベルを調整できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［レベル］を選ぶ。
3. スピーカーレベルを調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
4. レベルを調節する。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、［レベル］を設定することはできません。
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるときは、フロント左とフロント右のレベル以外は調節できません。

---

[139] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

各スピーカーからテストトーンを出力する（テストトーン）

各スピーカーから順にテストトーンを出力できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。

2. ［テストトーン］を選ぶ。

3. お好みの設定を選ぶ。
   - **Off：**
     テストトーンを出力しません。
   - **Auto：**
     テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。
   - **Front L、Center、Front R、Surround R、 Surround L、Sur Back L、Sur Back（*）、Sur Back R、Front High L、Front High R、 Subwoofer：**
     テストトーンを出力するスピーカーを選べます。（**）

     ＊ ［Sur Back］は、サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続しているときに表示されます。
     ＊＊ スピーカーパターンによって、表示される設定が異なります。

4. スピーカーレベルを調節する。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、この機能は働きません。

ヒント

- すべてのスピーカーのレベルを同時に調節するには、◢ +/−を押してください。本体のMASTER VOLUMEつまみでも操作できます。
- 調節中は、テレビ画面に調節した値が表示されます。

隣り合ったスピーカーからテストトーンを出力するには

「テストトーンを出力して隣り合ったスピーカーのバランスを調節する（Phase Noise）」をご覧ください。

隣り合ったスピーカーから音源を出力するには

「音源を出力してスピーカーのバランスを調節する（Phase Audio）」をご覧ください。

---

[140] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

スピーカーのクロスオーバー周波数を設定する（クロスオーバー周波数）

スピーカー設定メニューでスピーカーサイズが［小］に設定されているスピーカーの、低音域のクロスオーバー周波数を設定できます。自動音場補正のあとに、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が、各スピーカーに設定されます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［クロスオーバー周波数］を選ぶ。
3. クロスオーバー周波数を調節したいスピーカーを画面上で選ぶ。
4. ⇧/⇩を押してクロスオーバー周波数を設定する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。

---

[141] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

イコライザーを調節する（イコライザ設定）

以下のパラメーターを使って、フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、フロントハイスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。

Ⓐ レベル（dB）
Ⓑ 周波数（Hz）
Ⓒ 低域
Ⓓ 高域

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［イコライザ設定］を選ぶ。
3. ［Front］、［Center］、［Surround］または［Front High］を選ぶ。
4. ［低音］または［高音］を選ぶ。
5. ゲインを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- ［低音］および［高音］の周波数は固定です。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- PHONES端子にヘッドホンを接続しているときは、［Front］スピーカーについては、［低音］と［高音］ゲインの調節のみ可能です。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［イコライザ設定］を選ぶこともできます。

---

[142] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

センタースピーカーの音を持ち上げる（センタースピーカーリフトアップ）

フロントハイスピーカーを使って、センタースピーカーの音を画面内の適切な高さまで持ちあげることができます。 これによって、違和感のない自然な表現を楽しめます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［センタースピーカーリフトアップ］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **1 - 10**
   - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - センタースピーカーがないとき
  - フロントハイスピーカーがないとき
  - ［2chステレオ］、［アナログダイレクト］および［マルチステレオ］が使われているとき
  - 音楽用の音場（サウンドフィールド）が使われているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

[143] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

天井埋め込みスピーカーの高さを設定する（天井スピーカーの高さ）

床から天井埋め込みスピーカーまでの高さを設定します。
天井スピーカーの高さを調節し、自動音場補正を行うことにより、インシーリングスピーカーモードをより効果的に楽しむことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［天井スピーカーの高さ］を選ぶ。
3. 高さを調節する。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - フロントハイスピーカーを含まないスピーカーパターンを選んでいるとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

[144] 設定を調節する ｜ スピーカー設定

距離の測定単位を選ぶ（距離表示の単位）

距離を設定する際の単位を選ぶことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［スピーカー設定］を選ぶ。
2. ［距離表示の単位］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **メートル：**
     距離はメートル単位で表示されます。
   - **フィート：**
     距離はフィート単位で表示されます。

[145] 設定を調節する ｜ 音声設定

音声信号を高音質で再生する（デジタル・レガート・リニア）

デジタル・レガート・リニア（D.L.L.）機能は、低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［デジタル・レガート・リニア］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動 1：**
     非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。
   - **自動 2：**
     リニアPCM信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。
   - **切**

ご注意

- USB機器またはホームネットワーク経由のコンテンツでは機能しないことがあります。
- この機能は［2chステレオ］、［A.F.D.］、［マルチステレオ］または［ヘッドホン(2ch)］が選ばれているときに働きます。ただし、以下の場合は働きません。
  - ［インシーリングスピーカーモード］が［入］に設定されているとき
  - ［FM TUNER］が入力として選ばれているとき
  - 44.1 kHz 以外のサンプリング周波数のリニアPCM信号を受信しているとき
  - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-HD Master AudioまたはDTS-HD High Resolution Audio信号を受信しているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

[146] 設定を調節する ｜ 音声設定

低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しむ（サウンド・オプティマイザー）

サウンド・オプティマイザーを使うと、低音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめま

す。自動音場補正を実行したあとに、環境に合った音量レベルに調節されます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［サウンド・オプティマイザー］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **標準：**
     映画のレベルを基準に調節する場合に選びます。
   - **弱：**
     CDなど平均音圧が高めに加工されたソフト用に調節する場合に選びます。
   - **切**

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［サウンド・オプティマイザー］を選ぶこともできます。

---

[147] 設定を調節する ｜ 音声設定

音場を選ぶ（サウンドフィールド）

スピーカー接続や入力音源に合わせて、さまざまな音場（サウンドフィールド）のモードを選べます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［サウンドフィールド］を選ぶ。
3. お好みのサウンドフィールドを選ぶ。
   映画を見るときは、［Movie］表示のあるサウンドフィールドを選んでください。
   音楽を聞くとき、［Music］表示のあるサウンドフィールドを選んでください。

ご注意

- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、サウンドフィールドを選べません。
- PHONES端子にヘッドホンをつないでいるときは、ヘッドホン用のサウンドフィールドのみが表示されます。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- スピーカーパターンによっては、［ドルビープロロジックIIx Movie］（PLIIx Movie）、［ドルビープロロジックIIx Music］（PLIIx Music）が表示されないことがあります。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［サウンドフィールド］を選ぶこともできます。
- リモコンまたは本体のA.F.D./2CH、MOVIEまたはMUSICボタンを使って、サウンドフィールドを選ぶこともできます。

---

[148] 設定を調節する ｜ 音声設定

HD-D.C.S.エフェクトタイプを選ぶ（HD-D.C.S. エフェクトタイプ）

HD-D.C.S.（HDデジタル・シネマ・サウンド）のタイプを選ぶことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［HD-D.C.S.エフェクトタイプ］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **ダイナミック**
   - **シアター**
   - **スタジオ**

ご注意

- この機能は、サウンドフィールドで「HD-D.C.S.」が選ばれている場合のみ、働きま

す。

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

---

[149] 設定を調節する ｜ 音声設定

天井埋め込みスピーカーからの音をより自然な表現で楽しむ（インシーリングスピーカーモード）

現在の入力でインシーリングスピーカーモードを使うかどうかを設定します。
フロントスピーカーやセンタースピーカーが天井埋め込み設置されている環境の場合、音声出力位置を、画面の位置まで下げることによって、より自然な音声表現を楽しむことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［インシーリングスピーカーモード］を選ぶ。
3. ［入］を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - フロントハイスピーカーを使ったスピーカーパターンを選んでいるとき
  - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
- 以下以外のサウンドフィールドを選んでいる場合、この機能は働きません。
  - 2chステレオ
  - オートフォーマットダイレクト
  - マルチステレオ
- 音声フォーマットによっては、この機能は働かない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

ヒント

- ホームメニューの［Sound Effects］から［インシーリングスピーカーモード］を選ぶこともできます。
- お聞きの環境で最適な音声を得るために、［スピーカー設定］の［天井スピーカーの高さ］を設定して、自動音場補正を実行してください。

[150] 設定を調節する ｜ 音声設定

原音に忠実な音を楽しむ（ピュアダイレクト）

ピュアダイレクトモードにより、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクトモードがオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。

1. ホームメニューから［Sound Effects］-［ピュアダイレクト］を選ぶ。
2. ［入］を選ぶ。

ピュアダイレクトを解除する

以下の操作を行うとピュアダイレクトモードが解除されます。

- 手順2で［切］を選ぶ。
- 本体のPURE DIRECTボタンを押す。
- 音場（サウンドフィールド）を変える。
- テレビのシーン設定を変える（シーンセレクト）。
- ［イコライザ設定］、［サウンド・オプティマイザー］、［音量自動調整］、［ダイナミックレンジ調整］、［インシーリングスピーカーモード］、［自動位相マッチング］、［補正タイプ］および［LFE時間調整］の設定を変える。

ご注意

- ピュアダイレクトモードが選ばれているときは、［イコライザ設定］、［サウンド・オプティマイザー］、［音量自動調整］、［ダイナミックレンジ調整］、［インシーリングスピーカーモード］、［自動位相マッチング］、［補正タイプ］および［LFE時間調整］は働きません。

ヒント

- 本体のPURE DIRECTボタンでも、ピュアダイレクトモードの入／切を切り替えることができます。
- ホームメニューの［Setup］-［音声設定］から［ピュアダイレクト］を選ぶこともできます。

[151] 設定を調節する ｜ 音声設定

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定する（サブウーファーローパスフィルター）

アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。この機能は、音声入力端子がある入力ごとに独立して設定できます。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整機能がない場合にオンに設定してください。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［サブウーファーローパスフィルター］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **入：**
      常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。
    - **切：**
      ローパスフィルターは働きません。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
    - ［アナログダイレクト］が使われているとき
    - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

[152] 設定を調節する ｜ 音声設定

音声と映像出力を同期させる（AVシンク）

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。
大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。この機能は、入力ごとに独立して設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［AVシンク］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **HDMIオート：**
      HDMI接続でモニターをつないでいるときは、映像と音声のずれを自動的に調節します。モニターがAVシンク機能に対応している場合のみ機能します。
    - **0 ms – 300 ms：**
      遅れを0 ms ～ 300 msの範囲で10 ms単位で調節できます。

ご注意

- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。
- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、この機能は働きません。

---

[153] 設定を調節する ｜ 音声設定

LFE信号と他チャンネル信号の遅延時間を調整する（LFE時間調整）

LFE時間調整機能は、LFE信号の出力タイミングを他チャンネル信号に合わせて早めることにより、遅延時間を調整する機能です。LFE信号の位相が他チャンネルとずれているコンテンツの調整に有効です。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［LFE時間調整］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   0 ms – 20 ms：
   遅れを0 ms ～ 20 msの範囲で0.5 ms単位で調整できます。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［ピュアダイレクト］が［入］に設定されているとき
  - ［2chステレオ］または［アナログダイレクト］が使われているとき
  - PHONES端子にヘッドホンをつないでいるとき
  - アクティブサブウーファーがないスピーカーパターンが選ばれているとき
  - フロントスピーカーのサイズが［小］に設定されているとき
  - LFE信号が入力されていないとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

---

[154] 設定を調節する ｜ 音声設定

音量を自動で調整する（音量自動調整）

つないだ機器から出力されるコンテンツや入力信号に応じて、音量を自動で調整できます。例えば、テレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときに便利です。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［音量自動調整］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。

ご注意

- この機能を入／切するときは、必ず事前に音量を下げてください。
- 音声フォーマットによっては、この機能は働きません。
- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［アナログダイレクト］が使われているとき
  - ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているとき

[155] 設定を調節する ｜ 音声設定

デジタル放送の言語選択をする（二重音声）

デジタル放送で二重音声が視聴可能な場合に、お好みの言語を選べます。この機能は、MPEG-2 AAC音源とドルビーデジタル（Dolby Digital）音源でのみ働きます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［二重音声］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **主：**
     主音声が出力されます。
   - **副：**
     副音声が出力されます。
   - **主／副：**
     フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声が同時に出力されます。

[156] 設定を調節する ｜ 音声設定

ダイナミックレンジを圧縮する（ダイナミックレンジ調

整）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。
この機能は、ドルビーデジタル（Dolby Digital）およびドルビーTrueHD（Dolby TrueHD）の音源でのみ働きます。

1. ホームメニューから［Setup］-［音声設定］を選ぶ。
2. ［ダイナミックレンジ調整］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **自動：**
      この機能の使用を推奨するフラグが音源にある場合に、ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
    - **入：**
      レコーディングエンジニアが意図したとおりにダイナミックレンジが圧縮されます。
    - **切**

[157] 設定を調節する ｜ 映像設定

テレビ画面の縦横比を選ぶ（テレビタイプ）

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［テレビタイプ］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **16:9：**
      ワイド画面または、ワイドモードのあるテレビに接続するときに選びます。
    - **4:3：**
      ワイドモードのない縦横比4:3のテレビに接続するときに選びます。

ご注意

- ［テレビタイプ］での設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。

[158] 設定を調節する ｜ 映像設定

他のネットワークのコンテンツ視聴時に24p映像信号を出力する（ネットワークコンテンツ24p出力）

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［ネットワークコンテンツ24p出力］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     1080/24p対応のテレビにHDMI接続しているとき、ホームネットワーク映像コンテンツを24pの映像信号で出力します。
   - **切：**
     1080/24p非対応のテレビに接続するときに選びます。

[159] 設定を調節する ｜ 映像設定

4Kのコンテンツを楽しむ（4K出力）

4K映像信号をHDMI経由で出力するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［4K出力］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動1：**
     ソニー製の4K対応テレビに接続しているとき、ビデオ再生時に2K（1920 × 1080）映像信号を出力します。写真再生時には4K映像信号を出力します。ソニー製以外の4K対応テレビをお使いの場合、24pの映像コンテンツや写真再生時に4K映像信号を出力します。3D映像の再生時はこの機能は働きません。
   - **自動2：**
     4K／24p対応の機器に接続し、［ネットワークコンテンツ24p出力］で適切な設定をしている場合、自動的に4K／24p映像信号を出力します。また、2D画像の再生時にも、4K／24p画像を出力します。

- **切**

ご注意

- お使いのソニー機器が［自動1］設定時に認識されない場合は、［自動2］設定時と同じ条件で動作します。
- ［4K出力］での設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。HDMI IN端子からの映像信号を4Kにアップスケールしたい場合は、［HDMI設定］の［4Kアップスケール］をご覧ください。

---

[160] 設定を調節する ｜ 映像設定

他機器の種類を自動的に検出し、それに適合するカラー設定をする（HDMI映像出力フォーマット）

---

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［HDMI映像出力フォーマット］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     外部機器のタイプを自動的に検出し、対応するカラー設定に切り替えます。
   - **YCbCr（4:2:2）：**
     YCbCr（4:2:2）映像信号を出力します。
   - **YCbCr（4:4:4）：**
     YCbCr（4:4:4）映像信号を出力します。
   - **RGB：**
     HDCP対応のDVI端子のある機器に接続するときに選びます。

ご注意

- ［HDMI映像出力フォーマット］での設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。

ヒント

- HDMI接続された機器がない状態でもこの機能を設定することができます。
- HDMIケーブルを外したときでも、ここでの設定は保持されます。

---

[161] 設定を調節する ｜ 映像設定

テレビがDeep Color信号を出力する（HDMI Deep Color 出力）

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［HDMI Deep Color 出力］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **自動**
    - **12bit：**
      Deep Colorに対応したテレビを接続している場合、12bit映像信号を出力します。
    - **10bit：**
      Deep Colorに対応したテレビを接続している場合、10bit映像信号を出力します。
    - **切：**
      色が安定しない場合や不自然な場合に選びます。

ご注意

- ［HDMI映像出力フォーマット］が［RGB］に設定されている場合、この機能は働きません。この場合、出力信号はRGBに固定されます。
- ［HDMI Deep Color 出力］での設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。

[162] 設定を調節する ｜ 映像設定

映像グラデーションをスムーズに表示する（スーパービットマッピング）

SBM（スーパービットマッピング）は、HDMI OUT端子からの映像信号の階調をなめらかに加工、出力する機能です。

1. ホームメニューの［Setup］-［映像設定］を選ぶ。
2. ［スーパービットマッピング］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。

- **入：**
  HDMI OUT端子からの映像信号の階調をなめらかにします。
- **切：**
  映像信号が歪んだり、不自然な場合に選びます。

ご注意

- ［スーパービットマッピング］での設定は、HDMI IN端子からの映像信号には影響しません。

[163] 設定を調節する ｜ HDMI設定

映像信号を4Kにアップスケールする（4Kアップスケール）

映像信号を4Kにアップスケールし、HDMI OUT端子から出力できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［4Kアップスケール］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     4K対応のテレビをつないでいる場合は、自動的に4K HDMIにアップスケールして出力できます。
   - **切**

ご注意

- この機能は、HDMI IN端子から映像信号が受信されているときのみ働きます。HDMI映像入力信号は480p/720p/1080i/1080p 2Dである必要があります。
- HDMI OUT B/HDMI ZONE端子は［4Kアップスケール］に対応していません。映像信号は入力時と同じ解像度で出力されます。

[164] 設定を調節する ｜ HDMI設定

HDMI機器を制御する（HDMI機器制御）

［HDMI機器制御］を［入］にすると、HDMIケーブルで接続した機器を相互に操作することができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI機器制御］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

ご注意

- ［HDMI機器制御］を［入］に設定すると、［音声信号出力］が自動的に変わることがあります。
- スタンバイ状態で、［HDMI機器制御］が［入］に設定されている場合は、本体前面の I/⏻（電源オン／スタンバイ）ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、［HDMI出力Bモード］が［メイン］に設定されているときのみ働きます。

---

[165] 設定を調節する ｜ HDMI設定

HDMI信号をパススルーする（スタンバイスルー）

スタンバイ状態でもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［スタンバイスルー］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     スタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、HDMI OUT端子からHDMI信号が出力されます。
     “ブラビアリンク” 対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。この設定にすると、［入］に設定したときよりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。
   - **入：**
     スタンバイ状態でも、HDMI OUT端子からHDMI信号が出力され続けます。
   - **切：**
     スタンバイ状態時にはHDMI信号を出力しません。 この設定にすると、［入］設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えられます。

ご注意

- スタンバイ状態で、［スタンバイスルー］が［入］または［自動］に設定されている場合は、本体前面の I/⏻（電源オン／スタンバイ）ランプがオレンジ色に点灯します。
- ［自動］設定時は、［入］に設定した場合よりも、映像と音声がテレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。
- この機能は、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子はには働きません。

[166] 設定を調節する ｜ HDMI設定

接続機器のHDMI音声信号出力を設定する（音声信号出力）

HDMI接続した再生機器からのHDMI音声信号を設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［音声信号出力］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **アンプ：**
      再生機器からのHDMI音声信号はAVレシーバーにつないだスピーカーにのみ出力されます。マルチチャンネルの音声をそのまま再生できます。
    - **テレビ + アンプ：**
      AVレシーバーにつないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音声を出力します。

ご注意

- ［音声信号出力］が［アンプ］に設定されているときは、音声信号はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器の音質は、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの音質によります。テレビにステレオスピーカーがある場合は、マルチチャンネル音源の再生時でも、AVレシーバーからもテレビと同じステレオ音声が出力されます。
- AVレシーバーにプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、AVレシーバーから音が出力されない場合があります。この場合は、［アンプ］に設定してください。
- ［テレビ + アンプ］に設定されているときは、HDMI IN端子からの音声だけがテレビのスピーカーから出力されます。

[167] 設定を調節する ｜ HDMI設定

番組のジャンルに応じた音場（サウンドフィールド）に自動的に切り替える（オートジャンルセレクター）

オートジャンルセレクターは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG 情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。
オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロールが有効な場合のみ使用できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［サウンドフィールド］を選ぶ。
    - **自動：**
      デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります。
    - **手動：**
      音声設定のサウンドフィールドの設定で選んだサウンドフィールドまたは本体、リモコンのA.F.D./2CH、MOVIE、MUSICボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応一覧（番組情報（EPG 情報）：オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド）

- **ニュース／報道：** 2chステレオ（2ch Stereo）（2CH ST.）
- **スポーツ：** スポーツ（Sports）（SPORTS）
- **情報／ワイドショー：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **ドラマ：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **ミュージック：** 詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応一覧をご覧ください。
- **バラエティ：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **映画：** HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）（HD-Digital Cinema Sound）
- **アニメ／特撮：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **ドキュメンタリー：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **劇場／公演：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **趣味／教育：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **福祉：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **その他：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）
- **スポーツ（CS）：** スポーツ（Sports）（SPORTS）
- **洋画（CS）：** HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）（HD-Digital Cinema Sound）
- **邦画（CS）：** HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）（HD-Digital Cinema

Sound）
- **映画：** オートフォーマットダイレクト（Auto Format Direct）（A.F.D.）

音楽番組詳細ジャンル対応一覧（詳細ジャンル：サウンドフィールド）

- **国内ロック／ポップス：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **海外ロック／ポップス：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **クラシック／オペラ：** コンサートホールA/B/C（Concert Hall A/B/C）（HALL A/B/C）
- **ジャズ／フュージョン：** ジャズクラブ（Jazz Club）（JAZZ）
- **歌謡曲／演歌：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **ライブ／コンサート：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **ランキング／リクエスト：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **カラオケ／のど自慢：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **民謡／邦楽：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **童謡／キッズ：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **民族音楽／ワールドミュージック：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）
- **その他：** ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。
- オートジャンルセレクターはソニー独自の機能です。ソニー製以外の機器では使えません。

---

[168] 設定を調節する ｜ HDMI設定

アクティブサブウーファーのレベルを設定する（サブウーファーレベル）

PCM信号がHDMI接続で入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを0 dBまたは+10 dBに設定できます。HDMI入力端子に割り当てられている各入力のレベルを個別に設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［サブウーファーレベル］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **自動：**
      オーディオストリームに応じて、レベルを0 dBまたは+10 dBに自動で設定します。

- **+10 dB**
- **0 dB**

ご注意

- ［FM TUNER］、［USB］、［Bluetooth］、［Home Network］、［Music Services］、［Screen mirroring］を選んでいるときは、この機能は無効です。

---

[169] 設定を調節する ｜ HDMI設定

HDMI OUT B端子からの出力方法を選ぶ（HDMI出力Bモード）

HDMIゾーンの接続には、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が使用できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI出力Bモード］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **メイン：**
     端子は、HDMI OUT B出力用に使用されます。テレビやプロジェクターを一つの部屋（メインゾーン）で楽しみたいときに選びます。
   - **ゾーン：**
     端子はHDMIゾーン出力用に使用されます。別の部屋（HDMIゾーン）のアンプにつないだ機器で映像や音声を楽しみたいときに選びます。

ご注意

- ［ゾーン］を選んだ場合、HDMI機器制御（“ブラビアリンク”）と高速入力切替はお使いになれません。
- HDMIゾーンの入力選択については「4. 別の部屋のレシーバーやテレビをHDMI接続して映像や音楽を楽しむ（HDMIゾーン）」を参照してください。

---

[170] 設定を調節する ｜ HDMI設定

メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する（HDMI出力優先端子）

HDMIゾーンが有効な場合、メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を選ぶと、メインゾーンでの音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。この干渉を防止するために、メインゾーンへのHDMI入力を優先するように設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［HDMI出力優先端子］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **メイン／ゾーン：**
     メインゾーンとHDMIゾーンで同じHDMI入力を楽しむことができます。ただし、メインゾーンとHDMIゾーンの双方で音声および映像信号に干渉が生じる場合があります。
   - **メイン：**
     メインゾーンで高品質の音声および映像信号を楽しむことができます。ただし、HDMIゾーンで同じHDMI入力を選ぶと、HDMIゾーンでは映像と音声が出力されません。

ご注意

- この機能は、［HDMI出力Bモード］が［ゾーン］に設定されているときのみ働きます。

ヒント

- メインゾーンとHDMIゾーンに異なる解像度のテレビをつなぎ、どちらのゾーンでも同じHDMI入力を選んだ場合、それぞれのテレビに出力される映像信号がいずれかのテレビの低い方の解像度に制限されます。

HDMI機器への入力切替時間を短縮する（高速入力切替）

HDMI入力に対して高速入力切替の操作を設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［高速入力切替］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**

通常よりもHDMI入力を素早く選べます。

- **切：**
  高速入力切替を無効にします。

ご注意

- この機能は、［HDMI出力Bモード］が［メイン］に設定されているときのみ働きます。
- ［切］に設定すると、入力を切り替えてから映像が出るまでに時間がかかるようになりますが、AVレシーバーが選択したHDMI入力からの信号だけを受信するため、音質が向上します。

[172] 設定を調節する ｜ HDMI設定

MHL対応機器接続時、自動的に入力を切り替える（MHL機器自動入力切替）

MHL対応機器を接続したとき、その機器をつないだ入力に自動的に切り替える機能を入／切できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［HDMI設定］を選ぶ。
2. ［MHL機器自動入力切替］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。

ご注意

- MHL対応機器によっては、ワンタッチプレイ操作ができない場合があります。

[173] 設定を調節する ｜ 入力設定

入力端子の割り当てや表示を変更する

お好みと用途に合わせて各入力の設定をカスタマイズできます。
ホームメニューから［Setup］-［入力設定］を選び、以下の各項目を設定します。

入力

各入力の［アイコン］、［名前］、［Watch/Listen］、［表示 / 非表示］、［光 / 同

軸］、［コンポーネント］および［入力モード］の設定を変更できます。

ご注意

- 入力設定画面で、［HDMI］、［映像］および［音声］の設定は固定されており、変更できません。

ヒント

- WatchまたはListenメニューで、OPTIONSを押して入力設定画面を表示することもできます。

アイコン

Watch/Listenメニューに表示されるアイコンを設定できます。

名前

Watch/Listenメニューに表示される名前を変更できます。

Watch/Listen

ある入力をWatchメニューまたはListenメニューのどちらに表示させるかを設定できます。

- **Watch：** Watchメニューに表示させます。
- **Listen：** Listenメニューに表示させます。
- **Watch/Listen：** WatchメニューおよびListenメニュー両方に表示させます。

表示 / 非表示

入力を表示するかどうかを設定できます。

- **表示：** 入力を表示します。
- **非表示：** 入力を非表示にします。

光 / 同軸

各入力に割り当てあられた音声入力端子を設定できます。

- **光 IN 1**
- **光 IN 2**
- **同軸 IN**
- **未設定**

コンポーネント

各入力に割り当てあられた映像入力端子を設定できます。

- **IN**
- **未設定**

入力モード

各入力の入力モードを設定します。

- **自動**
- **光 IN**

- **同軸 IN**
- **アナログ IN**

各入力の名前を変更する（名前）

各入力に最大8文字で名前を入力できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［入力設定］を選ぶ。
2. 変更したい入力名を選ぶ。
3. ［名前］を選ぶ。
   オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
4. ⇧/⇩/⇦/⇨と✦を押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
5. ［Enter］を選ぶ。
   入力した名前が登録されます。

有線LAN接続の設定をする

以下の手順で有線LAN接続を設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［ネットワーク設定］を選ぶ。
3. ［有線LAN設定］を選ぶ。
   テレビ画面にIPアドレスの取得方法を選ぶ画面が表示されます。
4. ［自動取得］を選ぶ。
   ネットワーク接続を開始します。
   確認画面が表示されます。
5. ⇧/⇩を押して情報を確認し、⇨を押す。

6. ［接続診断］を選ぶ。
   ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを使用するときは

手順4で［手動］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

ヒント

- 通信設定を確認するときは、［ネットワーク接続状態］をご覧ください。

---

[176] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

無線LAN接続の設定をする

ネットワーク設定を始める前に

お使いの無線LANルーター（アクセスポイント）にWPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応したボタンがある場合は、AVレシーバーを簡単にWi-Fi（無線LAN）ネットワークに接続できます。
WPSボタンがない場合は、以下の情報を選択、または入力する必要があります。あらかじめ以下の情報を確認してください。

- 無線LANルーター／アクセスポイントのネットワーク名（SSID）（＊）
- ネットワークのセキュリティーキー（パスワード）（＊＊）

＊ SSID（Service Set Identifier）は、アクセスポイントを特定化するための名前です。
＊＊ この情報は、無線LAN ルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、無線ネットワークの設定者、またはインターネットサービスプロバイダーから提供された資料から取得してください。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［ネットワーク設定］を選ぶ。
3. ［無線LAN設定（内蔵）］を選ぶ。
4. ［WPS（プッシュボタン方式）］を選ぶ。
5. ［開始］を選ぶ。
6. アクセスポイントのWPSボタンを押す。
   ネットワーク接続を開始します。
   通信設定が完了し、表示窓に［ ］が点灯します。

任意のネットワーク名（SSID）による設定方法を選んだ場合は

手順4で任意のネットワーク名（SSID）を選び、オンスクリーンキーボードを使って、セキュリティーキー（パスキー）を入力し、［Enter］を選んで入力を確定させると、ネットワーク接続を開始します。詳しくは、テレビ画面に表示されるメッセージを参照してください。

固定IPアドレスを手動で入力するときは

手順4で［新しい接続先の登録］-［手動登録］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

WPS PINコードを使って設定するときは

手順4で［新しい接続先の登録］-［（WPS）PIN方式］を選び、テレビ画面に表示される指示にしたがって操作します。

ヒント

- ネットワーク接続状態を確認するときは、［ネットワーク接続状態］をご覧ください。

---

[177] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ネットワークの接続状態を確認する（ネットワーク接続状態）

現在のネットワークの接続状態が確認できます。

1. ホームメニューの［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［ネットワーク接続状態］を選ぶ。

---

[178] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ネットワークに正しく接続されているかを確認する（ネットワーク接続診断）

ネットワーク診断を実行し、ネットワークに正しく接続されているかを確認することができます。

1. ホームメニューの［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［ネットワーク接続診断］を選ぶ。

3. 画面に表示される指示にしたがって操作する。

---

[179] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

スクリーンミラーリングで優先的に使う周波数を設定する（スクリーンミラーリング周波数設定）

無線LAN（ローカルエリアネットワーク）などの複数の無線ネットワークを使用している場合、無線信号が不安定になることがあります。このとき、スクリーンミラーリングで優先的に使う周波数チャンネルを設定すると、再生が安定する場合があります。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［スクリーンミラーリング周波数設定］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     通常の場合にこの設定を選びます。スクリーンミラーリングに適したチャンネルが自動的に選択されます。
   - **CH1/CH6/CH11：**
     選択されたチャンネルがスクリーンミラーリング接続用に優先的に選択されます。

---

[180] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

接続中のサーバーを表示する（接続サーバー設定）

接続サーバーの表示設定や接続が確認できます。また、リストからサーバーを削除することもできます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［接続サーバー設定］を選ぶ。

---

[181] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ホームネットワーク上のコントローラー機器からAVレシーバーを操作できるようにする（自動レンダラーアクセス許可）

ホームネットワーク上で検出されたコントローラー機器に対してAVレシーバーの自動アクセスを許可するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［自動レンダラーアクセス許可］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

---

[182] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ホームネットワーク上のコントローラー機器からAVレシーバーを操作できるようにする（レンダラーアクセス制御設定）

ホームネットワーク上のコントローラー機器のリストを確認し、リスト上の個別の機器に対してAVレシーバーの操作を許可するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［レンダラーアクセス制御設定］を選ぶ。
   登録コントローラー機器のリスト（40台まで）が表示されます。
3. 設定したいコントローラー機器を選び、を押す。
4. 以下のいずれの設定を選ぶ。
   - **許可する**：
     コントローラー機器からのアクセスを許可します。
   - **許可しない**：
     コントローラー機器からのアクセスは許可しません。

[183] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

登録したTV SideView機器を確認する（登録済モバイル機器リスト）

AVレシーバーを操作可能なTV SideView機器を確認できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［登録済モバイル機器リスト］を選ぶ。

ご注意

- 最大で5台のTV SideView機器を登録できます。すでに5台に達していて、新たな機器を追加したい場合は、不要な機器を削除してください。

[184] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ネットワークで接続された機器からリモート起動する（リモート起動）

リモート起動を「入」にすると、AVレシーバーがスタンバイ状態のときに、ネットワークで接続された機器から電源を入れることができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［リモート起動］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。

[185] 設定を調節する ｜ ネットワーク設定

ホームオートメーションコントローラーからの操作を可能にする（外部機器からの操作）

ホームネットワーク上の専用コントローラー（ホームオートメーションコントローラー）が

AVレシーバーを制御することを許可するかどうかを設定します。

1. ホームメニューから［Setup］-［通信設定］を選ぶ。
2. ［外部機器からの操作］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。

BLUETOOTHモードを選ぶ（Bluetoothモード）

リモート機器のコンテンツをAVレシーバーで楽しんだり、AVレシーバーの音声をヘッドホンなどの機器で聞くことができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［Bluetooth設定］を選ぶ。
2. ［Bluetoothモード］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **受信：**
     AVレシーバーが受信モードに設定され、リモート機器の音源を受信、出力できるようになります。
   - **送信：**
     AVレシーバーが送信モードに設定され、音源をリモート機器に送信できるようになります。
     表示窓に［BT TX］と表示されます。
   - **切：**
     BLUETOOTH電源が切断され、ホームメニューで［Listen］-［Bluetooth］が選べなくなります。NFC機能も無効になります。

ご注意

- AVレシーバーの入力が［BLUETOOTH］または［Screen mirroring］に設定されているときは、［Bluetoothモード］の切り替えはできません。
- ［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、AVレシーバーに接続されているスピーカーからは音が出ません。
- ［送信］モードでAVレシーバーが音声を送信できる機器は1台のみです。

ヒント

- ［Bluetooth設定］の［ワイヤレス再生品質］で、LDAC再生のデータ転送レートを設定

できます。
- ［送信］設定時にスマートフォンからAVレシーバーに接続したとき、いずれの機器もAVレシーバーに接続されていない場合、自動的に設定が［受信］モードに切り替わり、AVレシーバーでスマートフォンの音声が聞けるようになります。
- リモコンのBLUETOOTH RX/TXボタンを押すことで、BLUETOOTH RX（受信）モードとBLUETOOTH TX（送信）モードを切り替えることができます。
- ［送信］モード設定時は、AVレシーバーから他の機器の音量を調節することができます。

---

[187] 設定を調節する ｜ BLUETOOTH設定

BLUETOOTH機器の一覧を確認する（機器リスト）

［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは、ペアリング、または検出されたBLUETOOTH機器のリストを確認することができます。リストで検出された機器を選び、ペアリングすることもできます。

1. ホームメニューから［Setup］-［Bluetooth設定］を選ぶ。
2. ［機器リスト］を選ぶ。

ヒント

- リストを更新するには、［検索］を選びます。

---

[188] 設定を調節する ｜ BLUETOOTH設定

BLUETOOTHスタンバイモードを設定する（Bluetoothスタンバイ）

BLUETOOTHスタンバイモードを設定すると、スタンバイ状態のときでもBLUETOOTH機器からAVレシーバーの電源を入れることができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［Bluetooth設定］を選ぶ。
2. ［Bluetoothスタンバイ］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。
   - **入：**

BLUETOOTH機器からAVレシーバーの電源を入れることができます。

- **切**

ご注意

- ［Bluetoothスタンバイ］が［入］に設定されているとき、接続履歴がある場合に再度ペアリングをすると、前面の I/⏻（電源オン／スタンバイ）ランプがオレンジ色に点灯します。
- この機能は、［Bluetoothモード］が［受信］または［送信］に設定されているときのみ働きます。
- ［高速起動/ネットワークスタンバイ］と［Bluetoothスタンバイ］が［入］に設定されている場合、BLUETOOTH機器との接続が確立したときにAVレシーバーの電源が入ります。

BLUETOOTHオーディオコーデックを設定する（Bluetooth音声フォーマット - AAC/Bluetooth音声フォーマット - LDAC）

AAC（Advanced Audio Coding）またはLDAC音声を有効または無効にできます。

1. ホームメニューから［Setup］-［Bluetooth設定］を選ぶ。
2. ［Bluetooth音声フォーマット - AAC］または［Bluetooth音声フォーマット - LDAC］を選ぶ。
3. ［入］または［切］に設定する。
   - **入：**
     BLUETOOTH機器がAACまたはLDACに対応している場合、AACまたはLDAC音声が有効です。
   - **切：**
     AACまたはLDAC音声は無効です。

ご注意

- 設定を変更すると、次にBLUETOOTH機器と接続したときに設定が適応されます。
- この機能は、［Bluetoothモード］が［受信］または［送信］に設定されているときのみ働きます。

ヒント

- AACまたはLDAC音声が有効な場合、高音質の音声を楽しむことができます。
- LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBLUETOOTH経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。SBC等の既存BLUETOOTH向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します（＊）。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍（＊＊）のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBLUETOOTH無線伝送を実現しています。

＊ DSDフォーマットは除く。

＊＊ 990kbps（96/48kHz）または909kbps（88.2/44.1kHz）のビットレートを選択した場合のSBC（Subband Coding）との比較。

---

[190] 設定を調節する ｜ BLUETOOTH設定

LDAC再生のデータ転送レートを設定する（ワイヤレス再生品質）

LDAC再生のデータ転送レートを設定することができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［Bluetooth設定］を選ぶ。
2. ［ワイヤレス再生品質］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
   - **自動：**
     LDAC再生のデータ転送レートを自動的に設定します。
   - **音質優先：**
     最高品質のデータ転送レートが使用されます。音声は高音質で伝送されますが、リンク品質が十分でない場合は音声再生が不安定になることがあります。
   - **標準：**
     標準的なデータ転送レートが使用されます。音質と再生の安定度のバランスが良い設定です。
   - **接続優先：**
     再生の安定が優先されます。音質は適度に良く、接続状況もおおむね安定します。接続が不安定な場合は、この設定をおすすめします。

ご注意

- この機能は、［Bluetoothモード］が［送信］、［Bluetooth音声フォーマット－LDAC］が［入］に設定されているときのみ働きます。

[191] 設定を調節する ｜ ゾーン設定

ゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの電源をオン／オフする（機能）

以下の手順でゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの電源を入／切できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［ゾーン設定］を選ぶ。
2. ［ゾーン2機能］、［ゾーン3機能］または［HDMIゾーン機能］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

ご注意

- AVレシーバーがスタンバイ状態であっても、メインゾーン以外のゾーンアンプの電源は入ったままです。（AVレシーバーの電源を切るには、リモコンのI/⏻（電源オン／スタンバイ）を押してください。）
- AVレシーバーがスタンバイ状態で、ゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンのアンプの電源が入っている場合は、本体前面のI/⏻（電源オン／スタンバイ）ランプがオレンジ色に点灯します。

ヒント

- 本体のZONE POWERボタンを使ってゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの電源を入／切することもできます。

[192] 設定を調節する ｜ ゾーン設定

ゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの音源を選ぶ（入力）

以下の手順でゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの音源を選べます。

1. ホームメニューから［Setup］-［ゾーン設定］を選ぶ。
2. ［ゾーン2入力］、［ゾーン3入力］または［HDMIゾーン入力］を選ぶ。
3. 出力したい音源を選ぶ。

ヒント

- 表示窓に［2. xxxx（入力名）］、［3. xxxx（入力名）］または［H. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のZONE SELECTボタンおよびINPUT SELECTORつまみを使ってゾーン2／ゾーン3／HDMIゾーンの音源を選ぶこともできます。

---

[193] 設定を調節する ｜ ゾーン設定

ゾーン2／ゾーン3の音量を調節する（音量）

次の場合は、以下の手順でゾーン2／ゾーン3の音量を調節できます。

- 「1. 別の部屋（ゾーン2、ゾーン3）のスピーカーを接続する」で示した接続を使っているとき。
- 「1. ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する」で示した接続を使っているとき、および［ゾーン2音声出力モード］が［可変］に設定されているとき。

1. ホームメニューから［Setup］-［ゾーン設定］を選ぶ。
2. ［ゾーン2音量］または［ゾーン3音量］を選ぶ。
3. 音量レベルを選ぶ。

ご注意

- ［ゾーン2音声出力モード］が［固定］に設定されているときは、ゾーン2のアンプを使って音量を調節してください。

ヒント

- 表示窓に［2. xxxx（入力名）］または［3. xxxx（入力名）］が表示されている間に、本体のZONE SELECTボタンおよびMASTER VOLUMEつまみを使って音量を調節することもできます。

---

[194] 設定を調節する ｜ ゾーン設定

ゾーン2の音量を調節する（ゾーン2音声出力モード）

ZONE 2 音声 OUT端子の音量調節を可変または固定に設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［ゾーン設定］を選ぶ。

2. ［ゾーン2音声出力モード］を選ぶ。

3. お好みの設定を選ぶ。

   - **可変：**
     ゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。AVレシーバーの音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが調整可能になります。
   - **固定：**
     ゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。AVレシーバーの音声ZONE 2 OUT端子の音量レベルが固定されます。

ご注意

- ［可変］に設定されているときは、初期設定で音量が下げられています。設定完了後、音声を聞きながら音量を上げてください。スピーカーSURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2端子の音量は音声ZONE 2 OUT端子と連動して調節されます。

---

[195] 設定を調節する ｜ システム設定

音量レベルや音場（サウンドフィールド）の表示をオン／オフする（変更情報表示）

音量レベルや、サウンドフィールドなどが変更されたときにテレビ画面に表示される情報画面を入／切できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。

2. ［変更情報表示］を選ぶ。

3. ［入］または［切］を選ぶ。

---

[196] 設定を調節する ｜ システム設定

スタンバイ状態からの起動時間を短くする（高速起動/ネットワークスタンバイ）

［入］に設定すると、スタンバイ状態からの起動時間を短縮したり、ネットワーク接続機器からAVレシーバーを発見し、電源を入れたりすることができます。

1. ホームメニューの［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［高速起動/ネットワークスタンバイ］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

---

[197] 設定を調節する ｜ システム設定

自動的にスタンバイ状態になるよう設定をする（自動電源オフ）

操作や信号の入力がないときに、自動的にスタンバイ状態に切り替わるように設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［自動電源オフ］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。
   ［入］に設定すると、約20分後にスタンバイ状態に切り替わります。

ご注意

- 以下の場合、この機能は働きません。
  - ［FM TUNER］が入力として選ばれているとき
  - AVレシーバーのソフトウェアがアップデート中のとき
  - BLUETOOTHヘッドホンを接続しているとき
- オートスタンバイ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

---

[198] 設定を調節する ｜ システム設定

表示窓の明るさを調節する（表示窓の明るさ）

表示窓の明るさを3段階で調節できます。

1. ホームメニューの［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［表示窓の明るさ］を選ぶ。
3. お好みの設定を選ぶ。
    - **消灯**
    - **暗い**
    - **明るい**

ヒント

- 本体前面のDIMMERボタンでも調節ができます。

---

[199] 設定を調節する ｜ システム設定

スリープタイマーを使う

表示窓のメニューを使って、指定した時間に電源が切れるよう設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［スリープタイマー］を選ぶ。
3. お好みの時間を選ぶ。
    - **2時間**
    - **1時間30分**
    - **1時間**
    - **30分**
    - **切**

    スリープタイマーを使用中は、AVレシーバーの表示窓に［SLEEP］が点灯します。

ヒント

- 電源が切れるまでの残り時間は、システム設定画面で確認できます。また、残り時間が1分を切ると、テレビ画面の右下に残り時間が表示されます。
- 以下の操作を行うと、スリープタイマーが解除されます。
    - AVレシーバーのソフトウェアをアップデートする。
    - 電源を入／切する。

[200] 設定を調節する ｜ システム設定

新しいソフトウェアの情報を受け取る（ソフトウェアアップデート通知）

新しいバージョンのソフトウェアがあるときに、テレビ画面に情報を表示するかどうかを設定できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［ソフトウェアアップデート通知］を選ぶ。
3. ［入］または［切］を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合は新しいソフトウェアバージョンの情報は表示されません。
  - 最新バージョンがすでに使用されているとき
  - ネットワークからデータを取得できないとき

[201] 設定を調節する ｜ システム設定

個人情報を削除する（個人情報の初期化）

AVレシーバーに保存されている個人情報を削除することができます。
AVレシーバーを廃棄、譲渡または転売する場合、安全のために個人情報はすべて削除してください。お使いになっているすべてのネットワークサービスからログアウトするなど、適切な対応を行ってください。

1. ホームメニューの［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［個人情報の初期化］を選ぶ。
3. 画面に表示される指示にしたがって操作する。

ご注意

- 以下の履歴が削除されます。
  - 接続済のBLUETOOTH機器
  - スクリーンミラーリング機能を使って接続したモバイル機器

– オンスクリーンキーボードで入力された内容

[202] 設定を調節する ｜ システム設定

AVレシーバーに名前を割り当てる（機器名）

ホームネットワーク上やBLUETOOTH接続時に他の機器から見分けがつきやすいように、機器名をAVレシーバーに割り当てることができます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［機器名］を選ぶ。
   オンスクリーンキーボードがテレビ画面に表示されます。
3. ⇧/⇩/⇦/⇨と⊕を押して一文字ずつ選び、名前を入力する。
4. ［Enter］を選ぶ。
   入力した名前が登録されます。

[203] 設定を調節する ｜ システム設定

ソフトウェアのバージョンやMACアドレスを確認する（本体情報）

AVレシーバーのソフトウェアバージョンやMACアドレスを確認できます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［本体情報］を選ぶ。

[204] 設定を調節する ｜ システム設定

ソフトウェアライセンスを確認する（ソフトウェアライセンス）

ソフトウェアライセンス情報を確認することができます。

1. ホームメニューの［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［ソフトウェアライセンス］を選ぶ。
3. 画面に表示される指示にしたがって操作する。

[205] 設定を調節する ｜ システム設定

ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定する（自動アップデート設定）

ソフトウェアを自動的にアップデートできるように設定することができます。［自動アップデート］を［入］にすると、選んだタイムゾーンの午前2時から5時の間に自動アップデートが実行されます。

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［自動アップデート設定］を選ぶ。
3. ［自動アップデート］を選び、［入］を選ぶ。
4. ⇩で［タイムゾーン］を選び、⊕を押す。
5. 地域を選び、お住まいの場所に近い都市を選ぶ。

ご注意

- AVレシーバーを使用していない深夜にアップデートをするためには、［自動アップデート］を［入］に、［高速起動/ネットワークスタンバイ］を［入］にしておく必要があります。
- ［自動アップデート］が［入］で［高速起動/ネットワークスタンバイ］が［切］の場合は、電源を切るときに自動的にアップデートが開始されます。
- 提供するアップデートの種類によっては、［自動アップデート］を［切］にしていても自動的にアップデートが実行される場合があります。また、電源を切るときに自動的にアップデートが開始される場合があります。

[206] 設定を調節する ｜ システム設定

ソフトウェアをアップデートする（ソフトウェアアップデート）

1. ホームメニューから［Setup］-［システム設定］を選ぶ。
2. ［ソフトウェアアップデート］を選ぶ。
3. ［ネットワーク経由でアップデート］または［USBメモリーからアップデート］を選ぶ。
   ［USBメモリーからアップデート］を選んだ場合は、カスタマーサポートウェブサイトから最新のバージョンのソフトウェアをダウンロードしてください。
4. ソフトウェアのアップデートを行う。
   アップデート中は、表示窓に［UPDATING］が表示されます。［UPDATING］表示はアップデート中でも一時的に消える場合があります。
5. AVレシーバーを再起動する。
   アップデートが完了すると、表示窓に［COMPLETE］が表示され、AVレシーバーは自動的に再起動しま す。

ご注意

- アップデートが完了するまでに1時間ほどかかる場合があります。
- ソフトウェアのアップデート中は、AVレシーバーの電源を切らないでください。故障の原因となることがあります。
- ソフトウェアのアップデート後は、古いバージョンの復元はできません。

表示窓のメニューを使って操作する

AVレシーバーをテレビにつないでいない場合でも表示窓を使って操作できます。

1. AMP MENUを押す。
   表示窓にメニューが表示されます。
2. ⇧/⇩をくり返し押してメニューを選び、⊕を押す。
3. ⇧/⇩をくり返し押してパラメーターを選び、⊕を押す。

4. ⇧/⇩をくり返し押してお好みの設定を選び、⊕を押す。

前の表示に戻るには

⇦またはBACKを押す。

メニューを閉じるには

AMP MENUを押す。

ご注意

- パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、または固定および変更不可であることを意味します。

---

[208] 設定を調節する ｜ 表示窓のメニューを使う

表示窓で情報を確認する

表示窓で、音場（サウンドフィールド）などさまざまな情報を確認できます。

1. 情報を確認したい入力を選ぶ。
2. 本体のDISPLAY MODEボタンをくり返し押す。
   DISPLAY MODEボタンを押すたびに表示が次のように切り替わります。
   入力のインデックス名（＊1） - 選択した入力 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル - ストリーム情報（＊3）

   ### FMラジオ聴取時

   プリセット放送局名（＊1） - 周波数 - 最近適用したサウンドフィールド（＊2） - 音量レベル

＊1 インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。
＊2 ピュアダイレクトモードを選んでいるときは、［PURE.DIRECT］が表示されます。
＊3 ストリーム情報は表示されない場合があります。

---

[209] 設定を調節する ｜ お買い上げ時の設定に戻す

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順にしたがって、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。初めてお使いになるときも、下記の手順で初期化することができます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 電源を切る。
2. 本体の I/⏻（電源オン／スタンバイ）を5秒間押し続ける。
   表示窓にしばらく［CLEARING］が点滅したあと、表示が［CLEARED !］に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に［CLEARED !］が表示されるまで、電源を切らないでください。

---

[210] 困ったときは ｜ エラーメッセージ

PROTECTOR

表示窓に［PROTECTOR］の表示が出ると、数秒後にAVレシーバーの電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- AVレシーバーが何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、AVレシーバーの温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
  - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファーのケーブルを抜く。
  - スピーカーの芯線の先端がしっかりとねじってあるか確認する。
  - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、AVレシーバーの温度が上がるまで少なくとも30分間、AVレシーバーを操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確かめる。

  以上の項目を確認して問題が解決したら、電源コードをつないでAVレシーバーの電源を入れてください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

---

[211] 困ったときは ｜ エラーメッセージ

過電流が発生しました

- エラーメッセージの指示にしたがって、すべてのUSB機器を取り外してください。

[212] 困ったときは ｜ エラーメッセージ

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

- **エラー 30**：
  PHONES端子にヘッドホンをつないでいます。ヘッドホンを取り外し、もう一度自動音場補正を実行してください。
- **エラー 31**：
  フロントスピーカーが正しく選ばれていません。本体のSPEAKERSボタンを使ってフロントスピーカーを選び、もう一度自動音場補正を実行してください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「4. フロントスピーカーを選ぶ」をご覧ください。
- **エラー 32、エラー 33**：
  スピーカーが検出されない、または正しくつながれていません。
  - フロントスピーカーをつないでいない、またはフロントスピーカーを1本しかつないでいません。
  - 左右どちらかのサラウンドスピーカーをつないでいません。
  - サラウンドスピーカーをつないでいないのに、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーをつないでいます。サラウンドスピーカーをスピーカー SURROUND端子につないでください。
  - サラウンドバックスピーカーをスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 R端子にのみつないでいます。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B/ZONE 2 L端子につないでください。
  - フロントハイスピーカーの左右いずれかが接続されていません。

  測定用マイクを接続していません。測定用マイクが正しく接続されていることを確認して、自動音場補正をもう一度実行してください。
  測定用マイクが正しく接続されているにもかかわらず、エラーコードが表示される場合は、測定用マイクのケーブルが損傷している可能性があります。
- **警告 40**：
  測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。
- **警告 41、警告 42**：
  測定用マイクからの入力が過大です。
  - スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。
- **警告 43**：
  アクティブサブウーファーの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっ

ている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

[213] 困ったときは ｜ 全体

電源が自動的に切れる

- ［自動電源オフ］が［入］に設定されています。
- スリープタイマーが働いています。
- ［PROTECTOR］が働いています。

[214] 困ったときは ｜ 全体

複数のデジタル機器を接続中、再生可能な入力がみつからない

コンポーネント映像端子・同軸デジタル音声入力端子および光デジタル音声入力端子を他の入力に再度割り当ててください。

[215] 困ったときは ｜ 映像

テレビに映像が表示されない

- 入力切り替え用ボタンで適切な入力を選んでください。
- テレビを適切な入力モードに設定してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- コンポーネント映像入力を正しく割り当ててください。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器に接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、必ずハイスピードHDMIケーブルを使用してください。
- HDMI映像信号出力が［HDMI OFF］に設定されています。この場合は、［HDMI A］、［HDMI B］または［HDMI A+B］に設定してください。
- HDCP 2.2対応のコンテンツを再生するには、機器をAVレシーバーのHDCP 2.2対応のHDMI入力・出力端子につないでください。また、お使いのテレビがHDCP 2.2に対応し

ているか確認してください。

[216] 困ったときは ｜ 映像

テレビに3D映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、3Dの映像が表示されないことがあります。AVレシーバーが対応しているHDMI映像フォーマットを確認してください。
- 必ずハイスピードHDMIケーブルを使用してください。

[217] 困ったときは ｜ 映像

テレビに4K映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、4Kの映像が表示されないことがあります。お使いのテレビや映像機器の性能および設定を確認してください。また、映像機器が、AVレシーバーの4Kに対応しているHDMI IN端子に接続されているかを確認してください。
- 必ずハイスピードHDMIケーブルを使用してください。
- HDCP 2.2対応のコンテンツを再生するには、映像機器とテレビをAVレシーバーのHDCP 2.2対応のHDMI入力・出力端子につないでください。また、お使いのテレビがHDCP 2.2に対応しているか確認してください。

[218] 困ったときは ｜ 映像

スタンバイ状態時に、テレビから映像が出ない

- AVレシーバーがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる前に選択したHDMI機器の映像／音声がテレビに出力されます。他の機器のコンテンツを楽しむ場合は、コンテンツを再生してワンタッチプレイ操作を行うか、AVレシーバーの電源を入れてお好みのHDMI機器を選択します。
- HDMI設定メニューの［スタンバイスルー］が［自動］か［入］になっていることを確認してください。

[219] 困ったときは ｜ 映像

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- HDMI OUT A（テレビ）端子につないでいるときのみ、ホームメニューを使用できます。
- HOMEを押して、ホームメニューを表示させてください。
- テレビが正しく接続されているか確認してください。
- テレビによっては、テレビ画面にホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

[220] 困ったときは ｜ 映像

表示窓が消灯する

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯しているときは、PURE DIRECTボタンを押して機能をオフにしてください。
- 本体のDIMMERボタンを押して、表示窓の明るさを調節してください。

[221] 困ったときは ｜ 音声

どの機器を選んでも、音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続ケーブルが、AVレシーバー、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認してください。
- AVレシーバーとすべての機器の電源が入っているか確認してください。
- 本体のMASTER VOLUMEつまみが［VOL MIN］に設定されていないか確認してください。
- 本体のSPEAKERSボタンが［SPK OFF］に設定されていないか確認してください。
- ヘッドホンをAVレシーバーにつないでいないことを確認してください。
- 🔇を押して消音機能を解除してください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体のINPUT SELECTORつまみを回して、お好みの機器を選んでください。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、HDMI設定メニューの［音声信号出力］を［テレビ + アンプ］に設定してください。マルチチャンネル音声を再生できない場合は、［アンプ］に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力

されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが切り替えられたときに、音声が途切れる場合があります。
- BLUETOOTHヘッドホンで音声を聞いている場合は、［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているか確認してください。

---

[222] 困ったときは ｜ 音声

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも3メートル離れているか確認してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- プラグや端子が汚れています。アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

---

[223] 困ったときは ｜ 音声

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器がAVレシーバーに正しく接続されていない可能性があります。AVレシーバーと機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
  ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーがAVレシーバーに正しく接続されていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認してください。
- アナログ機器の左右両方の端子に接続しているか確認してください。アナログ機器は左右両方の端子に接続する必要があります。音声ケーブル（別売）を使ってください。
- スピーカーのレベルを調節してください。
- ［自動音場補正］またはスピーカー設定メニューの［スピーカーパターン］を使って、スピーカーの設定が適切か確認してください。その後、スピーカー設定メニューの［テストトーン］を使って、各スピーカーから正しく音が出力されているか確認してください。
- ドルビーデジタルサラウンドEXの情報を持たないディスクがあります。その場合は、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認してください。

- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認してください。
- 選んだ音場（サウンドフィールド）によっては、アクティブサブウーファーから音が出ないことがあります。
- すべてのスピーカーが［大］に設定されていて、［Neo6: シネマ］（Neo6: Cinema）または［Neo:6 ミュージック］（Neo6: Music）が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ません。

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続に使用されているケーブルが、AVレシーバーと機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。
- 入力モードの設定を確認してください。
- 機器が、対応するHDMI端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、必ずハイスピードHDMIケーブルを使用してください。
- テレビ画面にホームメニューが表示されているときは、AVレシーバーから音声が出力されないことがあります。HOMEを押して、ホームメニューを非表示にしてください。
- HDMI端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）はつないだ機器によって制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、つないだ機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していない場合、AVレシーバーのHDMI OUT端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、再生機器の映像解像度を720p/1080iより高く設定してください。
- DSDやマルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロールに対応していることを確認してください。
- テレビにシステムオーディオコントロールがない場合は、HDMI設定メニューの［音声信号出力］の設定を下記のように設定してください。
  - テレビのスピーカーとAVレシーバーから音を聞きたい場合は、［テレビ + アンプ］
  - AVレシーバーから音を聞きたい場合は、［アンプ］
- AVレシーバーにプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、AVレシーバーから音が出力されない場合があります。この場合は、HDMI設定メニューの［音声信号出力］

を［アンプ］に設定してください。

- AVレシーバーでテレビ入力が選ばれているときに、AVレシーバーにつないだ機器の音声が聞こえない場合
  - HDMI接続でつないだ機器の番組を視聴したいときは、必ずAVレシーバーの入力をHDMIに変更してください。
  - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り替えてください。
  - テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選んでください。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- HDMI入力やデジタル入力（同軸デジタル音声、光デジタル音声）が選ばれているときに［アナログダイレクト］を使うと、音声は出力されません。別の音場（サウンドフィールド）を使ってください。
- HDMI機器制御機能を使用しているときは、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
  - つないだ機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。各機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
  - AVレシーバーの入力を機器に接続したHDMI入力に切り替えてください。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認してください。

---

[225] 困ったときは ｜ 音声

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているHDMI OUT端子にテレビを接続しているとき、テレビから音が出ない

- HDMI設定メニューで［HDMI機器制御］が［入］に設定されていることを確認してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているか確認してください。
- AVレシーバーがHDMIケーブルで、テレビのARC機能に対応する端子に接続されているか確認してください。

---

[226] 困ったときは ｜ 音声

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- スピーカー設定メニューで音声レベルパラメーターを調整してください。

[227] 困ったときは ｜ 音声

ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生されない

- 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタル（Dolby Digital）またはDTS形式で録音されているか確認してください。
- DVDプレーヤーなどをAVレシーバーのデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認してください。
- HDMI設定メニューで［音声信号出力］を［アンプ］に設定してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、DSD、マルチチャンネルリニアPCMは、HDMI接続でのみ楽しめます。

[228] 困ったときは ｜ 音声

サラウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用の音場（サウンドフィールド）を選んでいるか確認してください。
- スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されていると、［ドルビープロロジックII Movie］（PLII Movie）、［ドルビープロロジックII Music］（PLII Music）、［ドルビープロロジックIIx Movie］（PLIIx Movie）、［ドルビープロロジックIIx Music］（PLIIx Music）、［Neo6: シネマ］（Neo6: Cinema）および［Neo:6 ミュージック］（Neo6: Music）は働きません。

[229] 困ったときは ｜ 音声

スピーカーからテストトーンが出力されない

- スピーカーケーブルが確実に接続されていない可能性があります。スピーカーケーブルを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につないでください。
- スピーカーケーブルがショートしている恐れがあります。

[230] 困ったときは | 音声

テレビ画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される

- スピーカーパターンの設定が間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正確に一致していることを確認してください。

[231] 困ったときは | 音声

スタンバイ状態時に、テレビから音声が出ない

- AVレシーバーがスタンバイ状態になると、スタンバイ状態になる前に選択したHDMI機器の音声がテレビに出力されます。他の機器のコンテンツを楽しむ場合は、コンテンツを再生してワンタッチプレイ操作を行うか、AVレシーバーの電源を入れてお好みのHDMI機器を選択します。
- HDMI設定メニューの［スタンバイスルー］が［自動］か［入］になっていることを確認してください。

[232] 困ったときは | チューナー

FM放送の受信状態が悪い

- FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
- FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。

[233] 困ったときは | チューナー

FMステレオ放送の受信状態が悪い

以下の手順を行ってください。

1. ホームメニューから［Listen］-［FM TUNER］を選ぶ。
2. FMの放送局を選ぶ。

3. OPTIONSを押す。

4. オプションメニューから［FM受信モード］を選ぶ。

5. ［モノラル］を選ぶ。

ご注意

- 手順3で周波数表示が選ばれている場合は、オプションメニューからFM受信モードを設定できます。

---

[234] 困ったときは ｜ チューナー

放送局が受信できない

- アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。
- 放送局の信号が弱いです。ダイレクト選局を使ってください。
- プリセットされた放送局がない、またはプリセットした放送局が消去されています（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。放送局をプリセットしてください。
- 本体のDISPLAY MODEボタンをくり返し押して、表示窓に周波数を表示させてください。

---

[235] 困ったときは ｜ iPhone/iPad/iPod

音声が歪む

- リモコンの◿ –をくり返し押してください。本体のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

---

[236] 困ったときは ｜ iPhone/iPad/iPod

iPhone/iPodから音が出ない

- iPhone/iPodを取り外して、もう一度つないでください。

[237] 困ったときは ｜ iPhone/iPad/iPod

iPhone/iPad/iPodを充電できない

- AVレシーバーの電源が入っているか確認してください。
- iPhone/iPodが確実に接続されているか確認してください。
- AVレシーバーは、iPad機器の充電はできません。

[238] 困ったときは ｜ iPhone/iPad/iPod

iPhone/iPad/iPodを操作できない

- iPhone/iPad/iPodのコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。
- AVレシーバーの電源を切り、iPhone/iPad/iPodを取りはずしてください。もう一度AVレシーバーの電源を入れて、iPhone/iPad/iPodをつなぎ直してください。
- AVレシーバーが対応していないiPhone/iPad/iPodを使用しています。

[239] 困ったときは ｜ iPhone/iPad/iPod

iPhoneの呼び出し音の音量を変更できない

- iPhoneを直接操作して呼び出し音の音量を調節してください。

[240] 困ったときは ｜ USB機器

対応していないUSB機器を使用している

- 対応していないUSB機器を使用すると、下記のような問題が起こることがあります。
  - USB機器が認識されない。
  - ファイル名またはフォルダー名が表示されない。
  - 再生ができない。
  - 音が飛ぶ。

– ノイズがある。
– 歪んだ音声が出力される。

[241] 困ったときは ｜ USB機器

ノイズがある、または音が飛んだり歪んだりする

- AVレシーバーの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 音楽データ自体がノイズや歪んだ音声を含んでいます。

[242] 困ったときは ｜ USB機器

USB機器が認識されない

- AVレシーバーの電源を切り、USB機器を取り外してください。もう一度電源を入れて、USB機器をつなぎ直してください。
- 対応しているUSB機器をつないでください。
- USB機器が正しく動作していません。問題の対処方法については、USB機器の取扱説明書を参照してください。

[243] 困ったときは ｜ USB機器

再生が始まらない

- AVレシーバーの電源を切ってUSB機器をつなぎ直し、もう一度電源を入れてください。
- 対応しているUSB機器をつないでください。
- ［USB］を選んでからフォルダー／トラックを選び、►IIを押して再生を開始してください。

[244] 困ったときは ｜ USB機器

USB機器をUSBポートにつなげない

- USBケーブルのプラグを上下逆さまの向きにつなごうとしています。プラグを正しい向きにしてつないでください。

[245] 困ったときは ｜ USB機器

エラーメッセージが表示される

- USB機器に保存されているデータが破損しています。
- AVレシーバーで表示できる文字コードは下記のとおりです。
  - 大文字（A ～ Z）
  - 小文字（a ～ z）
  - 数字（0 ～ 9）
  - 記号（ ' = < > * + , ? ./ @ [¥] _ ` ）

  他の文字は正しく表示されないことがあります。

[246] 困ったときは ｜ USB機器

音声ファイルを再生できない

- MP3 PRO形式のMP3ファイルは再生できません。
- マルチチャンネルの音声ファイルは再生できません。
- AACファイルは正しく再生できないことがあります。
- パーティション分割したUSB機器をお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。
- 9階層のフォルダーまで再生できます（［ROOT］フォルダー含む）。
- フォルダー数が500を超えています（［ROOT］フォルダー含む）。
- フォルダー内のファイル数が500を超えています。
- 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。

[247] 困ったときは ｜ ネットワーク接続

無線LAN接続でWPSを使ってネットワークに接続できない

- アクセスポイントがWEPに設定されているときは、WPSを使ってネットワークにつなぐ

ことはできません。アクセスポイントスキャン使ってアクセスポイントを検索してから、ネットワークを設定してください。

[248] 困ったときは ｜ ネットワーク接続

ネットワークに接続できない

- 有線LANでネットワークに接続したい場合は、LANケーブルがAVレシーバーに接続されているか確認してください。
- ネットワークの情報を確認してください。接続に失敗する場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- 無線ネットワークでシステムが接続されている場合は、AVレシーバーと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置して、設定をやり直してください。
  - 無線LANルーター／アクセスポイントを使用しているか確認してください。
  - 無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。
  - 無線LANルーター／アクセスポイントの設定が正しいか確認し、設定をやり直してください。機器の設定について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
  - 無線ネットワークは、電子レンジやその他の機器から放出される電磁放射線の影響を受けます。AVレシーバーをこれらの機器から離れたところに配置してください。

[249] 困ったときは ｜ ネットワーク接続

SongPalを使ってAVレシーバーを操作できない

- AVレシーバーの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、AVレシーバーと同じネットワークに接続されていないか、ネットワークに接続されているAVレシーバーを見つけるまでに時間がかかっています。同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- 「ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをAVレシーバーに接続できない」もご参照ください。
- SongPalのヘルプもご確認ください。

[250] 困ったときは ｜ ネットワーク接続

TV SideView機器を使ってAVレシーバーを操作できな

い

- AVレシーバーの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- スマートフォン／タブレットが、AVレシーバーと同じネットワークに接続されていないか、ネットワークに接続されているAVレシーバーを見つけるまでに時間がかかっています。スマートフォン／タブレットをAVレシーバーと同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- AVレシーバーがTV SideView機器から削除されている可能性があります。いったんAVレシーバーからもTV SideView機器を削除して、再度登録を行ってください。
- TV SideView機器がAVレシーバーから削除されている可能性があります。いったんTV SideView機器からもAVレシーバーを削除して、再度登録を行ってください。
- 「ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをAVレシーバーに接続できない」もご参照ください。
- TV SideViewのヘルプもご確認ください。

[251] 困ったときは ｜ ネットワーク接続

通信設定メニューを選べない

- AVレシーバーの電源を入れてからしばらく待って、通信設定メニューを選び直してください。

[252] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

ホームネットワークに接続できない

- ルーター、無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- AVレシーバーの通信設定が正しいか確認してください。接続に失敗する場合は、ネットワーク接続をやり直してください。
- AVレシーバーが無線LANルーター／アクセスポイントに正しくつながれているか確認してください。
- 無線ネットワークに接続されているときは、AVレシーバーと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けてください。
- AVレシーバーを初期化した場合、またはサーバーの復帰を行った場合は、通信設定をやり直してください。

[253] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

サーバーがサーバーリストに表示されない（テレビ画面に［サーバーが見つかりません。］と表示される）

- サーバーの電源を入れる前にAVレシーバーの電源を入れた可能性があります。サーバーリストを更新してください。
- ルーターまたは無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
- サーバー側でAVレシーバーからの接続を許可する設定が必要な場合があります。サーバーが正しく設定されているか確認してください。サーバーからの音楽ストリーミングの受信をAVレシーバーに許可しているか確認してください。
- AVレシーバーとサーバーが無線LANルーター／アクセスポイントに正しくつながれているか、通信設定情報を確認してください。
- お使いの無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照して、マルチキャスト設定を確認してください。無線LANルーター／アクセスポイントでマルチキャスト機能の入／切を切り替えてみてください。
- ルーター機器のセキュリティー機能により、インターネットとの通信が可能でも、そのルーターにつながれた機器間のネットワークが分離されていることがあります。
  お使いの無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照し、該当するセキュリティー機能をオフにしてみてください。
- パソコンソフトウェアのサーバーをお使いの場合は、ファイアウォール設定とセキュリティソフトウェアの設定を確認してください。

[254] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

ルーターに無線LAN接続したサーバーなどにアクセスできない

- AVレシーバーを無線LAN接続している場合、別のネットワーク名（SSID）でルーターに無線LAN接続しているPC（ホームネットワークサーバー）にアクセスできないことがあります。この場合、ルーターのセキュリティー機能により、そのルーターにつながれた機器間のネットワークが分離されていることが考えられます。
  AVレシーバーとPCなどの機器をそれぞれ有線でルーターに接続してください。または、お使いの無線LANルーター／アクセスポイントの取扱説明書を参照し、該当するセキュリティー機能をオフにしてみてください。

[255] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

再生が始まらない、または自動的に次のトラックまたはファイルへ進まない

- 再生しようとしている音声ファイルのフォーマットにAVレシーバーが対応しているか確認してください。
- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きの音声／音楽コンテンツは再生できません。
- リピート設定とシャッフル設定が正しく設定されているか確認してください。OPTIONSを押して、再生モードを［リピート設定］または［シャッフル設定］に設定してください。

[256] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

再生中に音が飛ぶ

- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。お使いのルーターとネットワーク環境を確認してください。
- ネットワークの帯域幅が低すぎる可能性があります。無線LAN接続を使っている場合は、AVレシーバーと無線LANルーター／アクセスポイントを近付けて配置し、間に障害物を置かないでください。
- サーバーがビジー状態の可能性があります。パソコンをサーバーとして使用している場合は、パソコンで動作中のアプリケーションが多すぎる可能性があります。パソコン上でアンチウィルスソフトウェアが有効になっている場合は、システムリソースを大量に消費するため、一時的にソフトウェアを無効にしてください。
- ネットワーク環境によっては、複数の機器で同時にトラック再生をできないことがあります。他の機器の電源を切って、AVレシーバーがトラック再生をできるようにしてください。

[257] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

［このカテゴリーには再生できるファイルがありません。］と表示される

- 選んだフォルダーの中にフォルダーやファイルがない場合に表示されます。フォルダーを展開してコンテンツを表示させることはできません。

[258] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

著作権付きのファイルを再生できない

- DRM（Digital Rights Management）著作権保護付きの音源は、再生できません。

[259] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

前回選んだトラックが選べない

- サーバー上でトラック情報が変更された可能性があります。サーバーリストを更新して、サーバーを選び直してください。

[260] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをAVレシーバーに接続できない

- ネットワークが正しく設定されていることを確認してください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、AVレシーバーの［レンダラーアクセス制御設定］で［許可する］に設定されていない可能性があります。お使いのスマートフォン／タブレットを［許可する］に設定してください。お使いのスマートフォン／タブレットが表示されないときは、不要な機器をいったん削除した上で、［自動レンダラーアクセス許可］を［入］にしてから、お使いのスマートフォン／タブレットから操作してみてください。
- AVレシーバーで以下のいずれかの操作をしているときは接続できないことがあります。
  - サーバー上のファイルを再生している（AVレシーバーを再生機器として使用中）。
  - ソフトウェアをアップデートしている。
  - システムをフォーマットしている。
  - 設定を変更している。
  - スクリーンミラーリング中である。

- ［外部機器からの操作］を［入］に設定してください。
- TV SideViewをお使いの場合は、「TV SideView機器を使ってAVレシーバーを操作できない」も参照してください。
- SongPalをお使いの場合は、「SongPalを使ってAVレシーバーを操作できない」も参照してください。

[261] 困ったときは ｜ ホームネットワーク

ネットワーク上の機器でAVレシーバーの電源が入れられない

- AVレシーバー自体はWake-on-LANに対応していません。
- ネットワーク上の機器を操作してAVレシーバーの電源を入れるには、［リモート起動］を［入］に設定してください。

[262] 困ったときは ｜ AirPlay

iPhone/iPad/iPodまたはiTunesからAVレシーバーが見つからない

- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesを使用しているパソコンが、ホームネットワークにつながっているか確認してください。
- AVレシーバーのソフトウェアとiPhone/iPad/iPodまたはiTunesを最新バージョンにアップデートしてください。

[263] 困ったときは ｜ AirPlay

AirPlay再生中に音が飛ぶ

- ネットワーク環境などの要因によって音が飛びます。音声ファイルによっては、再生するのにネットワークの速度が必要です。有線LAN接続を使っている場合は、ネットワークハブ、ルーターを確認してください。無線LAN接続を使っている場合は、アクセスポイント、ルーターを確認してください。

[264] 困ったときは ｜ AirPlay

AVレシーバーでAirPlayができない

- iPhone/iPad/iPodまたはiTunesのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- AVレシーバーのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
- AirPlay対応機器とAVレシーバーの接続が切れている可能性があります。AirPlay対応機器、AVレシーバーを再起動してください。

[265] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

ペアリングができない

- BLUETOOTH機器をAVレシーバーに近付けてください。
- 他のBLUETOOTH機器がAVレシーバーの周りにあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- BLUETOOTH機器で入力したパスキーと同じパスキーを正しく入力してください。

[266] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHモードが正しく選ばれているか確認してください。
- 接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していないため、AVレシーバーとつなぐことができません。
- AVレシーバーのBLUETOOTHを押して、前回つないだBLUETOOTH機器につないでください。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ペアリング登録情報が消去されています。もう一度ペアリング操作を行ってください。
- BLUETOOTH機器につないでいるときは、AVレシーバーは検出されません。
- BLUETOOTH機器のペアリング登録情報を消去し、もう一度ペアリング操作を行ってください。

[267] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

音が飛んだり変動したりする、または接続が切れる

- AVレシーバーとBLUETOOTH機器が離れすぎています。
- AVレシーバーとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、AVレシーバーとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器がAVレシーバーの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。

[268] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

BLUETOOTH機器の音源が聞けない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、◿ +（または本体のMASTER VOLUMEつまみ）を使って音量を調節してください。

[269] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

ハム音またはノイズがひどい

- AVレシーバーとBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、AVレシーバーとBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁放射線を放出する機器がAVレシーバーの近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
- つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。

[270] 困ったときは ｜ BLUETOOTH機器

SongPalを使ってAVレシーバーを操作できない

- AVレシーバーの電源を入れてからネットワークに接続するまでに時間がかかることがあ

ります。しばらく時間をおいてから、もう一度お試しください。
- お使いのスマートフォン／タブレットが、AVレシーバーと同じネットワークに接続されていないか、ネットワークに接続されているAVレシーバーを見つけるまでに時間がかかっています。同じネットワークに接続して、しばらくお待ちください。
- 「ホームネットワーク上のコントローラー機器やアプリをAVレシーバーに接続できない」もご参照ください。
- SongPalのヘルプもご確認ください。

[271] 困ったときは ｜ “ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- HDMI接続を確認してください。
- HDMI設定メニューで［HDMI機器制御］が［入］に設定されていることを確認してください。
  ［HDMI機器制御］を［入］にできない場合は、［HDMI出力Bモード］が［メイン］に設定されていることを確認してください。
- つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認してください。つないだ機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- HDMIケーブルを抜いた、または接続を変えた場合は、「“ブラビアリンク”の準備をする」の手順をくり返してください。
- ［HDMI機器制御］が［切］に設定されているときは、機器をHDMI IN端子につないでいる場合でも、“ブラビアリンク”は正しく機能しません。
- “ブラビアリンク”で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
  - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）： 3台まで
  - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）： 3台まで
  - チューナー関連機器： 4台まで （このうちの1台は、AVレシーバーのメニュー操作に使用します。）
  - オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）： 1台まで
- お使いのテレビがHDMI OUT A（テレビ）端子に接続されているか確認してください。
- HDMI OUTPUTが［HDMI A］または［HDMI A+B］に設定されているか確認してください。

[272] 困ったときは ｜ “ブラビアリンク”（HDMI機器制御）

AVレシーバーにつないだスピーカーからテレビの音が聞こえない

- HDMI設定メニューで［HDMI機器制御］が［入］に設定されていることを確認してください。
- TV入力の［入力モード］が［自動］に設定されているか確認してください。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているか確認してください。お使いのテレビのHDMI入力に「ARC」ラベルが付いているか確認してください。
- お使いのテレビに複数のHDMI入力端子がある場合は、AVレシーバーがARC機能に対応する端子に接続されているか確認してください。
- お使いのテレビがHDMI OUT A（テレビ）端子に接続されているか確認してください。
- HDMI OUTPUTが［HDMI A］または［HDMI A+B］に設定されているか確認してください

MHL対応機器が充電できない

- AVレシーバーの電源が入っているか確認してください。
- 機器が確実に接続されているか確認してください。

MHL対応機器からの映像を表示できない

- 機器の設定を確認してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- 機器がMHLケーブルでHDMI/MHL（VIDEO 2 IN）またはHDMI IN SAT/CATV（MHL）端子に接続されているか確認してください。
- MHLのロゴが付いた正規のMHLケーブルをお使いください。

リモコンで操作できない

リモコンをAVレシーバーのリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンとAVレシーバーの間にある障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

[276] 困ったときは ｜ 解決しないときは

お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順にしたがって、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。初めてお使いになるときも、下記の手順で初期化することができます。
この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 電源を切る。
2. 本体の I/⏻（電源オン／スタンバイ）を5秒間押し続ける。
表示窓にしばらく［CLEARING］が点滅したあと、表示が［CLEARED !］に変わります。

ご注意

- メモリーが完全に消去されるのに数分かかることがあります。表示窓に［CLEARED !］が表示されるまで、電源を切らないでください。

[277] 困ったときは ｜ 解決しないときは

音場（サウンドフィールド）を初期設定状態に戻す

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

1. 電源を切る。
2. MUSICを押しながら I/⏻（電源オン／スタンバイ）を押す。
［S.F. CLEAR］が表示窓に表示され、すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

[278] 困ったときは ｜ 解決しないときは

カスタマーサポートウェブサイト

AVレシーバーの最新情報について詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

http://www.sony.jp/support/audio/

商標について

- 本機はドルビー（＊）デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS（＊＊）（DTS-ESおよびDTS 96/24）デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。

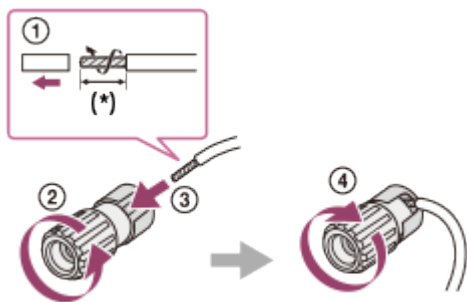
  ＊ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

  ＊＊ DTS特許については、下記のウェブサイトをご覧ください。
  http://patents.dts.com
  DTS Licensing Limitedに基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせは登録商標です。また、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。 © DTS, Inc. All Rights Reserved.
- 本機はHigh-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、Apple ロゴ、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch、及びRetina は、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。iPad Air 及びiPad mini は、Apple Inc. の商標です。
  「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
  App Store はApple Inc. のサービスマークです。
- 「Made for iPod」「Made for iPhone」「Made for iPad」とは、それぞれiPod、iPhone、iPad専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
  アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品をiPod、iPhone、又はiPadと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。
- Windows Mediaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品にはMicrosoft Corporationの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft およびMicrosoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

- LDAC™ およびLDAC ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- “DSEE HX”はソニー株式会社の商標です。
- 本機はFraunhofer IIS およびThomson のMPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- “x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- “ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- “PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®およびWi-Fi Alliance®、およびWi-Fi CERTIFIED Miracast®は、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™および、Wi-Fi Protected Setup™およびMiracast™は、Wi-Fi Alliance®の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™ロゴはWi-Fi Alliance®の認証マークです。
- MHL、Mobile High-Definition LinkおよびMHLロゴは、MHL Licensing, LLCの商標もしくは登録商標です。
- BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他すべての商標および商号は各社の所有物です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Android™はGoogle Inc.の商標です。
- Google Play™はGoogle Inc.の商標です。
- Google CastはGoogle Inc.の商標です。
- その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、®マークは明記していません。

本機には、GNU General Public License（“GPL”）または GNU Lesser General Public License（“LGPL”）の適用を受けるソフトウエアが含まれております。このため、お客様にはGPL/LGPLの条件に従って、これらのソフトウエアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
GPLまたはLGPL, その他、本機に含まれるソフトウエアのライセンスについて、詳しくは本機の［Setup］メニューの ［システム設定］の［ソフトウエアライセンス］をご覧ください。
また、本機に含まれるGPL/LGPLの適用を受けるソフトウエアのソースコードは、Webで提供しております。ダウンロードするには、以下のURLへアクセスしてください。
URL：http://oss.sony.net/Products/Linux
ただし弊社では、このソースコードの内容に関する質問には一切お答えできません。

スピーカーケーブルのつなぎかた

下図のようにスピーカーケーブルをつないでください。

* スピーカーケーブル両端の被覆を10 mmはがしてください。

アクティブサブウーファーの設定を確認する

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、アクティブサブウーファーをお使いになる前にアクティブサブウーファーの電源を入れて、音量を上げておいてください。
  音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。

- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、設定値を最大に設定してください。

- 自動電源オフ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、自動電源オフ機能を切（無効）にしてください。
  詳しくは、アクティブサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

A.F.D./2CHサウンドモード

- **A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モード：** より忠実度の高い音声を聞いたり、2チャンネルステレオ音源またはモノラル音源をマルチチャンネル音声で聞くためのデコードモードを選んだりすることができます。
- **2CH（2チャンネル）サウンドモード：** お使いのソフトウェアの記録フォーマットや、つないだ再生機器、音場（サウンドフィールド）の設定などに関係なく、2チャンネル音声出力に切り替えることができます。

2chステレオ（2CH ST.）：

フロント左／右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全にバイパスし、マルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

アナログダイレクト（A. DIRECT）：

選んでいる入力の音源を、2チャンネルのアナログ入力に切り替えます。この機能を使って、高品質のアナログ音源を楽しむことができます。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのレベルのみ調節できます。

オートフォーマットダイレクト（A.F.D.）：

サラウンド効果を加えず、録音またはエンコードされたままの音源として処理します。

マルチステレオ（MULTI ST.）：

2チャンネルの左／右の信号またはモノラル音源をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

ご注意

- BD/DVD、GAME、VIDEO 2、BLUETOOTH、USB、Home Network、Music Services、AirPlay、またはスクリーンミラーリングを使っているときは、［アナログダイレクト］は選べません。
- マルチチャンネル音声信号を受信しているときは、［マルチステレオ］は働きません。
- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、［A.F.D.: オートフォーマットダイレクト］を選び、5.1チャンネルの音源を再生すると、音声フォーマットによっては、7.1チャンネルのサラウンドシステムのときのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。

［Movie］モード

あらかじめ設定されている音場（サウンドフィールド）を選ぶだけで、簡単にサラウンド音

声を楽しめます。ご自宅で映画館の臨場感にあふれた迫力のある音声を再現できます。

HDデジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）：

HD デジタル・シネマ・サウンド（HD-D.C.S.）は、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。
このモードにより、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時に映画制作エンジニアが意図した最良の音場も楽しめます。

- **ダイナミック（DYNAMIC）：** 残響は多い反面、広い音場感の乏しい環境（音が充分に吸収されていない環境）向けです。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館を再現します。どのような環境でもダビングスタジオのような広さを強調し、独特の音場感を作り出します。
- **シアター（THEATER）：** 一般のリビングルーム向けです。 映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。 ブルーレイディスクに記録されたコンテンツを映画館の雰囲気で鑑賞するのに最適です。
- **スタジオ（STUDIO）：** 適切な音響機器を備えたリビングルームに適しています。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスする際の残響感を再現します。反射音や残響音は最低限のレベルに抑えています。ただし、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

ドルビープロロジックII Movie（PLII Movie）：

ドルビープロロジック II ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビーサラウンドにエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画のビデオなどを見るときにも、音源を5.1チャンネルで再生できます。

ドルビープロロジックIIx Movie（PLIIx Movie）：

ドルビープロロジック IIx ムービーモードのデコード処理を行います。この設定は、ドルビープロロジック II ムービーまたはドルビーデジタル5.1を、7.1チャンネルのディスクリートチャンネルに拡張します。

Neo6: シネマ（Neo6: Cinema）（Neo:6 CIN）：

DTS Neo:6 シネマモードのデコード処理を行います。2チャンネルのフォーマットで録音された音源を最大7チャンネルに拡張します。

［Music］モード

あらかじめ設定されている音場（サウンドフィールド）を選ぶだけで、簡単にサラウンド音声を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

コンサートホールA（Concert Hall A）（HALL A）：

明瞭な反響が特徴的なベルリンのヴィンヤード型のコンサートホールを再現します。

コンサートホールB（Concert Hall B）（HALL B）：
漆喰の壁を持つアムステルダムのシューボックス型コンサートホールを再現します。

コンサートホールC（Concert Hall C）（HALL C）：
ウィーンにある木造のシューボックス型のコンサートホールを再現します。

ジャズクラブ（Jazz Club）（JAZZ）：
ジャズクラブの音響を再現します。

ライブハウス（Live Concert）（CONCERT）：
300席のライブハウスの音響を再現します。

スタジアム（Stadium）（STADIUM）：
広々とした屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

スポーツ（Sports）（SPORTS）：
スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

ポータブルオーディオ（Portable Audio）（PORTABLE）：
DSEE HX（Digital Sound Enhancement Engine HX）によりCD音源や圧縮音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケールします。DSEE-HXは、サンプリング周波数が44.1 kHzまたは48 kHzの2チャンネル音源にのみ働きます。ただし、Airplay再生時には、働きません。

ドルビープロロジックII Music（PLII Music）：
ドルビープロロジック II ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

ドルビープロロジックIIx Music（PLIIx Music）：
ドルビープロロジック IIx ミュージックモードのデコード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

Neo:6 ミュージック（Neo6: Music）（Neo:6 MUS）：
DTS Neo:6 ミュージックモードのデコード処理を行います。2チャンネルのフォーマットで録音された音源を最大7チャンネルに拡張します。CDなど通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいるときは

この音場（サウンドフィールド）は、本体前面のPHONES端子にヘッドホンを接続しているときのみ選択できます。

ヘッドホン（2ch）（HP 2CH）：

ヘッドホンを接続しているときは自動的に選ばれます（［アナログダイレクト］を除く）。通常の2チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは2チャンネルにダウンミックスされます。

ヘッドホン（ダイレクト）（HP DIRECT）：
［アナログダイレクト］が選ばれているときにヘッドホンを接続すると、自動的に選ばれます。
イコライザー、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ信号を出力します。

つないだBLUETOOTH機器の情報を確認する

本体のDISPLAY MODEボタンをくり返し押して、BLUETOOTH機器の情報を確認できます。
DISPLAY MODEボタンを押すたびに表示が次のように切り替わります。
BLUETOOTH機器名 - 最近適用した音場（サウンドフィールド） - 音量レベル - 選んだ入力

メニュー一覧（表示窓）

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。

自動音場補正設定［<AUTO CAL>］

- **自動音場補正開始［A.CAL START］**
- **自動音場補正の種類［CAL TYPE］**（＊1）
  FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF
- **自動位相マッチング［A.P.M.］**（＊1）
  A.P.M. AUTO、A.P.M. OFF

レベル設定［<LEVEL>］

- **テストトーン［TEST TONE］**（＊2）
  OFF、AUTO XXX（＊3）、FIX XXX（＊3）
- **テストトーンPhase Noise［P. NOISE］**（＊2）
  OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SBL/SL、SB/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR
- **テストトーンPhase Audio［P. AUDIO］**（＊2）
  OFF、FL/FR、FL/CNT、CNT/FR、FR/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SBL/SL、SB/SL、SL/FL、LH/RH、FL/SR、SL/FR、FL/RH、LH/FR

- **フロントスピーカー（左）レベル［FL LEVEL］**（＊2）
  FL -10.0 dB ～ FL +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **フロントスピーカー（右）レベル［FR LEVEL］**（＊2）
  FR -10.0 dB ～ FR +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **センタースピーカーレベル［CNT LEVEL］**（＊2）
  CNT -10.0 dB ～ CNT +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サラウンドスピーカー（左）レベル［SL LEVEL］**（＊2）
  SL -10.0 dB ～ SL +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サラウンドスピーカー（右）レベル［SR LEVEL］**（＊2）
  SR -10.0 dB ～ SR +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サラウンドバックスピーカーレベル［SB LEVEL］**（＊2）
  SB -10.0 dB ～ SB +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サラウンドバックスピーカー（左）レベル［SBL LEVEL］**（＊2）
  SBL -10.0 dB ～ SBL +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サラウンドバックスピーカー（右）レベル［SBR LEVEL］**（＊2）
  SBR -10.0 dB ～ SBR +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **フロントハイスピーカー（左）［LH LEVEL］**（＊2）
  LH -10.0 dB ～ LH +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **フロントハイスピーカー（右）レベル［RH LEVEL］**（＊2）
  RH -10.0 dB ～ RH +10.0 dB（0.5 dB単位）
- **サブウーファーレベル［SW LEVEL］**（＊2）
  SW -10.0 dB ～ SW +10.0 dB（0.5 dB単位）

スピーカー設定［<SPEAKER>］

- **スピーカー パターン［SP PATTERN］**
  5/2.1 ～ 2/0（20パターン）
- **天井埋め込みスピーカーの高さ［CEILING H.］**
  2.00 m ～ 10.00 m（6′6″ ～ 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **センタースピーカーリフトアップ［CNT LIFT］**（＊4）
  LIFT 1 ～ LIFT 10、LIFT OFF
- **フロントスピーカーサイズ［FRT SIZE］**（＊2）
  LARGE、SMALL
- **センタースピーカーサイズ［CNT SIZE］**（＊2）
  LARGE、SMALL
- **サラウンドスピーカーサイズ［SUR SIZE］**（＊2）
  LARGE、SMALL
- **フロントハイスピーカーサイズ［FH SIZE］**（＊2）
  LARGE、SMALL
- **サラウンドスピーカーの割り当て［SUR ASSIGN］**（＊5）
  OFF、ZONE3
- **サラウンドバックスピーカーの割り当て［SB ASSIGN］**（＊6）
  SPK B、ZONE2、BI-AMP、OFF
- **フロントスピーカー（左）までの距離［FL DIST.］**（＊2）

FL 1.00 m ～ FL 10.00 m（FL 3′3″ ～ FL 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）

- **フロントスピーカー（右）までの距離［FR DIST.］**（＊2）
  FR 1.00 m ～ FR 10.00 m（FR 3′3″ ～ FR 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **センタースピーカーまでの距離［CNT DIST.］**（＊2）
  CNT 1.00 m ～ CNT 10.00 m（CNT 3′3″ ～ CNT 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **サラウンドスピーカー（左）までの距離［SL DIST.］**（＊2）
  SL 1.00 m ～ SL 10.00 m（SL 3′3″ ～ SL 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **サラウンドスピーカー（右）までの距離［SR DIST.］**（＊2）
  SR 1.00 m ～ SR 10.00 m（SR 3′3″ ～ SR 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **サラウンドバックスピーカーまでの距離［SB DIST.］**（＊2）
  SB 1.00 m ～ SB 10.00 m（SB 3′3″ ～ SB 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **サラウンドバックスピーカー（左）までの距離［SBL DIST.］**（＊2）
  SBL 1.00 m ～ SBL 10.00 m（SBL 3′3″ ～ SBL 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **サラウンドバックスピーカー（右）までの距離［SBR DIST.］**（＊2）
  SBR 1.00 m ～ SBR 10.00 m（SBR 3′3″ ～ SBR 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **フロントハイスピーカー（左）までの距離［LH DIST.］**（＊2）
  LH 1.00 m ～ LH 10.00 m（LH 3′3″ ～ LH 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **フロントハイスピーカー（右）までの距離［RH DIST.］**（＊2）
  RH 1.00 m ～ RH 10.00 m（RH 3′3″ ～ RH 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **アクティブサブウーファーまでの距離［SW DIST.］**（＊2）
  SW 1.00 m ～ SW 10.00 m（SW 3′3″ ～ SW 32′9″）（0.01 m（1インチ）単位）
- **距離表示の単位［DIST. UNIT］**
  FEET、METER
- **フロントスピーカーのクロスオーバー周波数［FRT CROSS］**（＊7）
  CROSS 40 Hz ～ CROSS 200 Hz（10 Hz単位）
- **センタースピーカーのクロスオーバー周波数［CNT CROSS］**（＊7）
  CROSS 40 Hz ～ CROSS 200 Hz（10 Hz単位）
- **サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数［SUR CROSS］**（＊7）
  CROSS 40 Hz ～ CROSS 200 Hz（10 Hz単位）
- **フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数［FH CROSS］**（＊7）
  CROSS 40 Hz ～ CROSS 200 Hz（10 Hz単位）

入力設定［<INPUT>］

- **入力モード［INPUT MODE］**
  AUTO、OPT、COAX、ANALOG
- **入力に名前を付ける［NAME IN］**
  詳しくは、入力設定メニューの「各入力の名前を変更する（名前）」をご覧ください。
- **デジタル音声入力端子割り当て［A. ASSIGN］**
  OPT 1、OPT 2、COAX、NONE
- **コンポーネント映像入力端子割り当て［V. ASSIGN］**
  COMP、NONE

サラウンド設定［<SURROUND>］

- **HD-D.C.S. エフェクトタイプ［HD-D.C.S. TYP］**（＊8）
  DYNAMIC、THEATER、STUDIO

イコライザ設定［<EQ>］

- **フロントスピーカーの低域レベル［FRT BASS］**
  FRT B. -10 dB ～ FRT B. +10 dB（1 dB単位）
- **フロントスピーカーの高域レベル［FRT TREBLE］**
  FRT T. -10 dB ～ FRT T. +10 dB（1 dB単位）
- **センタースピーカーの低域レベル［CNT BASS］**
  CNT B. -10 dB ～ CNT B. +10 dB（1 dB単位）
- **センタースピーカーの高域レベル［CNT TREBLE］**
  CNT T. -10 dB ～ CNT T. +10 dB（1 dB単位）
- **サラウンドスピーカーの低域レベル［SUR BASS］**
  SUR B. -10 dB ～ SUR B. +10 dB（1 dB単位）
- **サラウンドスピーカーの高域レベル［SUR TREBLE］**
  SUR T. -10 dB ～ SUR T. +10 dB（1 dB単位）
- **フロントハイスピーカーの低域レベル［FH BASS］**
  FH B. -10 dB ～ FH B. +10 dB（1 dB単位）
- **フロントハイスピーカーの高域レベル［FH TREBLE］**
  FH T. -10 dB ～ FH T. +10 dB（1 dB単位）

ゾーン設定［<ZONE>］

- **ゾーン2音声出力モード［Z2 LINEOUT］**
  FIXED、VARIABLE

チューナー設定［<TUNER>］

- **FM放送局の受信モード［FM MODE］**
  STEREO、MONO
- **プリセットした放送局に名前を付ける［NAME IN］**
  詳しくは、「登録した局名を変更する（局名変更）」をご覧ください。

音声設定［<AUDIO>］

- **インシーリングスピーカーモード［IN-CEILING］**
  MODE ON、MODE OFF
- **デジタル・レガート・リニア［D.L.L.］**
  D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF
- **サウンド・オプティマイザー［OPTIMIZER］**
  NORMAL、LOW、OFF
- **LFE 時間調整［LFE TIME］**
  0 ms ～ 20 ms（0.5 ms単位）
- **映像と音声のずれを調節する［A/V SYNC］**
  HDMI AUTO、0 ms ～ 300 ms（10 ms単位）

- **音量自動調整［AUTO VOL］**
  A. VOL ON、A. VOL OFF
- **アクティブサブウーファーのローパスフィルター［SW L.P.F.］**
  L.P.F. ON、L.P.F. OFF
- **デジタル放送言語選択［DUAL MONO］**
  MAIN/SUB、MAIN、SUB
- **ダイナミックレンジの圧縮［D. RANGE］**
  COMP. ON、COMP. AUTO、COMP. OFF

HDMI設定［<HDMI>］

- **4Kアップスケール［4K SCALING］**
  AUTO、OFF
- **HDMI機器制御［CTRL: HDMI］**
  CTRL ON、CTRL OFF
- **スタンバイスルー［STBY THRU］**
  ON、AUTO、OFF
- **HDMI出力Bモード［OUTB MODE］**
  MAIN、ZONE
- **HDMI出力優先端子［PRIORITY］**
  MAIN&ZONE、MAIN ONLY
- **HDMI音声出力［AUDIO OUT］**
  AMP、TV+AMP
- **サウンドフィールド［SOUND.FIELD］**
  AUTO、MANUAL
- **HDMIサブウーファーレベル［SW LEVEL］**
  SW AUTO、SW +10 dB、SW 0 dB
- **高速入力切替［FAST VIEW］**
  AUTO、OFF
- **MHL機器自動入力切替［MHL.AUTO IN］**
  ON、OFF

BLUETOOTH設定［<BT>］

- **Bluetoothモード［BT MODE］**（＊9）
  RECEIVE、TRANSMIT、OFF
- **Bluetooth音声フォーマット - AAC［BT AAC］**（＊10）
  AAC ON、AAC OFF
- **Bluetooth音声フォーマット - LDAC［BT LDAC］**（＊10）
  LDAC ON、LDAC OFF
- **ワイヤレス再生品質［QUALITY］**（＊11）
  AUTO、SOUND、STANDARD、CONNECTION
- **Bluetoothスタンバイモード［BT STANDBY］**（＊10）
  STBY ON、STBY OFF

システム設定［<SYSTEM>］

- **リモート起動［RM START］**
  ON、OFF
- **自動電源オフ［AUTO STBY］**
  STBY ON、STBY OFF
- **高速起動/ネットワークスタンバイ［QUICK.START］**
  MODE ON、MODE OFF
- **バージョン表示［VERSION］**（＊12）
  xxx.x.xxxx
- **スリープタイマー［SLEEP］**
  OFF - 0:30:00 - 1:00:00 - 1:30:00 - 2:00:00

＊[1] 自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選べます。

＊[2] スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターや設定があります。

＊[3] XXXにはスピーカーチャンネルが入ります
（FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、LH、RH、SW）。

＊[4] フロントハイスピーカーありの［SP PATTERN］に設定しているときにのみ、このパラメーターを選べます。（例：5/2.1、5/2、4/2.1、4/2）

＊[5] サラウンドスピーカーありの［SP PATTERN］に設定していないときにのみ、このパラメーターを選べます。（例：3/0.1、3/0, 2/0.1、2/0）

＊[6] サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーありの［SP PATTERN］に設定していないときにのみ、このパラメーターを選べます。（例：
3/2.1、3/2、2/2.1、2/2、3/0.1、3/0, 2/0.1、2/0）

＊[7] スピーカーが［SMALL］に設定されているときのみ、このパラメーターを選べます。

＊[8] 音場（サウンドフィールド）を［HD-D.C.S.］に設定しているときのみ、このパラメーターを選べます。

＊[9] AVレシーバーの入力が［Bluetooth］または［Screen mirroring］に設定されているときは、このパラメーターを選べません。

＊[10] ［Bluetoothモード］を［切］に設定しているときは、このパラメーターを選べません。

＊[11] ［Bluetoothモード］を［送信］、［Bluetooth音声フォーマット - LDAC］を［入］に設定しているときにのみ、このパラメーターを選べます。

＊[12] xxx.x.xxxxにはソフトウェアのバージョンナンバーが入ります。

ホームネットワーク対応リスト

対応音楽フォーマット（＊1）

MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3):

.mp3

AAC/HE-AAC（＊2）：

.m4a

WMA9 Standard（＊2）：

.wma

LPCM:

.wav

FLAC（＊2）：

.flac, .fla

DSF（＊2）：

.dsf

DSDIFF（＊2）（＊3）：

.dff

AIFF（＊2）：

.aiff, .aif

ALAC（＊2）：

.m4a

対応写真フォーマット

JPEG:

.jpeg, .jpg, jpe

PNG（＊4）：

.png

GIF（＊4）：

.gif

＊1 あらゆるエンコード／ライティングソフトウェア、録音機器、記録媒体との互換性を保証するものではありません。

＊2 ホームネットワークサーバー上のファイルは再生できません。

＊3 DSTでエンコードされたファイルは再生できません。

＊4 PNGまたはGIFアニメーションファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルフォーマット、エンコード、録音状態、あるいはホームネットワークサーバーの状況によって、ファイルが再生できないことがあります。
- コンピュータ上で編集されたファイルは、再生できないことがあります。
- ファイルによっては、早送り、早戻しができないことがあります。
- 3Dフォトファイルは再生できません。
- DRM（Digital Rights Management） 著作権保護付きやLosslessなどでコーディングされた音源は、再生できません。
- ホームネットワークサーバーに保存された以下のファイルやフォルダーを認識すること

ができます。

- 19階層までのフォルダー
- 1階層につき、999までのファイル／フォルダー

テストトーンを出力して隣り合ったスピーカーのバランスを調節する（Phase Noise）

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力して、スピーカー間のバランスを調節することがで きます。
AVレシーバーの前面の表示窓を使って操作できます。

1. AMP MENUを押す。
   AVレシーバーの表示窓にメニューが表示されます。
2. ［<LEVEL>］（レベル設定） - ［P.NOISE］の順に選ぶ。
3. テストトーンを出力するスピーカーを選ぶ。
   選んだスピーカーからテストトーンが出力されます。
4. 本体のMASTER VOLUMEつまみを回してスピーカーのレベルを調節する。

調整できるスピーカー：

FL/FR（フロント（左）／フロント（右））
FL/CNT（フロント（左）／センター）
CNT/FR（センター／フロント（右））
FR/SR（フロント（右）／サラウンド（右））
SR/SBR（サラウンド（右）／サラウンドバック（右））
SR/SB（サラウンド（右）／サラウンドバック)
SBR/SBL（サラウンドバック（右）／サラウンドバック（左））
SR/SL（サラウンド（右）／サラウンド（左））
SBL/SL（サラウンドバック（左）／サラウンド（左））
SB/SL（サラウンドバック／サラウンド（左））
SL/FL（サラウンド（左）／フロント（左））
LH/RH（フロントハイ（左）／フロントハイ（右））
FL/SR（フロント（左）／サラウンド（右））
SL/FR（サラウンド（左）／フロント（右））
FL/RH（フロント（左）／フロントハイ（右））
LH/FR（フロントハイ（左）／フロント（右））

ご注意

- 接続されているスピーカー構成によっては表示されない項目もあります。
- この機能は、以下の以外の操作を行った場合にキャンセルされます。
  - 音量調節
  - 各スピーカーのレベル調節
  - 消音機能の入／切
- この機能は、［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは働きません。

ヒント

- Phase Noise 機能を無効にするには、手順3 で［切］を選びます。

音源を出力してスピーカーのバランスを調節する（Phase Audio）

隣り合うスピーカーから音源を出力して、スピーカー間のバランスを調節することができます。
AVレシーバーの前面の表示窓を使って操作できます。

1. AMP MENUを押す。
   AVレシーバーの表示窓にメニューが表示されます。
2. ［<LEVEL>］（レベル設定） - ［P.AUDIO］の順に選ぶ。
3. 音源を出力するスピーカーを選ぶ。
   隣り合うスピーカーから順次、フロント2チャンネルの音源が出力されます。
4. 本体のMASTER VOLUMEつまみを回してスピーカーのレベルを調節する。

調整できるスピーカー：

FL/FR（フロント（左）／フロント（右））
FL/CNT（フロント（左）／センター）
CNT/FR（センター／フロント（右））
FR/SR（フロント（右）／サラウンド（右））
SR/SBR（サラウンド（右）／サラウンドバック（右））
SR/SB（サラウンド（右）／サラウンドバック）
SBR/SBL（サラウンドバック（右）／サラウンドバック（左））
SR/SL（サラウンド（右）／サラウンド（左））
SBL/SL（サラウンドバック（左）／サラウンド（左））
SB/SL（サラウンドバック／サラウンド（左））
SL/FL（サラウンド（左）／フロント（左））
LH/RH（フロントハイ（左）／フロントハイ（右））

FL/SR（フロント（左）／サラウンド（右））
SL/FR（サラウンド（左）／フロント（右））
FL/RH（フロント（左）／フロントハイ（右））
LH/FR（フロントハイ（左）／フロント（右））

ご注意

- 接続されているスピーカー構成によっては表示されない項目もあります。
- この機能は、以下の以外の操作を行った場合にキャンセルされます。
  - 音量調節
  - 各スピーカーのレベル調節
  - 消音機能の入／切
- この機能は、［Bluetoothモード］が［送信］に設定されているときは働きません。

ヒント

- Phase Noise機能を無効にするには、手順3で［切］を選びます。